

ロータリー
の
歴史に学ぶ

「ロータリーの歴史に学ぶ」の発刊に添えて

まずはこのような素晴らしい冊子を発刊されましたことに賛辞と謝辞を申し上げます。丁寧に歴史を検証し、ロータリーの誕生を興味深く示され、何よりも「ロータリーが偶然にできたのではなく、必然的に発生した」ことを感じさせる記述内容です。ポール・ハリス氏は「ロータリーのような運動の発芽期として 20 世紀初頭ほど絶好の時期はありませんでした」と言われています。そして、ロータリーを語るときに忘れてはならないのは、創始者ポール・ハリス氏の生い立ち、人生観であります。それを知ることによってロータリーの本質に近づくことができるのです。さらにポール・ハリス氏とともにロータリーの発展に重要な役割を果たしたアーサー・シェルドン氏の活動についても記述されました。また「決議 23-34」、「四つのテスト」、「日本ロータリーの誕生」、「関東大震災」、「大連宣言」など多彩な項目が解りやすくまとめられています。

読み通しますと、先輩ロータリアンの苦悩や対立、喜び、友愛などが肌に伝わってきました。親睦から奉仕への道程、国境を越えた拡大、ロータリー倫理訓への批判、国際 RC 連合会の結成、RI への移行、二つの世界大戦を乗り越えたこと、そして二つの service 論の対立、ロータリー Objects の改訂など、これから新しいロータリー像を考える上で大いに参考にしたいと思っています。

日本人初のロータリアンであり、東京 RC の創設に尽力し、大阪 RC を創設した福島喜三次氏や、東京 RC の初代会長米山梅吉氏、日本のロータリーの歴史についても解りやすく記述されています。

I 部、II 部、III 部の構成で、ひとつひとつは会長の時間にちょうど良い長さ、シリーズでまとめると卓話にちょうど良い長さ、週報にも活用できる見事な構成になっていることに感服しました。読者のロータリアンもご自身だけでなく、クラブ内の討議にうまく活用されることを望みます。

最後に、このような多方面への主張を含む話題の多い冊子を刊行されましたことに、改めて深く感銘を受けました。

国際ロータリー第 2660 地区

2014 - 2015 年度ガバナー

泉 博 朗

まえがき

最初に申し上げます。

ロータリーの歴史を綴る優れた著述が英語＝翻訳版でも、本邦の先達の手になる書物でも多数存在する中で、私どものような未熟者の集まりが歴史を語るなどという、大それた企画を持ったわけでは決してありません。

、2012年7月、当ロータリー・クラブ第15代会長 松浦利英がクラブ研修の一環として、例会毎に短時間でロータリーの歴史を学ぶプログラムを採用しました。そこでクラブ研修リーダーの山片重房が中心となって資料作成に努め、その記事を“知恵の泉 Stock of Knowledge”に因んでMinistock……と名付けて週報（基本：1/4頁サイズ）に掲載しました。翌年、副幹事の北山治信がその記事をフェイスブックに乗せて友人に配信したところ、思いがけない評判を呼び、短期間に1000人を超える受信グループが出来上がるとともに、北海道、九州といった遠隔地の複数のクラブがその記事をそれぞれの週報に掲載するという事態に発展しました。

そこで第16代会長 山本昌宏が周りの要望に応じて出版計画を立案し、第17代会長 小寺史郎から第18代会長 西村俊彦にかけての2年間に、クラブ全員の協力のもとに新しい冊子の作成に努めたものです。

本冊子は出版企画に際して、週報掲載記事内容に少々の補足と追加を致しましたが、当初の目的通り、これはロータリアンが個人的にロータリーの歴史の中から何かを学び取るための資料にすぎません。そのため、記事内容の取り上げ方には歴史的にみて偏りや、また、本邦における従来の解釈とは異なるものもあると思います。とくに、世界に向かって急速に膨張していった1920年代のロータ

リーには、定款 Objects に二つの “ideal of service” が登場し、それらを支持するロータリアンの対立と、ロータリー活動一本化への厳しい動きがありました。その過程で Vocational Service という活動方針が提示され、それを基に重要な内容の変更を含む 1935 年の定款 Objects が制定されました。これらの歴史経過については、従来の書籍では殆ど関心の対象とされてきませんでしたが、本冊子では関連資料を解析して、私たち自身が納得できる解釈を追及しました。

ロータリーの歴史書はポール・ハリスの原著を除き、多くは伝聞記録です。歴史書はその時、その場にいなかった人が書くものですから、本質的に伝聞記事であって、多くの人の記憶違い、判断の誤り、記録違いが入ってくる可能性があります。さらに翻訳書には、どんなに注意しても解釈・表現上の見解の相違を避けられません。それ故に、年月・事象・数値などについては複数の記録を比較・検討し、翻訳書の一部内容については、原著との対比によって記事の正確さを求めました。

それでも尚、資料として絶対的に正確であるとの自信を持つには到底至りません。本冊子を世に問うことによって、記述内容の誤りを正し、足らずを補い、不要部分を削除して、より良い研修資料作りを目指したいと願っています。多くのロータリアン諸先輩および同輩諸氏に目を通して頂き、貴重なご意見を賜りますれば、私どもの責任として、それらのご教示・ご助言・ご意見を生かして改訂作業に取り掛かることを誓います。

編纂・出版委員会

(1) 英文法上の解釈

・可算／不可算名詞

英語名詞の多くには二つの意味があります。例えば、a room / rooms は“部屋”を意味しますが。冠詞のない単数形 room は“余地”の意味になります。前者を数えられる名詞（可算名詞 countable noun）、後者を数えられない名詞（不可算名詞 uncountable noun）と言い、辞書にはそれぞれ c、u と記されています。

両者を見分ける決め手は、基本的に、名詞に冠詞があるか複数形であれば可算名詞 c であり、裸の単数形であれば不可算名詞 u ですから、それぞれ辞書の中の c、u として記載している訳語がその英単語の意味になります。この区分は単なる名詞分類の一つではなく、実際にその語の意味を読み取る際の機能上の役割に即した分類であり、英文を正しく理解する上に不可欠な文法です。

デンマークの英語学者 Jespersen (1860~1943)によって提唱された「可算・不可算名詞」の区分が英米の辞典に採用されたのは第二次世界大戦中(1942年)のことでしたから、日本では戦後しばらくの期間、この文法に関する知識が普及していませんでした。日本の英和辞典に c、u の区分が初めて記載されたのは1965年のこと(旺文社刊)で、1970年以降になると各社の英和辞典に次々と採用されていき、1970年代半ば以降になると、中学校基礎英語として教える基本文法になっています(→資料97)。

それ故に、この時期以降で中学校へ進んだ人(1962年生まれ以降の人)は、可算／不可算名詞を学んだ記憶をもっていますが、それ以前に中学教育を終えた人(1960年生まれ以前の人)は、原則としてこの知識を持っていません。RI日本支局・翻訳室のスタッフ並びに翻訳諮問委員の方々は、優れた英語力をお持ちの方々でしたが、年齢的には後者に属するので、可算／不可算名詞に関する知識だけがすっぱり抜けていて、ロータリーにおける定款 Object および関連文書についての誤訳が発生してきました。

本冊子ではこれらを修正して記述します。主要な名詞の一例は下記の通りです。
[誤りやすい名詞訳の例]

可算名詞 c	不可算名詞 u
a fellowship 団体	fellowship 親睦
an acquaintance 知り合い、知人	acquaintance 交友関係、人間関係
an enterprise 企業、会社	enterprise 企業活動
an occupation …… でなされた仕事	occupation 職業、業務

・常用省略形

航空機の座席の背に Fasten Seatbelt While Seated（ご着席中はシートベルトをお締め下さい）と書いてあります。ここでは誰もが While と Seated との間に You Are が省略されていると理解していますが、これを英語特有の「常用省略形」と言って、英文が簡潔でキリッと引き締まった印象を与えます（→資料 97）。

as に続く語節では省略形が常用され、辞書に次のような例文が記されています。

He was a crybaby as a child.（彼は子供のころ泣き虫だった）

ここでは as の後に he was が省略されているとみなされます。

as は when と同様に“とき”を表す接続詞で、when がある瞬間を指すのに対して、as は持続的な経過または漠然とした状況を表す場合に用いられます。

さて、ロータリーの定款 Object の第 1 と第 2 の末尾に上記の常用省略形が用いられた文節があります。

1. The development of acquaintance as an opportunity for service;

2. High ethical standards in business and professions;

the recognition of the worthiness of all useful occupations;

and the dignifying of each Rotarian's occupation

as an opportunity to serve society;

国際 RC 連合時代の条文には

as affording him an opportunity（機会を与えられた際には）

と記されていましたが、RI への移行時以来、アンダーライン部が省略されて、常用省略形となりました。よってここでは、as と an の間に you have が省略されているとみなして、

as (you have) an opportunity for service

奉仕の機会をもった際には ⇒ 奉仕の機会があれば

と訳すことにします。

1. 奉仕の機会があれば、人間関係を発展させること。

2. 社会に奉仕する機会があれば

職業上の高い倫理基準を保ち、

（社会奉仕に）役立つ活動はすべて価値あるものと認識し、

そして、ロータリアン各自が行った活動に誇りを持つこと、

——「常用省略形」について、一般的な英和辞典では、1980 年代以降に出版されたもので説明が明確になっています。従って、ロータリーの邦文定款および関連記事には、この部分の翻訳に大きな混乱があって、不可解な日本語が並んでいます（→資料 96、p.187）。そこで、本冊子で定款文章を引用する際には、上記のように修正して記述しました。

(2) 宗教用語

・ Service :

動詞 serve (奉仕する、仕える) はラテン語の servus (奴隷) に由来する言葉で、キリスト教で service とは“奉仕”、“勤めること”を意味して、人々が用いる英語の意味とは異なる内容でした。日本のキリスト教では、これを「礼拝」「奉仕」と訳し、イエスが神と人にとに仕えたために、キリスト教徒が神と人に仕えることを意味する言葉になりました。

- ① 本来の「神への奉仕」という宗教用語から、教会の救済活動を通じて人に対しても用いられるようになったため、非常にさまざまな意味を持つ言葉になりました。過去の英和辞典では訳語のトップに「奉仕」と記されていましたが、最近の事典では、1) 公共事業 (mail service)、2) 勤務 (police service)、3) 商業サービス (hotel service)、に続いて、4) 役立つこと (尽力、骨折り、奉仕) などと記されていて、「奉仕」という単語は“骨折り”と同義語となるまでに変化しました。

しかしロータリーでは、その活動の神髄を「奉仕」にあり、としているので、本冊子の中でも“社会（の人々）に役立つ無償活動”に対して「奉仕」という訳語を使用することにします (→ p.101)。

- ② 研究社大英和辞典の service の項には「活動 (activity)」という訳語があり、最近の英和辞典の中には、medical service = 医療活動、social service = 社会福祉活動、と記しているものもあります。またライオンズ・クラブの英文定款では、ロータリーの“service”に相当する言葉に“activity”というわかりやすい単語を用い、日本語で「活動」と訳しています。

ロータリーでは下記の「活動の4路線」が英国で考案され、RIに提案されたとき、英文では、ロータリー活動 (activity) を Four Avenues of Service と表現したことが記されています (→ p.97)。そこでロータリー関係の文章中で“○○service”と記述されているところでは、「○○活動」と訳することが正確で、わかりやすい表現だと考えます。

Four Avenues of Service (ロータリー) 活動の4路線

Club Service クラブ活動

Vocational Service ヴォケイション活動

Community Service 社会(奉仕)活動

International Service 国際(奉仕)活動

これまで用いられてきた「クラブ奉仕 (Club Service)」という言葉は、“クラブに(ロータリアンが) 奉仕する?”、“クラブが奉仕する?”、のいずれととっても理解困難な言葉で、慣れっこになっているロータリアン以外の人々からは、納得が得られない言葉です。そこで本冊子では「クラブ活動」と訳します。

また、汎用されている「職業奉仕」(Vocational Service)という言葉は、報酬を目的とする「職業」と、報酬を目的としない「奉仕」とが連結して一つの言葉になっているために、一般社会では全く理解できない言葉です。以下に解説する Vocation の歴史的、宗教的な意味を把握しなければ、ロータリアンでも、ほとんど理解困難な言葉になっています。Vocation に相当する日本語がないために、本冊子では、そのまま「ヴォケイション活動」と記します。

・ Vocation :

元来、キリスト教の聖職者が神に仕えるために行う仕事(宗教的行事)のことを vocation と言い、日本語としては「召命」と訳していました。しかし宗教改革の後、プロテスタントでは神と直結する信徒が宗教活動の一環として“神から与えられた仕事(職業活動)”に集中するところから、英和辞典では vocation = 職業・天職、と訳されるようになりました(→ p.34)。日本語の中に vocation に相当する言葉がないための混乱が生じ、続いているのです。

ピューリタニズム(プロテスタンティズム)の宗教用語で、「報酬を目的としないで社会(の人々)のために役立つ仕事をする、という生涯の基本姿勢およびその仕事」を vocation と言います(→ p.34)。vocation には、生活の糧を得るための仕事(職業= Occupation)という意味が全くありません。それ故に、これを「職業」と訳すのは本質的に間違いです。

ロータリーの英文では、Vocation(収益を目的としない社会活動)と、Occupation(生活の糧=収入を求める仕事)とは、厳密に区別して使用していますが、これらを区別する単語がない日本語では、注意することなく両者を「職業」と訳していることが多く、しばしば混乱と誤解を招く原因になっています。

- ・ **vocation** □職業、天職、□(職業に対する)素質、才能、□、□使命感。辞典の中の訳語では、この言葉を正確に伝えることができません。そこで本冊子では“ヴォケイション”もしくは『職業』(vocation)」と記すことにします。
- ・ **Vocational Service** : これを「職業奉仕」と訳したのでは、上述のごとく、正しい意味の伝達ができません。この冊子では、「ヴォケイション活動」、もしくは、内容が既に分かっている場合には『職業』活動、と記します。

(3) その他

・ business and professional men (persons) :

business man : 日本語でビジネスマンというと、サラリーマンに近い意味の言葉になりますが、英語では「実業家(経営者や管理職にある人)」を意味していて、従業員・労働者ではありません。

professional man:16 世紀に教会を離れて職能集団を結成した弁護士、医師などが、集団の規定と加盟者を公示（profess）したことから、それらの職種は profession と呼ばれました。現代では、多くは国家資格を要する専門職業人を意味します。

ロータリー・メンバーを business and professional men と表現しているのは、資本主義の発達してきたアメリカ社会の中で、メンバーの職業的な位置づけがはっきり示されています。即ち、ロータリーのメンバーの中には、工場や、商店や、農場の使用人（従業員）はいなかったもので、ロータリーの定款や発展過程を見る際には、この事実を前提にしなければなりません。

ただし、単に「ロータリアンの職業」という意味で使用されている場合には、business and professional men (persons) を「職業人」と訳す場合があります。

・ ideal of service

ideal（究極的な目標）＝ 理性の判断によって得られる最高の状態（理想）、もしくは、理性の判断によって得られる最高の概念（理念）を意味します。

Service が“状態”ではなく“概念”を表す単語ですから、

ideal of service ＝「奉仕の理念」

と訳すのが正しい日本語です。

——略称および略号——

- ・“ロータリー”：ロータリーと称する組織・機構はありませんが、一般用語として“ロータリー界”、または“ロータリー・クラブ”を指す言葉として使用します。
- ・RI ＝ Rotary International 国際ロータリー
- ・RC ＝ Rotary club ロータリー・クラブ
- ・(→ p.00)：本冊子の 00 頁を参照してください。
- ・(→資料 00)：資料 00 から引用しました。

訳語について	6 頁
--------------	-----

第 1 部

歴史年表

I 20 世紀初頭：ロータリーが生まれた時代	18
II シカゴ：ロータリーが生まれた都市	21
III 商業と市民生活：ロータリーが生まれた社会	25
IV ポール・ハリス：ロータリーの創始者	28
V ピューリタニズムとロータリー	31
VI 資本主義とロータリアン	36

第 2 部

歴史年表

1. クラブ創立メンバーの集まり	42
2. クラブの特徴と会員の選考	44
3. 創立記念日と記念の部屋	45
4. 初期の例会と初代会長の選出	46
5. 会の名称と規則	47
6. 例会場の選定	48
7. ロータリーの卓話	49
8. ロータリーの紋章	50
9. 会員の絆	51
10. ロータリー最初の条文	52
11. 視線をクラブ外へ向ける	54
12. 公衆便所の設置運動	55
13. クラブ内の意見対立と融和策	56
14. 二人の重要人物の入会	57
15. シカゴ・クラブの危機	58
16. 一業種一会員制	59
17. 一地域一クラブ制	60
18. ロータリーの役員選出	61
19. 「全米ロータリー・クラブ連合会」の設立	62
20. 連合会の設立趣旨	63
21. “サービス” 概念の提唱	64
22. 「商業サービス」の提唱 — シェルドン:1911 年のスピーチ ..	65

も く じ

23. ミネアポリス・クラブの原則 — Service, not Self	69
24. 会員間の商取引	70
25. アメリカ国外にロータリー・クラブ創立、 機関紙 The National Rotarian の創刊	71
26. 「国際ロータリー・クラブ連合会」への移行	72
27. 各クラブへの推奨定款 Objects	73
28. 奉仕活動への転換	74
29. シェルドン：1913 年のスピーチ	75
30. ロータリー倫理訓	76
31. ロータリー通解	78
32. 地区制とガバナー制度の導入	80
33. 身体障害児救済活動——ポリオ対策の始まり	81
34. 米国が第 1 次世界大戦に参戦——「禁酒法」下のシカゴ	82
35. 国際的支援活動	84
36. 各クラブ共通の定款 Objects の提唱	85
37. 初めてアメリカ国外で年次（国際）大会を開く ——定款に二つの ideal of service が出現	86
38. 「国際ロータリー（RI）」への移行	88
39. 活動方針を巡る対立	90
40. 決議 23-34	91
41. ロータリーへの批判	93
42. ロータリーの世界展開	94
43. ロータリー活動の 4 路線：目標設定計画の謎	96
44. 世界恐慌	98
45. 四つのテスト	99
46. 言葉の意味が変わる	100
47. Service 概念の統一：活動方針の一本化	102
48. 1935 年の定款改定——「商業サービス」の削除	106

第 3 部

歴史年表

49. 日本人最初のロータリアン	112
50. 東京ロータリー・クラブの創立	113
51. 大阪ロータリー・クラブの誕生	116
52. 東京・大阪 RC の特徴	117

53. 関東大震災	118
54. 特別コミッショナーの設置とクラブ拡大	120
55. 第 70 地区の設定	121
56. 太平洋ロータリー地域大会の開催	122
57. ロータリー・クラブの拡大	123
58. ポール・ハリス夫妻の来日	124
59. 切迫する軍国主義の足音	125
60. 国産ロータリー・ソングと国旗掲揚・国歌斉唱	126
61. 「大連宣言」	129
62. 「日満ロータリー連合会」の結成	131
63. 日本ロータリー・クラブの解散	132
64. 第二次世界大戦とロータリー	134
65. 国連発足会議	136
66. 米山、福島、ポール・ハリスの死去	138
67. 国際ロータリー復帰協議会	139
68. 国際ロータリーへの復帰	140
69. ロータリーの標語（モットー）	141
70. 1951 年の定款改定	142
71. クラブ増加と地区分離	144
72. 機関紙「ロータリーの友」発行	145
73. クラブ増加・地区拡大	146
74. 米山記念奨学会	147
75. 地区番号が三桁に、皇太子・皇太子妃ご成婚	148
76. Manual of Procedure、手続要覧の発行	149
77. 東京国際大会の開催	152
78. 青少年育成プログラム	153
79. 東京オリンピック	154
80. 1968-69 国際ロータリー東ヶ崎 潔会長	155
81. 大阪万国博覧会・会場内で RC 例会	156
82. 国際ロータリーと日本支局	157
83. 規定審議会	158
84. RYLA	159
85. 札幌冬季オリンピック	160
86. 日本のクラブ：いくつかの話題	161
87. '78 東京ロータリー国際大会	162

も く じ

88. 1982-83 国際ロータリー向笠廣次会長	163
89. ポリオ撲滅運動	164
90. 女性会員	166
91. 役員研修・地区番号の変更・標準定款細則の改正	167
92. 大阪ロータリー国際大会	168
93. クラブ内教育	169
94. ロータリー研究会	170
95. Manual of Procedure（手続要覧）記事の改変	172
96. 「ロータリーの友」誤訳記事	174
97. 2012-13 国際ロータリー田中作次会長	176
98. ロータリーの未来を眺める	177
99. ヴォケイション（『職業』）活動 Vocational Service —— 概念の変遷	178
別 クラブ定款第 4 条	184

【コラム】

- ・クラブとは (p.53)
- ・私の宣言 (MY PLATFORM) (p.66-67)
- ・全分野の職業人のためのロータリー倫理訓 (p.77)
- ・ロータリー通解 (p.79)
- ・The Philosophy of Rotary (p.87)
- ・ロータリーの定款第 3 条 1922 年 (p.89)
- ・決議 23-34 (p.92)
- ・Four Avenues of Service 成立過程の記述 (p.97)
- ・定款 Objects 1922~1935 年 (p.107)
- ・顧客満足 (Customer Satisfaction) (p.108)
- ・米山梅吉 (p.114-115)
- ・ロータリー・ソング（奉仕の理想・我等の生業）(p.127)
- ・大連宣言 (p.130)
- ・定款 Object 1951 年 (p.143)
- ・定款 Object 翻訳の歴史 (p.150-151)
- ・翻訳問題調査研究小委員会の Object 邦文 (p.171)
- ・「ロータリーの友」誤訳記事 (p.175)
- ・ロータリー活動の 5 路線 Five Avenues of Service (p.183)

第 1 部

- I 20世紀初頭：ロータリーが生まれた時代
- II シカゴ：ロータリーが生まれた都市
- III 商業と市民生活：ロータリーが生まれた社会
- IV ポール・ハリス：ロータリーの創始者
- V ピューリタニズムとロータリー
- VI 資本主義とロータリアン

歴史年表

世界の歴史	西暦	アメリカの歴史
ヴァスコ・ダ・ガマ 喜望峰を回ってインドに到着	1492	コロンブス（伊）カリブ海/バハマに到達
ルター（独）宗教改革に乗り出す	1497	
マジェラン一行 世界一周航海	1517	
英国国教会ローマから独立	1520	ガボット（英）北米東海岸を探検
カトリック イエズス会を組織	1534	カルティエ（仏）カナダ地域を探検
カルヴァン（仏）スイスで宗教改革		ソト（西）北米南東部を探検（1539）
英女王メアリー1世300人のプロテスタントを処刑	1541	コロナード（西）北米南西部を探検（1540）
英国清教徒分離派への大弾圧が行われる	1555	
	1593	
	1607	ヴァージニア植民地入植、ジェームズ・タウン建設
英国の清教徒 オランダ・アムステルダムへ脱出	1608	ハドソンハドソン河とマンハッタン島を探検
	1620	英国の清教徒 102 人がアメリカへ移住
	1630	清教徒ほか多数が宗教上の圧迫と政治上の不満により英国よりアメリカへ移住
英（イングランド・スコットランド・アイルランド）で清教徒革命～1649	1642	
	1643	マサチューセッツ湾植民地がニューイングランド連邦形成
クロンウエル（清教徒）英で共和制を樹立	1651	
	1675	インディアン大虐殺（フィリップ王戦争）
	1680	この頃より黒人奴隷の移入増加
	1692	マサチューセッツ湾直轄植民地となる
	1700	北米植民地戦争（英—仏・西の現地の争い）
イングランド・スコットランド グレートブリテン連合王国成立	1707	
ワット 蒸気機関の改良に成功	1765	フレンチインディアン戦争（1755-63）
この頃よりイギリスに産業革命始まる～1830年頃まで	1770	インディアン大虐殺（ボストン）
	1773	英国の独占貿易に抵抗（ボストン茶会事件）
	1774	フィラデルフィアで第1回大陸会議を開催
	1775	アメリカ独立戦争～1781
英経済学者アダム・スミス「国富論」で資本主義を論ず	1776	トーマス・ジェファソン起草「アメリカ独立宣言」を公布
	1783	アメリカ合衆国（13州）が承認（パリ講和）
オーストラリアが米に代わって英国の流刑地となる	1788	アメリカ合衆国憲法制定
フランス大革命起こる	1789	ジョージ・ワシントン合衆国初代大統領となる
	1790	首都をニューヨークからフィラデルフィアへ移す
グレートブリテン・アイルランド連合王国となる	1801	ワシントンに首都建設
	1803	合衆国ルイジアナ植民地をナポレオンから購入
	1807	フルトン 実用的汽船の制作に成功
ナポレオン1世ロシア遠征	1812	米英戦争：合衆国 英国に宣戦～1814
コロンビア独立、続いてメキシコ独立（1821）	1819	スペインからフロリダを購入

世界の歴史	西暦	アメリカの歴史
英スチーブンソンの蒸気機関車が公共鉄道を走る	1823	第5代大統領モンロー 非干渉主義を宣言
徳川幕府、異国船打払い令を発す	1825	
イギリスでカトリック教徒解放令	1829	第7代大統領 ジャクソン・デモクラシー 反ジャクソン派→ホイッグ党→共和党(1834年) ジャクソン派→民主党(1844年)
モールス 有線電信機発明	1835	テキサス独立戦争(1845年に合衆国の1州となる)
アヘン戦争 清降伏す、香港 英国に割譲	1840	
パリ市民革命(二月革命)、	1846	オレゴン州を併合、オレゴン街道(西部開拓)
マルクス「共産党宣言」	1848	メキシコ戦争に勝利、カルフォルニア・ネバダ・ ユタ・ニューメキシコを獲得、 カルフォルニアで金鉱発見、ゴールドラッシュ
ペリー浦賀来航・日米和親条約締結(1854)	1853	
日米修好通商条約締結	1858	メキシコ北部アリゾナを買収
イギリス艦隊鹿児島を砲撃	1861	南北戦争～1865
明治維新	1863	リンカーン大統領 奴隷解放宣言
スエズ運河開通	1868	ロシア帝国からアラスカを購入
ウィーンから始まった大不況が全世界に広がる～1896	1869	米大陸横断鉄道完成
ヴィクトリア女王 インド皇帝となりインド帝国成立	1873	
オリエント急行(パリーイスタンブール) 開通	1876	ベル 電話機を発明
ダイムラー(独)が自動車を発明	1877	エジソン 円筒型蓄音機を発明
大日本帝国憲法発布 明治22年	1879	エジソン 電球を発明
パリ万国博でエッフェル塔完成	1883	アメリカで鉄道建設時代始まる
シベリア鉄道建設	1889	
日清戦争	1892	
第1回オリンピック大会(アテネ)開催	1893	シカゴ万国博覧会、巨大観覧車を設置
	1895	
	1896	
	1898	米西戦争、マニラ湾で米艦隊がスペイン艦隊を 破るーフィリピン等を支配 ハワイ王国を併合
中国 義和団の乱起こる 清は日、英、米、仏、独、 露、伊、奥、白、西、蘭、11カ国と議定書調印	1899	
オーストラリア連邦成立	1901	
日英同盟締結(1924年廃止)	1902	
パナマ共和国成立	1903	ライト兄弟 飛行に成功
日露戦争始まる～1905 明治37年	1904	

I 20 世紀初頭：ロータリーが生まれた時代

ロータリーが誕生した 20 世紀初頭——それはコロンブスがバハマに到着してアメリカ大陸への探検が始まってから 410 年余り経過した頃のことでした。——それは英国から清教徒を中心とする多数の人々が移民してきて以来 280 年が過ぎた頃でした。——それはアメリカ合衆国が独立してから 130 年経ったときでした。——それはアメリカ大陸間横断鉄道が完成してから 50 年足らずのときでした。

東海岸に植民地を築いたアメリカには、北東部～ヴァージニア・カロライナに英国人（ニューイングランド）が、ルイジアナにフランス人（フレンチルイジアナ）が、ニューヨーク・ニュージャージーにオランダ人（ニューネデルランド）が、そしてデラウェアにはスウェーデン人（ニュースウェーデン）がそれぞれ思いの社会を開発していたので、すでに 17 世紀のアメリカには、民族のルツボといわれる今日の米国につながる多人種・多宗教・多文化が移植されていました（→資料 95）。

植民地での農業は初期のタバコの栽培から綿花生産へ切り替わり、南部プランテーションでは多数の労働者を必要とするようになっていきました。そこで 17 世紀前半に早くも、ヴァージニア植民地に黒人奴隷が運び込まれました。北米インディアンは組織的に働くという習性がなく、農耕経験のあるアフリカ西部の黒人奴隷の方がプランテーションでの労働に順応できたからでした。

英国からの綿花需要がますます高まった南部の広大なプランテーション農業では、18 世紀から 19 世紀半ばまで多数の黒人奴隷を移入し使用していました。一方、ヨーロッパから産業革命が広がってきて、重工業化が進んだ北米でも労働者が不足する事態となって、19 世紀になると黒人奴隷を解放して労働者として使用するまでになりました。ここに、奴隷制に依存する南部農民と奴隷解放を訴える北部企業家とが対立し、南北戦争（1861～65）に発展したのです。

この期間、アメリカに 4,000 万頭以上いたとされるバッファローが、牧場・農場建設、鉄道敷設の邪魔になるという理由で組織的に虐殺され、19 世紀末には 1,000 頭を切るまでになっていました。バッファローとともに生きていた各地のインディアンは家畜以下の野蛮人とみなされ、徹底的な討伐作戦を受けてバッファローと同じ運命を辿りました。1930 年代になって、残存部族は「インディアン移住法」によって白人のまばらなオクラホマ政府保留地へ強制移住さ

せられ、民族浄化政策がとられました（→資料 92, 93）。

1873～1896 年の世界的大不況とその後の時期には、世界各国の人々が（とくに地中海諸国から）アメリカン・ドリームに惹かれて大挙して新大陸へ移民してきたために、北部の労働者不足は解消され、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけてアメリカの人口は急速に増加したのでした。

アメリカ合衆国は 1783 年の独立（東部 13 州）後、ルイジアナ植民地をナポレオンから購入（1803 年）、フロリダをスペインから購入（1819 年）、テキサス（1845 年）とオレゴン（1846 年）を併合した後、メキシコ戦争に勝利してカルフォルニア、ネバダ、ユタ、ニューメキシコを獲得（1848 年）、アリゾナをメキシコから買収（1858 年）し、さらにロシア帝国からアラスカを購入（1868 年）、太平洋に進出してハワイ王国を併合（1898 年）して国土拡大を図ってきました。

広大なアメリカが国家として一つにまとまるようになったのには、鉄道の発展と電話の発明が大きく寄与しました。19 世紀末以降、国内鉄道建設時代が始まり、初期ロータリアンが長距離都市間を鉄道で移動した話が伝えられています。ベルによる電話の発明（1876 年）もロータリーの相互扶助活動に大きく貢献しました。ロータリーでは、地域内だけでなく、都市間、並びに全国商取引委員会を設置して会員間の商取引を推奨しましたが、それを可能にしたのが電話連絡であり、当時のロータリーの名簿は電話帳（イエローページ）のようなものであったと伝えられています（→資料 27）。

奴隷解放の後、都市に流れ込む黒人が多くなり、彼らの歌った嘆きの歌、苦しみの歌、祈りの歌がブルースであり、南北戦争で敗れた南軍の軍楽隊楽器を使って彼らの歌を演奏したのがジャズの始まりでした。当時のレストランではバンド演奏が行われていましたが、安上がりにするために黒人バンドを使うようになってジャズが盛んになった最初の土地がニューオーリンズの売春街でした。20 世紀に入ってニューオーリンズに軍港が建設されるに伴って売春街が整備されると、職場を失った黒人ジャズメンたちはシカゴへシカゴへと集まってきました。シカゴでは憲法による禁酒令が出たので非合法の酒場が盛んになり、そこでジャズが求められたからです。その非合法酒場のボスはもちろんシカゴのギャングでしたから、この盛況はギャングのボス、アル・カポネが逮捕・投獄される（1931 年）まで続きました（→資料 93）。

そして、この時期がロータリーの条文に“社会への関心を高めること”、“合法的な仕事は価値がある”を記した初期ロータリーの発展期でもあったのです。

19 世紀末には、コロンビア・レコードが発売した円盤型レコードがエジソンによって発明（1877 年）された円筒型レコードを追い抜き、これが爆発的な人気を博しました。1910 年代になって黒人向けに発売したジャズ・レコードが、思いがけなく白人間で飛ぶように売れたのです。さらにアメリカでは 1920 年、ピッツバーグに最初のラジオ局が開局されて、ジャズが電波に乗って流れるようになりました。この頃、ニューヨークで活躍していた若いジャズピアニスト、ガーシュインが、ホワイトマン（スウィング・ジャズの元祖）からの依頼を受けの作曲したのが「ラプソディ・イン・ブルー」（1924 年初演）で、第一時世界大戦後の好景気と、大きく発展してきたレコードとラジオ電波に乗って、全米で大ヒットしました。

1929 年にアメリカから始まった世界大恐慌は、19 世紀にアメリカで発達した“資本主義”の根幹を揺るがす事態となりました。大不況と社会の混乱は、工業・商業・農業＝全産業に及び、倒産と失業という拭いきれない社会不安を招きました。しかし暗い沈滞の時代には人間の目は逆の方向へ向けられるものです。ルーズベルト大統領の景気回復政策が功を奏する前に、人々の間に流れでて危機を救うのに力を発揮したものがありました。

その一つは、現実を直視せず、快い感覚の世界に逃避させる力を持ったジャズの広がりであり、ジャズの享楽性を売り出すことで、反体制、反資本主義のイデオロギーをそらせることを人々が学んだのです。

第二は、人々に感動と安らぎを与える優れた“奉仕”活動の始まりで、これが資本主義社会の中に生じたさまざまな不合理を解消するために福祉を取り入れる制度改革の契機となりました。愛国心と理想主義精神の基礎に立ち、社会と将来への熱情に支持されてロータリーが登場しました。

——ロータリーのような運動の発芽期として 20 世紀初頭ほど絶好の時期はありませんでした ----- ポール・ハリス（→資料 1）。

Ⅱ シカゴ：ロータリーが生まれた都市

「シカゴ」とは、この地に先住したアルゴンキン語族インディアンの言葉で「にんにく畑」を意味し、古くはミシガン湖に注ぐイリノイ川の河口に自生していたものと思われます。シカゴは、五大湖の一つミシガン湖の南端近くにあって湖に面した都市で、アメリカで早くから発達した交通手段である水運とともに発展しました。五大湖を通り抜け、東北に流れるセントローレンス川を下れば、かなり大きな船でも大西洋に出られるようになっていきますし、ミシガン湖から近くを流れるイリノイ川まで掘られた運河（イリノイーミシガン運河、1848年完成）を利用すれば、そのままミシシッピ川へつながり、ほとんどまっすぐにメキシコ湾まで南下することができます。このように東と南の外洋につながる水路をもつシカゴは、西部、中西部一帯で生産されたコーン、小麦、大豆、畜産品を世界へ運び出す港町として発展する条件を満たしていたのです。

内陸交通の拠点： ニューヨークが西欧への玄関として、ロサンゼルスが中米・アジアへの交易窓口として発展したのに対して、シカゴは内陸交通の要所、産業・経済の拠点として発展しました。これらの物資を運ぶ鉄道網もシカゴを中心に整備されていきました。1837年にはガリーナ・アンド・シカゴ・ユニオン鉄道が、1852年にはニューヨークとシカゴを結ぶイリノイ・セントラル鉄道が開通し、その後、西部での積極的な鉄道建設が行われ、1869年にはシカゴとサンフランシスコが結ばれて大陸横断鉄道が完成しました。1870年以降、シカゴーポートランド、シカゴーロサンゼルスなどが次々と開業してシカゴが交通の要所としての地位を高めると、農産物とくに穀物集散地として発展、世界有数のシカゴ商品取引所が作られ（1848年）、畜産業も発達して収容頭数が当時最大のユニオン・ストック・ヤードが設けられ（1855年）ました。また周囲には優良な鉄鉱床が点在していたため工業も発展し、1860年にはイリノイ州ーシカゴを地盤とするリンカーン大統領を輩出させて、この時期、政治の世界でも主導権を握るようになりました。

市街地： 19世紀初めのシカゴには今日に見るような整備した市街の面影は、商業区にすら全く見えませんでした。下水は極度に不完全で、街路にはその町筋の特質を代表する種々の悪臭が鼻をついて流れていました。こうした悪臭のふんぷんたる中を歩いてみて、新来者はわずかに牛馬の荷付けをする町、膠を煮る町、漬物を製造する町ぐらいを嗅ぎ分けるにすぎなかったでしょうが、シ

カゴに長い間住んで嗅覚の手練を経たものにとっては、目を閉じて歩んでもその方向を誤らなかったといえます。

シカゴ川は、汚物や家畜置場から流れ出る油脂を河口に向って運搬する役目を負って、物憂く流れていました。このくさい積み荷が河口に至って荷卸しされるミシガン湖は、実に市民の用水の源泉でした。混濁の河水は複雑きわまる悪臭を発散しつつ流れ、時にはその油ぎった水面に不用意に投げ捨てられた紙巻きたばこの吸い殻から火を発することすらあったそうです。しかし不潔物は結局、目的点に流れ着いて飲料水を思うがままに汚毒し、あらゆる伝染病を次から次へと流行らせることになりました。

事態が急転したのは、世論がこの醜悪な河川の流れを正反対の方向に転向させたことによります。即ち、河水をその有害な混合物とともに逆流させ、これをイリノイとミシシッピの溪谷に落下させ（註：イリノイ＝ミシガン運河工事、1836-48 年）、途中で自然な浄化作用を行いつつメキシコ湾の清き潮に注ぐことができたのです（ポール・ハリス：資料 1 より）。

この市民衛生の改善には多額の経費と時間を要しましたが、それだけの価値があっただけでなく、さらにいっそう大規模な都市計画を呼び起こす契機となりました。市内北部のインディアナ街から湿地で利用価値の低かったエバンストンへかけての土地改造計画で、「20 マイルの仙境」と評されたミシガン湖畔の一带は、美と醜とがなお混然として雑居している……それが湖畔の土地改造以前のシカゴの風景だったのです。

人口動態：19 世紀半ばまでシカゴ市内は人口 3 万人に満たない田園都市でした。それがわずか 50 年で人口 100 万を超す大都市に発展し、

ロータリー誕生のころには 200 万人に達しようとしていました。

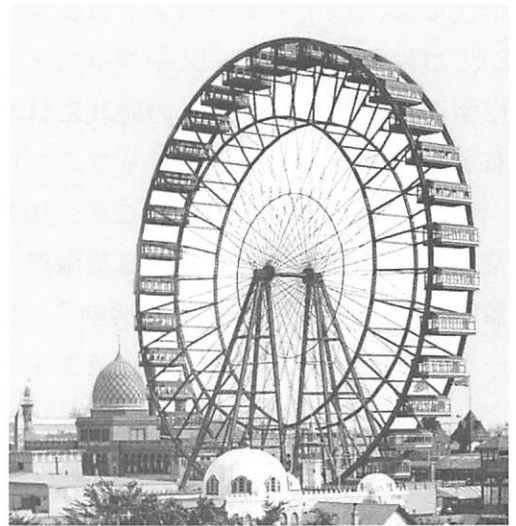
20 世紀半ばには黒人の移動が南部からシカゴに集中し、また後期にはヒスパニックの移民が急増して、白人の比率が 50% を切るようになりました。この人口構成は現在も変わりありません。

シカゴ市の人口推移	
西暦（年）	人口（万人）
1860	11.2
1880	50.3
1900	169.8
1920	270.2
1940	339.7
1960	355.0
1980	300.5
2000	289.6

人種	白人	黒人	ヒスパニック	アジア
1940 年	91.7 %	8.2 %	0.5 %	0.1 %
1970 年	65.6	32.7	7.4	0.9
1990 年	45.4	39.1	19.6	3.7
2010 年	45.0	32.9	28.9	5.5

シカゴ大火： 1872 年 10 月 8 日、異常乾燥・強風下で大火災が発生しました。二日間にわたって 800 ヘクタール以上を焼き尽くし、17,400 以上の建造物が全焼、死者 250 人以上、家を失った人は 10 万人に上ったという 19 世紀アメリカ最大の災害でした。しかしこの災害によってできた広い土地空間はシカゴ市の都市計画を推進させ、その後の米国の都市再開発の幕開けとなりました。被災後、市は木造住宅を禁止し、レンガ、石造り、鉄筋コンクリート製を推奨したため、アメリカ中から優秀な建築家が集まって近代都市建築の基礎が作られました。“シカゴ派”と呼ばれる建築家が作った建築物は、ホーム・インシュアランス・ビル（1885 年）、タコマ・ビル（1887 年）をはじめとして、その後、マンハッタンと見まがうばかりの高層ビル群として受け継がれ、シカゴを訪れる人々を出迎えています。

シカゴ万国博覧会： コロンブスの新大陸発見 400 年を記念して開かれた万博で、19 世紀にアメリカが開催した博覧会で最大規模でした。入場者がアメリカ国民の約半数に上ったとされます。1893 年 5 月～10 月に開催され、4 年前のパリ万博（エジソンの電球を利用した夜間照明とエッフェル塔建設）を強烈に意識して、電気の動力応用を主テーマに、世界初の巨大観覧車「フェリスの車輪」（直径 75.5 メートル、最大 60 人乗りゴンドラ 36 機＝2,160 人乗り、モーター駆動）を設置しました。博覧会本部や主要館が並ぶ「栄誉の中庭」は古代ギリシャ・ローマ風の様式で統一され、化粧石膏による白亜の輝きを放っていたことから「ホワイト・シティ」と呼ばれ、またアジア・中近東の異国情緒あふれる建物やイベントが来往者を楽しませました。



この好評が、後年、遊園地を万博に付設するきっかけとなったほか、この工事にウォルト・ディズニーの父が工事作業員として参加していたのは、興味深いことです。

この万博で日本は初めて本格的な日本館を建築しました。それは平等院鳳凰堂をモデルにした「鳳凰殿」で、室内は東京美術学校が、出品は帝国博物館が担当し、岡倉天心などの美術界の大物も携わっていました。開催国アメリカに

はヨーロッパ万博への強い対抗意識があつて、盟友である日本をアピールする目的のため、鳳凰殿は会場の一等地に配置されていました。この日本館で米山梅吉が通訳として働いていたという事実があり、またポール・ハリスが大学卒業後の放浪の旅の途中でシカゴを訪れ、一週間友人の家に泊めてもらって万博を見物したという事実もあり、あるいは二人が会場のどこかですれ違っていたかも知れません。

残念なことに、万博の主要建造物は大観覧車を含めて、その後の火災によって消失し、日本館の跡地はシカゴの姉妹都市である大阪の名をとって Osaka Garden と呼ばれる日本庭園となっています。

・・・1882～1905 年にかけて電力産業が乱立すると、市は公共事業の価格統制制度を導入して低料金の電力を普及させました。1920 年代にも高層ビルの建設ラッシュが続き、第二次世界大戦後には、当時世界一の高さを誇るシアーズ・タワーも建設されて、今日見るようなダウンタウンが形成されました。

文化面では、国際的な文化都市として、富裕層が築いた美術館、図書館、博物館、オーケストラホール（シカゴ交響楽団）などが設立された一方、1920 年代には、ルイ・アームストロングなどの黒人ミュージシャンが活動の拠点をシカゴに移し、ブルースやジャズ・ハウスなどの「ハウス・ミュージック」の原型が生まれました。この時代にはまた、市を蹂躪したマフィアやギャングも有名で、映画「アンタッチャブル」に描かれました。

——そして、この時代こそ、国際ロータリー・クラブ連合会の条文に“ 商業サービスの理念 ”、“ 高い商業倫理 ”、“ 交友関係の発展 ”、“ 合法的な仕事は価値がある ”、“ 国際的な奉仕活動 ”といった言葉が現れ、世界組織として国際ロータリー（RI）が誕生したときでもあったのです。

Ⅲ 商業と市民生活：ロータリーが生まれた社会

[商業社会]

—— 当時は商工会議所も、同業組合も、共同募金も、赤十字社も、そしてボーイスカウトも産別労組も存在していませんでした。ラジオやテレビは言うに及ばず飛行機もなく、自動車もほとんどありませんでした。所得税も、女性の投票権もなく上流社会ではビジネスのことを口にするのは憚れるような風潮がありました。

「ビジネスはビジネス」、「買主が注意せよ」、「仁義なき競争」、「他人にやられる前にやれ」、「大衆は地獄に落ちろ」というような考え方が支配的な時代でした。競合者は敵であり、もし、彼らをその実業界から追放できたなら、自分にとって好都合だと考えていたのです・・・アメリカは“利己主義で早い者勝ち”という激烈で情け容赦ない“ビッグ・ビジネス”が発展した時代の終わりでした。

[チェスリー・R・ペリー：ロータリー創立 50 周年記念講演、→資料 26]

—— 19 世紀における実利主義の特筆すべき点は競争にあります。人間は長い旅路を漂いながら進化し成長していくものですが、特に 19 世紀の 4 分の 3 を迎えたころには、毎日毎日が食うか食われるかという人間の本能をむき出しにした状態が最高潮に達していました。

平均的な実業家の座右の銘は、「自分がしようとすることを他人がしないうちに最初にすること」であり、他人のために善行を行うのではなく、悪行を行う風潮がありました。商売の原則は「買い手の自己責任」として、買い手が用心するということであったのです。

[アーサー・F・シェルドン：1911 年のスピーチ原稿、→資料 32]

—— 20 世紀初頭にシカゴが悩んでいた疾患は他の各地にも流行し、一般的に実業界は邪道にふみこんでいたと言えます。消費者、競争者、あるいは被働者の問題に関する実業道徳は決して高いものではありませんでした。「購買者自衛主義」が消費者に適用され、そうして競争者の悪意と不誠実とはまさに破壊的な極点にまで達していました。競争相手を傷つけるぐらいのことは、奨励はしないまでも正当なものとされていたのです。「購買者自衛主義」の標語に「そして競争者を地獄に落とせ」と付加してもよかったのかもしれませんが。

[ポール・ハリス：→資料 1]

[市民生活]

シカゴは20世紀の初期に入ってもなお開拓者社会特有の風俗人情を多分にもっていたので、そうした社会につきものの極道ともいえるべき賭博は公然の存在でありました。酒場が盛んになり密会所がこれにつぎ、高架鉄道の下は醜類によりあたかも巢に群がる蜂のごとくでした。酒舗と酒舗との間にまじって無数のサロンが存在し、そのあるものは犯罪と政治的腐敗の培養所であって、そうでないものも、あえて他人事にはかかわりがないという態度をとっていました。禁酒令以前のシカゴを知っている飲酒党も、そしてこの法令に従う禁酒党も、厄介な論議に関しては見るところが一つでした。それは当時のサロンが決して将来の良き資産になるのではなく、悪しき負債になるということでした。

当時のサロンは貧しい人間の集会所でしたが、同時にそれが多くの場合に彼らの家庭でもありました。サロンに出かけることは多くの人々にとって絶好の室内遊戯であったと同時に、またある者にとっては規則的な勤務先のようなものだったのです。サロンの誘惑は交わりを求める人間の抑えがたい欲求のうちに存在して、ひとたびここに赴けば、たちまち肉親のような愛情が漂い、アルコールの興奮が人と人との間の隔壁を見事に打ち破る役目を果たしていました。シカゴのサロン時代は同市がまだ浄化されていなかった時代であるという特別の意味があるとしても、これは悲しむべき事実です。

シカゴ万博直後の不況期はシカゴが零落した最悪の時代でした。不況は苛酷なまでに大衆を襲い、人々は社会の最下層にあえいでいました。所有する者は失うまいとして戦い、失った者はわずかな生活の糧を得ようとして争い、借家人は家賃を怠り、借金者は利子を怠り、小売商人は卸先への、卸売商人は製造元への支払いを怠る状況でした。貸し手は考案しうる限りの手段を尽くして貸金を取り戻そうとし、裁判所は、不法侵入、監禁、貧困保護、抵当処分、失業回復、差し押さえなど、あらゆる事件で充満していました。

万博後の惨憺たる光景に加えて、シカゴは世界を席卷した金融恐慌の第一撃に襲われたのでした。閉鎖された店舗、劇場、ホテル、アパート、貸事務所などは、張り巡らされた「売り」「貸し」札とともに悲痛な圧迫感を注いでいました。場末の裏町には心のうずくような貧困の光景がいたるところに目撃されました。人々の空腹を紛らわせるためにスープ店があちこちにでき、市の公会堂から巡査派出所に至るまで、寒い夜の家なき男女や子供たちに提供されました。監獄はそこに収容してもらいたい人のために、扉を抑えきれないまでに充満し



アメリカ北東部（五大湖～大西洋）

ていました。

こうした逆境にあった初期の実業家は、当時としては相当に高い道德水準を維持していたにもかかわらず、たちまちこれを放棄して、市中の奪い合いに参加していったのです。ロータリー運動の“Service above Self”（私利私欲よりもサービス）のモットーなどは露ほどにも認められず「自己保存第一」ということのみが実業家の関心を買ったのです。

当時は、腐敗した実業社会と有効に戦うだけの商工会議所のような組織が未だ存在していませんでした。わずかに信用業務に従う人々の協会のようなものがありましたが、これはまた消極的な自衛を目的とするものにすぎませんでした。しかしこの間にも見過ごしてはならない一つの勢力の台頭がありました。それは市民の胸中に潜むシカゴ伝来の“I will”の精神でした。

市民生活における文化的正義のための聖戦が熾烈に戦われているシカゴのような物情騒然とした都会こそ、ロータリー運動の発祥地として最適の地であったとも考えられるのではないのでしょうか。 [ポール・ハリス；資料1より]

IV ポール・ハリス：ロータリーの創始者

生い立ちと成長： ロータリーの創始者ポール・バーシー・ハリスは 1868 年 4 月 19 日、五大湖の一つミシガン湖西岸のウィスコンシン州ラシーンで生まれました。そこは、シカゴの北 100km、ミルウォーキーの南 50km に位置する小都市で、父ハワードはこの町で雑貨商を開いていましたが、発明と文筆に熱中するあまりに倒産、母コーネリアは元ラシーン市長の娘でしたが浪費癖があったそうで、兄と妹を含む一家には四散の運命が待っていました。母と娘をラシーンに残し、父は二人の息子連れてヴァーモント州ウォーリングフォードへ向かいしました。そこは人口 2,000 人余りの小さな町で、牧場を経営する祖父母が住んでいました。父はポールを祖父母にあずけたまま、ここを去って行きましたので、ポールは 3 歳から成人するまでを祖父母のもと、自然豊かなニューイングランド・バレーで過ごすことになったのです。

父と母は一時、祖父の支援によってヴァーモント州内に一家を構えましたが、持ち前の性格が災いして再び倒産の憂き目にあい、ポールはそれ以来、生涯にわたって両親と同じ屋根の下で生活することはありませんでした。

祖父ハワード・ハリスは、ポールがブラック・リヴァ・アカデミー、ヴァーモント・アカデミー、ヴァーモント大学に学んだ期間に、二度までも退学処分を受けた中でも、孫の将来に期待して優しく見守るという人間味あふれる人物でした。（なお、ヴァーモント大学での退学処分は、後に誤りであったとしてポールに学士号、名誉博士号が授与されています）。

祖母パメラは、常にポールと心のパイプがつながっていた良き理解者で、人間関係の改善を目指すロータリーにあって、とくに重視される性格形成に重大な影響を与えた人でした。

ポール・ハリスの幼・少年期の養育者であり教育者であった祖父母は、敬虔なピューリタン（清教徒）であったことが知られています。ニューイングランドは、ピューリタニズム（→ p.31）をアメリカに展開した拠点ですから、ポールは多くのピューリタンに囲まれて育ったと考えられます。慈悲深い医者ジョージ・フォックス伯父はポールに“奉仕”の手本を示したとされ、地元で尊敬を集めていたローレンス弁護士はポールの職業選択に影響を与えたとされています。

何より決定的な記述がポール・ハリスの自著（→資料 1）の中にあります。

それは、宗教の自由についての記述の中で、「著者は保守的なニューイングランド人であって、祖先はピルグリム・ファーザーズ(巡礼始祖→p.31)に続いている」と書いていることです。宗教的に無関心なわが国の社会と違って、〇〇教の〇〇派、〇〇教会に所属しているということが個人のアイデンティティを定め、その生活を規制しているアメリカ社会においては、ニューイングランド出身ということだけで一目置かれる存在であり、ピルグリム・ファーザーズの子孫であるということになれば、特別な尊敬の眼差しが向けられるというのが一般通念です。ポール・ハリスは、ロータリーの創始者としてその中心にあったのは当然として、初期ロータリアン(→p.37)の中にあってはピルグリム・ファーザーズの子孫として特別の存在であったと考えられます(→資料3)。

ポールは20歳で名門校のプリンストン大学に入学しましたが、翌年、祖父の死にあって中途退学のやむ無きに至りました。そこで大理石会社に就職して学資を稼いだ後、アイオワ州立大学に入学して、1891年6月の卒業時に弁護士資格を取得しました。なおポールに大きな影響を与えた祖母はアイオワ州立大学在学中に亡くなり、彼は天涯孤独になったのです。

5年間の放浪： アイオワ州立大学を卒業して弁護士資格を取得したポール・ハリスは、卒業式に招かれて祝辞を述べた先輩弁護士の言葉に刺激されて、すぐに弁護士業務に就くことなく、社会勉強のための放浪の旅に出ました。

5年間に訪れた土地および経験した仕事は非常に多く、それらがポール・ハリスの人生並びにロータリー・クラブ設立に役立ったことでしょうか、個々の仕事内容が重要ではないので、都市と仕事を列挙するにとどめます。

・サンフランシスコ クロニクル新聞の通信員、・南カルフォルニアのレーズン箱詰め工場、・ロサンゼルス商科大学の非常勤講師、・コロラド州デンバーで舞台出演、・ロッキーマウンテン ニュースの記者、・ブラットヴィル農場のカウボーイ、・ザ リパブリカン紙の記者、・フロリダ州ジャクソンヴィルのホテル夜勤事務員、・大理石会社^{*} 外勤営業員、・ザ ワシントンスター紙の新聞記者、・家畜運搬船の水夫、・ボルチモア缶詰工場、・貨物船で英国往復(ロンドン・ウェールズ地方見物)、・ダラス農場でのオレンジ梱包・・・

この中で大切な人物との出会いがありました。それはクラーク大理石会社^{*}の経営者、ジョージ・クラークです。彼はポール・ハリスの人物と旅の意図に共鳴して、二度目の勤務時にケンタッキー、テネシー、ジョージア、ヴァージニアの諸州を旅する機会を与えました。そして三度目の勤務時には南部諸州に

続き、キューバやバハマ諸島をめぐる9カ月間の旅を提供しています。この旅の後、「どこか行きたいところがないか」とクラークに尋ねられて、ヨーロッパを選んだポール・ハリスは、大理石会社代理人としてスコットランド、アイルランド、ベルギー、イタリアの採石場を訪問する機会を与えられ、その間に、イングランド、フランス、スイス、オーストリア、ドイツ、オランダ諸国に足を延ばしました。帰国していよいよ5年の歳月が終わりに近づいたとき、ポール・ハリスの気性をよく知っていたクラークは、彼の最後の希望を聞き入れてニューヨークへの出張を命じたと、語られています（→資料27）。

5年間の放浪の中でも、クラーク大理石会社での期間はポール・ハリスにとって最も多くの有益な経験が得られたに違いありません。素晴らしい人物のそばにはまた、素晴らしい人物がいるものです。ジョージ・クラークは後に、ロータリアンになり、1911年に全米RC連合会副会長としてポール・ハリスを支えた人物であることを付け加えておきます。

1893年、ポール・ハリスがシカゴ万博を見物するためにシカゴを訪れたことは先に記したとおりです。彼はこのとき所持金がほとんどなくて、万博で働いていたアイオワ州立大学時代の友人の下宿に泊めてもらったようです。大都市シカゴは生誕の地ラシーンに近い上に、このときの1週間の滞在経験が、弁護士として活躍する場所を決定することになったのかも知れません。

弁護士開業： 1896年2月、28歳を目の前にしたポール・ハリスはシカゴへやってきて、ディアボン通りに小さな部屋を借りて弁護士事務所を開業しました。仕事はそれなりに成功していましたが、大都市は、個人的な友人を多く見つけるには不毛の地でした。彼は、人々が私利・私欲や競争の虜になっている姿ばかりを目のあたりにして、孤立感を深めていました。そんなある日、シカゴ郊外に住む弁護士仲間を訪れて夕食を共にしました。そこで彼はシカゴの中心街で見慣れた店員の無礼で無関心な態度とは対照的な人々の様子を見たのです。レストランで、食料品店で、ソーダ水売り場で、新聞販売店で、友人と店員はファーストネームで呼び合い、親しげな挨拶を自然に交わす様子から、互いに信頼しあう関係にあることが見て取れたのです。

5年間の放浪の旅の途中で何度も頭をよぎった信頼の社会と、よそ者同士が商売でも友情でも一つになれる憩いの場とが重なって、ポール・ハリスの心に新しいクラブの種をまいた一瞬でした（→資料5）。

V ピューリタニズムとロータリー

[ピューリタンの登場とアメリカ移住]

中世の末期、免罪符を発行し、聖職者の地位を売買するまでに退廃していたカトリック教会にマルチン・ルター（独）が「抗議書 Protestantio(う)をもって宗教改革を求めた（1524 年）ために、この一派はプロテスタント Protestant と呼ばれるようになりました。ルターに続いてスイスで活動を開始したジャン・カルヴァン（仏）は、宗教と政治、教会と国家を区分し、禁欲的生活、職業を神の召命（→ p.34）とみなして励むことなどを説いて、支持を広げました。

当時の英国はローマ・カトリックを離脱して、独立した英国教会を設立したばかりのときでしたので、カルヴァン派新教とカトリック（旧教）との間で揺れ動く混乱が続いていました。英国教会で純粹(pure)な改革を唱えていたカルヴァン派新教徒はピューリタン Puritan と呼ばれるようになり、やがて王室・カトリック教徒から激しい迫害を受けるようになりました。多くのピューリタンはその迫害を避けるために、英国教会から離脱して活動し、後にイングランド、スコットランド、アイルランドでピューリタン（清教徒）革命（1641-49 年）を起こすことになります。一方、国教会内部に留まって内部改革を進めたピューリタンへの迫害も厳しくなり、彼らは英国西南部のプリマスから新天地アメリカへ向かって集団移住を決意しました（→資料 89）。

メイフラワー号とアメリカ移住： 1620 年、ピューリタンとその支持者 102 名を乗せた、ぶどう酒運搬用の帆船メイフラワー号が 66 日間の命がけの航海の末、嵐を避けて到着したのがマサチューセッツ州に釣り針のように飛び出たケープコッドでした。到着した 11 月末は既に冬の厳しい季節になっていたため、彼らは湾内の船中で冬季を生き延び、翌年 3 月になって上陸しましたが、その地での生活は厳しいもので、1622 年春まで生き延びたのは 50 名だったと記録されています。

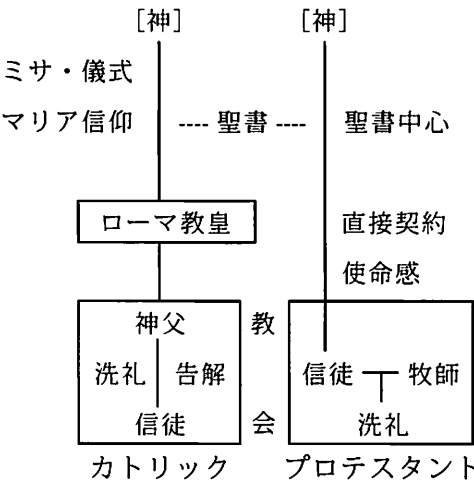
ピルグリム・ファーザーズ Pilgrim Fathers（巡礼始祖）： 宗教的迫害のもとにメイフラワー号で新大陸（巡礼の地）へやってきたピューリタンを指し、後に、アメリカ合衆国における信教の自由の象徴になりました。

ピューリタンのアメリカ移住を支えたスポンサーの代表格にサー・ロバート・リッチ伯がいました。彼は第 2 回移住（1623 年）、第 3 回移住（1628 年）を成功させた後、1629 年には 6 隻の船団で 350 人の入植者と大量の食糧、機

材、武器を輸送、翌 1630 年には 700 名を乗せた大船団を出発させました。1630 年代の終わりまでに 200 隻の船が 2 万人以上の英国人をアメリカ（ニューイングランド）へ運んだのでした（→資料 90）。

[ニューイングランドのピューリタン]

ピューリタニズム（清教主義）： カトリックに対する新教（プロテスタンティズム）に分類されますが、この宗教はカトリックのローマ教皇のような中央集権制度がないために、英国においても、その後の米国においても多くの分派を生じました。ここではその、基本を総合的に理解することにします。カトリシズムもプロテスタンティズムも神の存在、用いる聖書に違いはありません。しかしカトリックでは信徒の上に神父が立



ち、全世界の神父・教会の上に立つローマ教皇のみが神に向かう立場にあります。これに対してプロテスタントでは、信徒は神と直接契約で結ばれ、教会の牧師は教官であっても基本的には信徒と同じ身分ですから、神との間に介在者がいません。聖書中心主義で、ミサなどの儀式やマリア信仰はありません。

ピューリタンの宗教活動と政治活動： ニューイングランドの海岸に到着してそこに理想郷を建設しようとした人たちの信仰は極めて頑強でした。彼らの認める規範に合わないものはすべて神を冒瀆するものと考えて排除したために、ピューリタンは“不寛容な人々”とみなされました（→資料 86、88）。

ヨーロッパ中世においてキリスト教の強固な支配下で、概念としての“寛容”、すなわち、他の神を信じる人々（異教徒）を「是認はしないが容認はする」という姿勢が生まれました。しかし異教徒と異端者とは扱いが異なります。社会の周辺部に異教徒がいることは認めるが、中心部に異端者がいることは認められません。社会の中で異端者を自由にさせれば、社会秩序とともに信仰理解をも崩されかねないからです（→資料 87、92）。

ピューリタンの中心になった会衆派の人たちは、無政府主義者とみなしていたバプティストやクエーカーを異端者として、しばしば足枷、笞刑台、火刑柱

など過酷な刑罰を与え、中世キリスト教の異端質問と魔女狩りを思わせるものがありました。これが下火になるのは、「自分たちが住む社会は自分たちだけのものではない」という公共性の認識が普及する 18 世紀以降になってからのことでした。反動は緊張を緩めることになります。ニューイングランドにおける宗教的迫害から現れた反動は、とみに顕著なものでした。極端な不寛容の状態から一転「寛容」へ、そしてそれが「**信教の自由**」へと進展していったのです。

17 世紀中期～後半にニューイングランドで活躍したピューリタンにジョン・ウインスロップがいます。ケンブリッジ大学で法律を学んだ熱烈なピューリタニズム信奉者で、植民地建設に大きな足跡を残しました。マサチューセッツ州ウインスロップの町は彼の名に因んで名づけられましたが、ハーバード大学には、ウインスロップ・ハウスがあります。彼の子孫は政治家の中にも多く、代表として、マサチューセッツ州選出上院議員ジョン・ケリーや、前大統領のジョージ・ブッシュなどを挙げることができます（→資料 91）。

アメリカ独立宣言を起草したトーマス・ジェファークソンもピューリタンで、その文章はピューリタニズムの精神に満ち溢れたものとしてよく知られています。初代大統領ジョージ・ワシントンをはじめとして、初期の合衆国大統領にはピューリタンを多く数えることができます。

フロンティア精神： 南北戦争の直後、ニューヨークの一新聞記者が「行け若人よ 西部へ」と書いた数行の文字により、ニューイングランド各州に大騒動が起きました。田園から、工場から、家庭から、牛馬車の行列は絶え間なく西部へ向かい、家族、一族すべての者がこれに加わったのでした。安くて、広くて、良好な土地と、それ以上の富を求めて勇敢な開拓者の群れは、野を、丘を、山を越えて延々として続き、西部未開地へ向かう**フロンティア精神**が芽生えました。アメリカは東部ニューイングランドから西部開拓と諸州併合を経て国家形成を進めると同時に、**信教自由**の教義をも押し広めていきました（→資料 19）。

アメリカ開拓の基地ニューイングランド（現在のメイン州、ニューハンプシャー州、ヴァーモント州、マサチューセッツ州、ロードアイランド州、コネチカット州）は、ボストンを中心に、宗教的にはピューリタニズムの拠点であり、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、アメリカで最も権威ある医学雑誌の一つ New England Journal of Medicine、日本美術の収集で知られるボストン美術館、小澤征爾が長く音楽監督を務めたボストン交響楽団、などアメリカの宗教、学問、文化の中心地となっています（→資料 94）。

[Vocatio (ラテン語)、 Vocation (英語)、召命]

中世のカトリック教会では、神によって呼ばれて神に献身する聖職者の仕事が Vocation (召命) とされていましたが、宗教改革後はプロテスタント信徒が神と直結しているため、信者の宗教的な仕事 (職業) にはすべて Vocation という言葉を用いるようになりました。英和辞典では vocation に「職業、天職」という訳語を当てていますが、その歴史的背景を理解していないと、この日本語では意味が通じません。

宗教的に神と直結しているピューリタンは、日常生活そのものが質素儉約で、神への使命感に溢れたものになっています。中でも自らの職業を神から与えられた仕事 (天職) と捉えるルターの思想と、カルヴァンの予定の教理 (定められた運命) によって、貧困は神による永遠の滅びの予兆である反面、現世における成功は神の加護の証であるとされたことから、ピューリタンは一心不乱に“仕事”に打ち込んで神に救われようとしていました。この神から与えられた継続的な“仕事”、それゆえに強い使命感を持って邁進する“仕事”のことを Vocation と言います。

ピューリタニズムでは本質的に、収益を目的として仕事 (職業) に着くことを認めていませんし、蓄財する (金持ちになる) ことを目的として働くことも認めていません。しかし、仕事に励んだ結果として収入を得、さらに一層精進した結果として大きな財を成すことは容認しています。

——この「目的」なのか「結果」なのかという違いを理解することが Vocation を理解する入り口になります。

そして、無報酬で社会 (の人々) のために役立つ仕事をするのが “Vocation” であるなら、それこそが “ロータリー活動” そのものなのです・・・宗教を排除するロータリーにあって、厳密な宗教用語である “Vocation” という単語をそのまま用いている理由が、ここにあります。

英語では Vocation (無報酬活動) と Occupation (生活の糧＝収益を得る目的で働くこと＝職業) とは区別して使われています (→ p.181) が、両者を同じ言葉「職業」と訳したのでは、その意味が解らなくなります。Vocational Service を「職業奉仕」と述べたのでは、収益を目的とする「職業」と無報酬の「奉仕」とが重なって、このきわめて重要なロータリー概念を理解困難なものにしてしまいます。そこで本冊子では、「ヴォケーション活動」と訳し、日本語表記が必要な場合には『職業』活動と、記すことにします (→ p.9)。

[我が国におけるプロテスタント布教とミッション系大学]

1874年（明治6年）に切支丹禁制が撤去されると米国プロテスタント各派の活動が活発になり、次の3つの流れが生まれました。

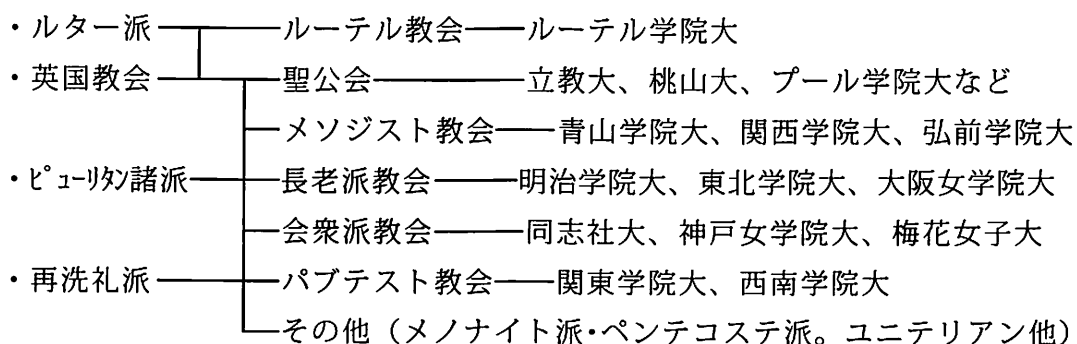
・横浜バンド（団体）： 1863年にヘップバーン（ヘボン式ローマ字で有名）が開いた米国長老派教会・プリンストン大学（ポール・ハリスが学んだ）系列の横浜アカデミーの流れで、押川方義（東北学院創立者）、本多庸一（青山学院初代学長）、植村正久（明治学院創設メンバー）らを輩出しました。

・熊本バンド： 1871年、熊本洋学校の教師として招かれた会衆派教会のジェーンズが大阪英学校に移り、その感化を受けた新島襄（同志社大学創立）、小崎弘道（同志社第二代総長）、海老名弾正（同志社第八代総長）らがいます。

・札幌バンド： 札幌農学校（北海道大農学部）の招きによって来日したクラークら（マサチューセッツ農科大・ハーバード大系列）の薫陶を受けた新渡戸稲造、内村鑑三、宮部金吾（植物学）、広井勇（土木工学）らによって結成されました。

教団の活動はキリスト教教養教育に加えて、語学教育に力を入れていましたが、カトリック系学校はフランス語で、初等教育に力を注いだのに対して、プロテスタント系学校は英語で、知識階級への高等教育を目指したことが、その後の日本のキリスト教系学校を特徴づけることになりました（→資料77）。

プロテスタント協会



カトリック教会 …… 上智大（イエズス会）、聖心女子大（聖心会）、

── アメリカの主力大学は、創設時よりキリスト教各派と強い関連を有していて、日本の私立大学の中にも上記のような関係が見られます。米山梅吉は青少年時代からピューリタン系英語学校で学び、そのラインで米国留学を果たし、帰国後もメソジスト教会ー青山学院大との強い結びつきを持った生涯を送りました。この経歴が米山自身が持つ奉仕の基本体質とともに、日本ロータリーを代表する人物として、RIからの信頼を得る大きな理由になったと思われます。

VI 資本主義社会とロータリアン

[定款 Object の文言]

ロータリー・クラブの定款 Object から主文のみを取り出して記します。

第 4 条 目的

ロータリーの目的は、価値ある企業活動の基礎として奉仕の理念を奨励すること、詳しくは、次の各項を奨励することである。

Article IV Object

The Object of Rotary is to encourage and foster the ideal of service as a basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster:

以下 4 項目に続く（省略）

主文の「奉仕の理念」(the ideal of service) とは、この文章に続く 4 項目に詳しく述べている“無償（奉仕）活動”であることについて、どなたからも異論は出ないと思います。ロータリーはそれを「企業活動（enterprise）の基礎として」奨励する、と言っています。現代社会の常識として、「企業活動」は営利事業です。それでは、この言葉の通り「営利事業の基礎として無償活動を取り入れる」とどうなるのでしょうか？ ロータリアンの企業は成り立ちません。

こんな重大な記述について、これまで本格的な論議がなされた形跡がありません。しかし。これは定款 Object（設立趣旨→ p.184）なのです。

[ピューリタニズムと近代資本主義]

キリスト教には仏教のように何度も生まれ変わる（輪廻転生）という思想はなく、最後の審判において神から救済された人のみが死から復活するとされています。神に選ばれる（救済される）のか選ばれないのかは、生前に決められているというカルヴァンの“予定説”は、人々に激しい精神的緊張を強い、そこから逃れるために「神によって救われる人ならば（因）、神の御心にかなうことを行う筈（果）」という、因と果が逆転した論理を生み出し、人生のエネルギーのすべてを信仰と神の定めた労働（Vocation）に集中するという精神・行動様式を生み出しました。

彼らは、利潤の追求を目的としないで、神から与えられた仕事（天職）に励み、“その結果として” 利潤を得るのであれば、それは安くて良質な商品やサービスを人々に提供したという「人間愛」の実践の結果であり、その労働は神の御心にかなっている（救済される）証であるとししました（→ p.34）。ここに金儲

けに否定的な禁欲的宗教が、それとは正反対の、金儲けを積極的に肯定する近代資本主義を生み出したのです。

[資本主義の発達]

20 世紀初頭、マックス・ヴェーバー（独）はアメリカを訪れ、アメリカ社会の構造をつぶさに観察した後、「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」（1904-5年）（→資料 82）を著しました。その著書で、イギリス・アメリカなどのカルヴァニズム（ピューリタニズム）の強い国で資本主義が発達したが、イタリア、スペインなどのカトリック国では資本主義が立ち遅れた、と述べています。

一心不乱に仕事（Vocation）に精進した結果として財を成したピューリタンは、それを浪費することなく（資本蓄積）、周りの多くの人々にも社会に役立つような“仕事をする場”を作って、与えたのでした。ここに「会社（企業）」が設立され、労働の結果として得られた収益を分配する人（資本家）と、それを受け取る人（労働者）とが生まれたのです。このようにプロテスタンティズム（ピューリタニズム）が生み出した勤勉の精神と合理主義は、近代的・合理的な資本主義の精神に適合しており、近代資本主義を誕生させました（→資料 82）。

アメリカ社会では会社設立の理念を Mission（使命）、Value（価値）、Vision（展望）、Strategy（戦略）に分けて社会に表明し、“わが社は何のために社会に存在するのか”という「使命」が最重要課題になっています。「使命」— それはピューリタニズム社会の中心課題なのです。

アメリカの建国の初期にはピューリタニズムへの対抗勢力（カトリックなど）が弱かったために、世界の資本主義の中心へと発展したと解釈されています。その後、アメリカン・ドリームに惹かれて、世界中から集まってきた多宗教の移民がありましたので、ロータリーが創立した 20 世紀初頭のアメリカではピューリタンが人口の 30% であったという統計があります。しかしアメリカは資本主義が発展した社会です。ロータリーのメンバーは business and professional men（実業家および〈弁護士などの〉専門家）と記されていますから、ロータリーは創立当初から資本主義社会の中心階層から成り立っていて、その初期の人たちの多くはピューリタンであったと解釈されます。ロータリアンに、工場・商店・農場などの従業員（労働者）はいませんでした。それ故に、定款条文をはじめとしてロータリーの文章を読み取るには、現代社会の通念（企業活動＝収益事業）ではなく、ピューリタニズムの基本姿勢→ロータリーの理

念＝資本主義の原点（企業活動＝奉仕事業）に依って立つ必要があるのです。

近代化の進展とともに信仰が薄れ、宗教的な動機（結果）に基づく利潤追求が、外圧的動機（目的）へと変貌して、今日見られる修正資本主義を形成するようになりました（→資料 69, 83）。

——20 世紀初頭、創設期のロータリーにはクラブ（団体）として奉仕（福祉・慈善）という活動概念はありませんでした（→ p.52）が、ポール・ハリスが初代会長シルベスター・シールに対して身体障害児救済などの福祉事業、慈善事業に欠かすことのできない人物であると語っている（→ p.42）ように、ピューリタンであるメンバーには Vocation を説明する必要がなかったと考えられます。しかしながらロータリーは 1920 年代に全世界に急速に拡大した結果、ロータリアンには国籍、文化、宗教の異なる多様な人々が加わりました。そこで RI は 1927 年にロータリー活動（Four Avenues of Service）の中に Vocational Service という“活動方針”を挿入（→ p.105）して、活動の解説をしたのでした。そして 1935 年には定款 Object（ロータリーの設立趣旨）を改定する際にシェルドンの商業サービスを排除するとともに、そこで Vocation の基本を語りました（→ p.107, 179）。それが：

「企業活動の基礎として奉仕の理念を奨励する」

という、本章の冒頭の枠内に記した文言だったのです。

既に近代資本主義の成熟した当時の社会にあって、古典的な Vocational Service（『職業』活動）は理念であって、現実の社会で実地応用することではできませんでした。そこで RI はこの概念を一般のロータリアンに伝えるために工夫を凝らしたようで、「職業奉仕に関する声明」、「ロータリアンの職業宣言」（→資料 45、p.180）などを通じて、労使関係や同業者関係などを含む、原義から見ると誠に奇妙な Vocational Service の解説を行ってきました（→資料 61）。さらに「職業奉仕」とは“職業を通じて奉仕すること”であるという、解りやすいようで、まるで解らない説明がなされて、一般ロータリアンだけでなく、RI でも概念が安定しない内情を窺い知ることができます（→ p.178）。

概念は時代の流れに伴って変化しますから、Vocational Service の原義だけにこだわるつもりはありませんが、2014 年 1 月の RI 理事会で「職業奉仕に関する声明」内容の大幅な修正が行われ、まだまだ混乱が続いているものの、Vocational Service の解説文章の一部分で“原点回帰”の傾向が見られることは注目に値します（→ p.181）。

第 2 部

ロータリーの誕生から成長へ

1905年～1935年

歴 史 年 表

世界・アメリカ・日本の歴史	西暦	ロータリーの歴史
日本海海戦でバルチック艦隊を撃破 明治 38 年	1905	シカゴにロータリー・クラブ誕生
ペテルグラ冬宮広場血の日曜日事件:第1次ロシア革命		1 業種 1 会員制、相互扶助活動
レーニンがヨーロッパ亡命から母国へ帰る		ファインボックス（ニコニコ箱）始める
東京で中国革命同盟（孫文総裁）が結成、三民主義		初代会長：シルベスター・シール
米シアトルで日本人排疎運動起こる	1908	親睦派と対外活動派の対立激しくなる
ロシアと樺太境界画定書を調印		サンフランシスコに第二の R C 誕生
日韓併合、朝鮮総督府の設置 明治 43 年	1910	「全米 R C 連合会」結成（16 クラブ）
米国への移民急増、人口9,400万人、1/4が外国生まれ		ウイニペック（カナダ）に R C 誕生
大阪に特高（特別高等警察）を置く	1911	シェルドン 商業サービス論を展開（ペリー代読）
清朝滅亡、中華民国成立 大正元年	1912	連合会名を「国際 R C 連合会」に改変
		公式機関紙 The Rotarian を発行
	1913	シラキューズ RC はかで身体障害児救済活動始まる
第 1 次世界大戦始まる	1914	大英帝国・アイルランド 内 R C 連合会が戦争難民
パナマ運河開通		救済活動を行う
日本が対華 21 カ条（権益）を要求	1915	国際 R C 連合会に地区制、ガバナー制度を導入
		「全分野の職業人のためのロータリー倫理訓」を採択
ニューヨーク州を中心にポリオ大流行	1916	「ロータリー通解」(機構・運営・活動の指針)発行
ドイツが無制限潜水艦戦を宣言 米が独に宣戦布告	1917	E. アレン (イリア RC) 全米「身体障害児協会」を設立
米国禁酒法（憲法修正第 18 条）制定		アーチ・クランプ基金創設：(後にロータリー財団に発展)
ロシア十月革命、ロシア共和国（ソヴェト政府）成立		
レーニンが「帝国主義論」を完成		
ライオンズクラブ創立		
米大統領ウィルソン 平和原則「14 カ条」を発表	1918	定款条文に The ideal of SERVICE の文字が入る
ヴェルサイユ講和条約	1919	急ピッチで RC が世界に広がる
中国革命党を中国国民党に改称		
中国五・四排日運動、朝鮮三・一独立運動発生		
国際連盟成立	1920	東京 RC 創立
ワシントン会議（海軍軍縮条約）調印 大正 10 年	1921	米国外（エジンバラ）で初めての国際大会を開催
独 ナチス党結成、伊 ファシスタ党成立		条文に国際奉仕（団体活動）の起源となる文言入る
ソ連政府 新経済政策（ネップ）を採用		この中に Rotary Ideal of Service の文字がある
中国共産党が上海で結成		この年、世界の RC 数が 1,000 を超える
伊ムッソリーニ 総理大臣となる	1922	国際組織が「国際ロータリー（RI）」へ移行
		世界の RC 共通の“標準定款”を制定
スターリンソ連共産党中央委員会書記長に選出される		大阪 RC 創立
ヒトラー ミュンヘン一揆にて逮捕 大正 12 年	1923	活動路線を巡る対立激化：決議 23-34 成立
関東大震災発生		東京 RC に全世界 503 RC から多額の義援金が届く
英 最初の労働党内閣、仏 左翼連合内閣を組織	1924	神戸 RC、名古屋 RC 誕生、
中国国民党 国共合作を決議		

世界・アメリカ・日本の歴史	西暦	ロータリーの歴史
ソ連共産党 スターリンの一国社会主義理論を採用 国内：治安維持法公布、衆議院普通選挙法公布 英に空前のゼネスト起こる 昭和元年 蒋介石 国民党の実権を握る 蒋介石 南京政府樹立、中京軍武装蜂起：国共分離 金融恐慌発生	1925 1926 1927	京都 RC 創立 決議 23-34 を改訂。その後5回の改訂が行われて この決議文が社会奉仕の指針とされる RC の地区区分を国家単位としないことを決定 大英帝国・アイルランド内 RI が目標設定計画を提唱、 活動の 3 路線（クラブ活動・職業活動・社会 奉仕活動）を採択 横浜 RC、京城 RC 創立
関東軍による張作霖爆死事件（奉天付近） ソ連 活動の第 1 次 5 カ年計画 国内：特高警察設置	1928	ロータリーの活動路線に“国際奉仕活動”を追加、 活動の 4 路線（Four Avenues of Service）が成立 第 2 回太平洋 RC 地区大会（東京）盛大に開催 大連 RC 創立 日本・朝鮮・満州・7 クラブに第 70 地区承認 初代ガバナー：米山梅吉
ニューヨーク株価大暴落、世界恐慌に発展	1929	ダラス RC より“シェルドンの言葉”の使用禁止案 が提出されるも理事会が採択せず 奉天 RC 創立
ロンドン海軍軍縮条約に調印 昭和5年 印度ガンジー 反英非暴力非服従運動開始 満州事変勃発 中国ソヴィエト臨時政府樹立（毛沢東主席） 国際連盟リットン調査団来日 満州国成立 五・一五事件 F. ルーズベルト大統領 ニューディール政策 独 ヒトラーが首相となる 日本 国際連盟脱退、 独 国際連盟脱退 米穀統制法公布 日本国家社会主義全国協議会結成 ヒトラー総統に就任、 ソ連国際連盟加盟 日本 米国にワシントン条約破棄を通告 独 ヴェルサイユ条約破棄宣言・再軍備 昭和10年 中国共産党「救国抗日」宣言	1930 1931 1932 1933 1934 1935	シェルドン ロータリーを退会 「ロータリー倫理訓の頒布禁止令 H. テーラーが「四つのテスト」を提案 広島 RC、札幌 RC、福岡 RC 誕生 国内：小樽 RC、岡山 RC、高尾 RC（台湾）、新京 （満州）、釜山（朝鮮）ほか 13 クラブが誕生 定款 Objects 改定、“商業サービス”理念を一掃 ポール・ハリス夫妻 第 5 回太平洋 RC 地域大 会に出席する途上で訪日（東京・関西） 例会での国旗掲揚・国歌斉唱が全国に広まる ロータリーソング「奉仕の理想」「吾等の生業」の採用

1 クラブ創立メンバーの集まり

1905 年、アメリカから太平洋を隔てた日本は、日露戦争の渦中にあり 203 高地の激戦から 1 月には旅順開城に至る緊張の時代の幕開けでした。ロシア帝国の首都サンクトペテルブルクでは同月、労働者の請願行進に冬宮軍隊が発砲して千人とも 4 千人ともいわれる死者を出す血の日曜日事件が発生、第一次ロシア革命の前哨となっていました。

同年 2 月 23 日、人口 200 万になろうとしていたアメリカ中西部の大都市シカゴでは、何事もなく平和な一日が過ぎようとしていました。弁護士ポール・ハリスは数年来の友人である石炭商のシルヴェスター・シールとともに夕食をとった後、ディアボーン・ストリート 127 番地にあるユニティ・ビル 711 号室の鉱山技師ガスターヴァス・ローアの事務所へ向かっていました。そこにローアと洋服業のハイラム・ショリーが待っていて、ここで 4 人は、かねてから話し合っていた新しいタイプのクラブ結成について、具体的な話し合いを行おうとしていました。

シルヴェスター・シール： インディアナ州の貧しい農家に育った記憶を大切に、身体障害児救済などの協会事業、慈善事業に欠かすことのできない人物でした。ドイツ人の両親をもつ天性的に親切的な性格で、社会福祉とともに注目すべきは、彼が自らの事業所で従業員に強く慕われてきた人間関係、道義人としての功績でした。

ガスターヴァス・ローア： ドイツ系の移民で、個性的な人物でした。その言葉は機関銃のように速く鋭く、道行く人も耳をそばだてるほど特異なものだったようです。激しく命令的で、威圧的な態度が見られる反面、温和・従順で、親しみやすい人だったそうです。

ハイラム・ショリー： メイン州から移住してきた彼は、何としても大都会の生活に溶け込めず、心は終始生まれ故郷から離れなかったのが毎年暑中休暇を取って帰郷することを欠かさなかったようです。



ロータリー創始者 ポール・ハリス
(資料 36 より)



初代会長シルヴェスター・シール
(資料 6 より)

初日に集まった四人の中でポール・ハリスと特別親しい関係にあったのがシルヴェスター・シールで、後に巨大化したロータリー組織の中で、ハリスが唯一胸襟を開いて話し合えたのがシールだったとされています。

シカゴにあるハリスとシールの家の間には櫟の森の間の一本道が通じていて、二十余年間、春には数知れない花がにおい、秋には赤々とした漆が輝き、美しい鳥がさえずるその道を、着のみ着のまま走って往復する間柄だったといえます（→資料 1）。

ロータリーの歴史書の中でシルヴェスター・シールの名前は、創立時の記事以外にほとんど見ることはありません。しかしハリスの書物によれば、シカゴから遠方の RC へ出かけるときには多くの場合にシールを同伴していたとのことですから、二人の関係がよく判るというものです。

二人は亡くなるまでロータリアンでありました。

余談ですが、ポール・ハリスの墓はシカゴ郊外のブルーアイランドにあるマウントホープ墓地にあり、この地のクラブが清掃管理していますが、ハリスの墓の隣にシルヴェスター・シールの墓が存在します。二人は生前の関係そのままに、墓も隣り合って位置するようあらかじめ用意していたもののようです。

二人は今日でも、天上から地上の全ロータリー・クラブの、全ロータリアンの活動の様子を眺めながら、あれこれいつまでも話し合っていることでしょう。

2 クラブの特徴と会員の選考

初日の会合でポール・ハリスが語った話には二つの内容があります。その一つは、都市生活で真の友人のいない空虚さ、欲得づくめの商売姿勢（→ p.25）と、私生活や仕事の上での信頼関係の欠如を解消できるような人間関係の充実したクラブをつくることでした。それは四人が皆、かつて田舎町で味わったような人々の間の相互協力と、打ち解けた親睦という極めて単純な構想のクラブで、これまでにないクラブの結成を提案したのです。

二つ目は各職業または業種で一人の会員を推薦することで、会員は人柄の誠実さを保証できる人物だけを推薦します。するとこのクラブは必然的に、会員間の互恵的な（信用できる）商取引の後援会となるだけでなく、同業者間の争いのない男同士の親睦を深められるグループとなります。一業種一会員に限られるために街一番の男性を選ぶことができ、相互に信頼のできる会員の中で多くの取引が成立し、そしてそのような取引を広げられそうな人がクラブへ入会することに反対する人はいないでしょう。

初回の話し合いの正式記録は残されていません。しかしポール・ハリスが直前にシカゴ郊外で体験した親しみ深く信頼感の溢れる人々の交わりから、新しいクラブに望んだことは、メンバーを互いにセカンドネームで呼び合う^{*} 親しい人間関係でした。そして当時の商取引や市民生活の様子（→ p.30）をみれば、ガスターバスはハイラムの店でスーツを新調し、ハイラムはシルヴェスターの店舗から石炭を買い、シルヴェスターはポールに法律相談を依頼するといった、信頼できる取引・依頼ができることは理想的なことでした。

（* セカンドネームでの交流が一般的でない地域では、ロータリー内でのみ使用されるロータリー・ネームを用いている場合があります。）

創立メンバーが集まった初日には、まだクラブの名称も、規則も役員も決められたわけではありませんので、正式（法的）には団体が創立したとは言えず、単に創立準備会が開かれたというべきでしょう。しかしながら後日、ロータリーはこの日（1905年2月23日）を創立記念日と決めました。いつその決定がなされたのか明瞭ではありませんが、それはずっと後年になってからのことではないようです。

なぜならば、早い時期にこの当時のロータリー年度を2月から翌年1月までと定めています。2月が年度初めだとすると、二月の集まりは初回の1度だけですから、この日が正式なクラブの集会だと判断していることになります。

（現在のロータリー年度が7月～翌年6月であるのは、RIへの移行が最終決定された国際大会が7月に開催されたからです。）

四人が集まったユニティ・ビル711号室のガスターヴァス・ローアの事務室は、照明の薄暗い小さな一室で、机が一つと、座り心地の良くない椅子が4脚、隅にコート掛けが一つ置いてあり、壁に設計図が一枚貼ってあるだけの殺風景な部屋でした。

この部屋はロータリー創立75周年にあたる1980年に、創立記念日当時と同じ状態に戻され、さらにユニティ・ビルが1989年に取り壊されたとき、ロータリアンの手によって部屋の天井・床・木製の壁周りを剥がし、事務用品・家具調度品とともに保存されました。1994年にロータリー本部がエヴァンストンに移された際に、この部屋はそっくりその世界本部内に移築され、毎年多くのロータリアンが訪れているそうです。

ロータリーの歴史を語る書物の中で、このユニティ・ビル711号室の写真を見ることがあると思います。それは、実は、エヴァンストンのRI本部に再現された記念の部屋の写真なのです。

4 初期の例会と初代会長の選出

初会合の翌日、ポール・ハリスは法律事務所の印刷を依頼している若い印刷業者のハリー・ラグルスに入会を勧め、彼はまだ名前もないクラブの5人目の会員になりました。

ハリー・ラグルス： ミシガン州の農家で敬虔なピューリタンの家庭で育ちました。印刷会社でアルバイトをしながらノースウェスタン大学を卒業し、堅実なビジネスで印刷会社を創立した人物です。彼はシカゴの貧困と絶望的な状況に非常に心を痛めていたとされ、後にクラブ会長として活躍します。ずっと後の話になりますが、ポール・ハリスが逝去したとき、存命していた唯一の創立会員がこのハリー・ラグルスでした。

2回目の会合は、ウォルフ・ビルにあるポール・ハリスの事務所で3月9日に行われました。このときハリー・ラグルスと、不動産業のウィリアム・ジェンセン、オルガン製造業のアル・ホワイトが加わりました。

3回目の会合はシルヴェスター・シールの事務所で3月23日に開催され、この日までに、洗濯業のアーサー・アーウィン、保険業のチャールス・ニュートンが参加しました。

この集会在、議題を出して協議・決定をした最初の会合として、歴史的な意義を持つ会合になりました。まず、会長には誰の目にも最適任者と映ったポール・ハリスがその役割を辞退し、代わりにシルヴェスター・シールを推薦したため、シールが初代会長となりました。この会合がシールの事務所で開かれたのを記念して選考されたと書いてある書物もありますが、シールとハリスとの既に述べた通りの親密な関係を見れば、ハリスが初代会長の栄誉をシールに譲ったとみるのが妥当だと思われます。ロータリーの多くの書物の中で、ポール・ハリス単独の正面写真が殆ど存在しないことと併せて、彼の控えめな性格の一端が窺えるような気がします。

5 会の名称と規則

第3回の会合で、クラブの名称が検討されました。議論が沸騰して：
1) The Round Table Club, 2) Booster Club, 3) Conspirator's Club,
4) The Chicago Fellowship, 5) The Lake Club, 6) Chicago Circle,
7) Trade and Talk Club, 8) Friends in Business, 9) Blue Boys,
などたくさんの提案がなされたようで、それらは周りの様子や、会の目的を表そうとしているものでしたが、出席者全員の賛同を勝取るものがありませんでした。

そのうち、当時の集会（例会）が会員の事務所の持ち回りで行われていたため、Rotation Club ではどうだろうかという意見が出て、ついに Rotary Club という名称で全員の意見一致が見られました。この提案がハリスによるとする記事や、誰なのか不明であるとするものもありますが、ポール・ハリス自身がこの提案は初代会長シルヴェスター・シールであるとしています（→資料1）。

ポール・ハリスのオリジナルな考えである一業種一会員制の推薦会員は、既存会員の一人でも反対があれば入会できないこと、そして会員資格は1年間有効で、更新には毎年の入会記念日に全会員の4分の3以上の賛成を得ることが必要とされました。

誕生したてのクラブには支出の必要がなかったので、とりあえず会費徴収を行わないことになりました。代わりに、会員・家族の誕生日、家族のお祝いごと、会社の創立や事業の成功など、会員の身近に良いことがあった時に拠金を投入する「ファインボックス」が設けられました。これには後に、例会欠席や例会中に宗教・政治の話をした場合の罰金なども加えられました。我が国では1936年（昭和11年）に大阪クラブで「ニコニコ箱」が採用されて（→資料7、21）以来、各地のクラブで「スマイルボックス」などとして設置されるようになりました。

6 例会場の選定

第3回目までの会合が2週間おきに開かれていましたので、これが初期ロータリーの慣例となって、第4回目はショリーの洋服店で、第5回目は不動産業のジェンソンの事務所で開かれました。第6回の開催は印刷業ラグルスの事務所でしたが、このとき保険業のニュートンが空腹のため途中で食事をしていて遅刻してしまいました。

それならば皆で食事をすればよいということになって、ホワイトのオルガン製造工場で開く予定だった第7回会合を食事のできるパーマー・ハウス・ホテルに移しました。これが大成功だったので、第8回の会合以後はシカゴ市内のホテル、ヨットクラブ、レストランなどを巡って集会場にしました。ここに一週おきの例会には昼食または夕食を兼ねるという伝統が始まったのです。

16~18世紀にかけてイギリスで発達してきた「クラブ」の集会が、当時ロンドンで広まってきたコーヒーハウスや、ターバンと呼ばれた宿屋で開かれていたことを考えると、ロータリーの例会がホテルやレストランに移ったのは自然なことだったと思われます（→ p.53）。

しかし、ロータリーにはさらに多くの会員が加わりました。ハリー・ラグルスが1905年10月に印刷した名簿には、会員数が30名になっており、創立から1年後には80名を超えるまでになりました。こうなると、ザ・ループと呼ばれたシカゴ中央オフィス街のレストランとホテルを巡る例会開催が難しくなって、例会場はシャーマン・ホテルに限られるようになりました。会員はホテルの食堂で夕食を済ませた後に客室に退いて、例会を行うのが手順でした。

このような経緯があって後、シャーマン・ホテルが全面改築されたとき（1911年1月）、大会議室が設立されたため、シカゴ・クラブはこのホテルを恒久的な例会場にすることを決定したのでした。

7 ロータリーの卓話

第3回会合で初代会長に選ばれたシルヴェスター・シールは、そのとき自身の職業である石炭業界の話をしたと記録に残されていて、これがロータリーの卓話の始まりと伝えられています。

第7回例会以降、会合が食事つきになると、ロータリーが欧米の習慣である after-dinner speech = 卓話を取り入れたのも、ごく自然な成り行きだったと考えられます。したがって、卓話は、ロータリー関連の話に限らず、職業や業界の話、趣味の話、時事問題など、会員が広い知識を得るための手段であったのです。

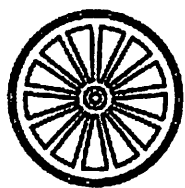
1910年、全米RC連合会第1回大会で、シェルドンが初めて語った“サービス”についてのスピーチ(→p.64)は、まさに after-dinner speech でしたから、時間的にも短く、内容も深入りしないものでした。これが卓話の典型で、現在の各クラブの例会では卓話の時間を30分と定めているのが一般的です。もし物事を広く、深くとらえた講演が必要な場合には、30分では短過ぎるので、特別の時間設定を求めるべきでしょう。

昼食時に開催される多くのクラブの例会では、例会場に到着した人からそれぞれに昼食を始めるというクラブが多いようです。夕刻の例会でも同様に、夕食の後から例会に入るというクラブが多く見受けられます。この形が本来の after-dinner speech なのでしょうが、何らかの理由があって例会開始時間ぎりぎりに来場した会員が、例会中の会長の時間や卓話の時間に食事するという状況を避けることができません。

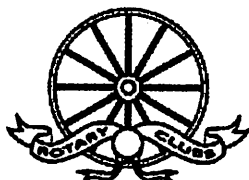
それならばということで、例会を定刻に始め、例会終了後に食事の時間を持つというクラブが現れました。その方が食事の時間をゆっくりとれる上に、自由な会話を通じて親睦を深めるというメリットがあります。私たちのクラブは夕刻の例会でしたが、創立3年目に食事を例会前から例会後に変更し、現在もその時間配分を維持しています。

この頃、ロータリーの紋章制定の話が持ち上がったようです。最初の紋章は印刷業のラグルスが印刷資料の中からクラブの名称に因んで、馬車の車輪を選んだとされます。当時の大都市と言えどもその主要交通手段が馬車であったことを考えれば、13本の支柱からなる馬車の車輪はグッドアイデアだったと思われます。ところが後に、この馬車が荷馬車であったために不評を買い、彫金師のモンタギュー・ベアが14本の支柱を有する二頭立て馬車の車輪に改良しました。これはさらに幻灯機製造のL. フィリップによって12本の細いスポークに改められ、リボンと Rotary の文字が入られました。これが1910年に全米RC連合会が結成されたとき、シカゴ・クラブの会員が付けていた紋章でした。

全米RC連合会結成までに創立した16のクラブは、それぞれ独自の紋章をつけていたようです。そこで連合会共通の紋章制定の声が上がり、紋章を公募して、採用されたのが、ロイヤル・ブルーと金色の配色で、8本の支柱と10個のギアをもった歯車でした。ロータリーが市中を駆け巡る車輪から、運動を伝達する歯車に代わったのです。しかしこの歯車は、理論的に回転できないとして、1920年のアトランティック・シティ大会で支柱が6本で24個のギアをもつものに変更され、1923年に歯車の中心に楔穴が付けられました（→資料5, 33, 60）。最近、この紋章（誇りのシンボル）はゴールド（ブラック、アズール、白抜き）単色で、原則としてロゴと併用することになりました。



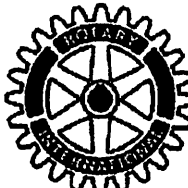
1906年



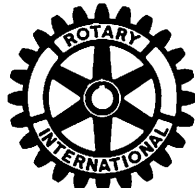
1910年



1913年



1923年



2013年 制定

9 会員の絆

会員の絆・親睦を重視してきたロータリーでは、例会への出席を義務化してきました。それが、4回連続して例会を欠席した場合には会員資格を失うという申し合わせであり、長く継承されてきました。実は、この申し合わせは一業種一会員制とともに、初回会合で決められた事だと言われています（→資料8）。

現在では、国内・海外への出張や旅行などでも、その土地・その国のロータリー・クラブへのメイクアップが可能です。が、創立当初は、シカゴ以外にクラブがありませんから、この制度は厳しいものでした。仕事の都合で連続欠席のやむ無きに至ることがあるからです。

しかしながら、数年後に職業分類が示されてから、一度退会した人でも、会員からの推薦により再入会することが可能であることがわかってきました。1998-99年度RI会長のジェームス・L・レーシー氏のように、若くしてロータリアンになり、事業の関係で一度退会した後に、再び推薦されて再入会し、その後ロータリー内で様々な活躍をされて、RI会長にまで上った人もいます。現在では、会員資格を失った人が再入会することを容易にするために、再入会時には入会金を徴収しないという規定もあります。

次に、一業種一会員制について補足します。これはポール・ハリスの創案で、先例がないと彼自身も思っていました。ところがロータリー創立の200年も前に、ロンドンで同じような職業分類に基づいた社交クラブが結成されていたことが後にわかりました。また、アメリカの科学者であり哲学者でもあったベンジャミン・フランクリンが18世紀にフィラデルフィアで作った結社も、この制度であったようです（→資料5）。それ故に、一業種一会員制だから、クラブが繁栄するというものではないということがわかります。

10 ロータリー最初の条文

クラブの名称が定まり、定期的な集会が開かれるようになりましたが、そのクラブの会則（規定条文）が文章で示されたのは 1906 年 1 月になってからのことでした。起草を担当したのは、ポール・ハリス、保険業のチャールス・ニュートンと、後に入会した法律家のマックス・ウォルフで、その「目的」条項は次のような 2 項目から成るものでした。

1. クラブ・メンバーの事業利益を増大すること。
2. 社交クラブに付随する親睦その他の必要事項を推進すること。

この条文は、長年にわたって“綱領”と呼ばれてきましたが、田中毅 PDG の調査資料（源流の会）によれば（→資料 35）、この年に制定された会則（定款）の第 2 条「目的」であることが示されました。即ち、ロータリー・クラブとしての最初の定款の「目的」条項なのです。

さて、上記の第 1 項は会員間の商取引の増進によってもたらされ、相互扶助活動という初期ロータリーの看板になりました。当時の社会は商道德が未成熟でしたから、商取引では売り手も買い手も、互いに相手を信用できるか否かに成功のカギがかかっていた、結果として「騙されるヤツがバカだ」と言われる社会だったのです（→p.25）。そこで、ロータリアンとしての信用を背景に、相手に利する取引を積極的に推奨するロータリーという集団が、斬新で魅力的な団体として人々の関心を集めただろうと思われます。

第 2 項は親睦を謳っており、ロータリーがクラブと称することによって自動的に付与される性格です。英米でクラブと称する結社には右頁（→p.53）に記すような一定の決まりがあり、我が国では意識されにくいことながら、最も本質的な性格が最後部に書いてあります。すなわち、当時のロータリーとは、相互扶助活動をする人々の「活動の場」ではありません。その人々の「交流の場」であったのです。

「クラブ」とは：

クラブの本質 わが国には、学校のクラブ活動、子供たちのサッカークラブ、市民会館の趣味のクラブ、市中の囲碁クラブ、営利会社によるゴルフクラブから、飲み屋のクラブに至るまで多種多様な“クラブ”という“人の集まり”がありますが、欧米では歴史的に「クラブ」という名称には一定の規格があって、それから外れた組織をクラブと称することはありません。その基本は； ①共通の目的・関心、を満たすために、②平等の資格で自発的に参加した会員が、③一定の約束（定款・会則）のもとに、④自らの拠出金による自主・自立的な運営を行う結社であって、⑤組織の自治、⑥役員の内部選出、⑦営利行為の排除、⑧会員の自由な意見表明の保証、⑨会員の相互尊重、⑩民主主義的な手続きによる運営、などです。

大きなクラブでは理事などによる代表民主主義制度がとられていますが、本来は全員一致による原始民主主義制です。これが現実的に行われるためには、会員個人の“寛容”、“譲歩”が大切な意味をもち、ロータリーでも古くから重視されてきました。

歴史 クラブの語源は cleave（団結する）という英語に由来し、英国では 16 世紀に作られた宗教活動をするクラブが、後に上流社会の社交クラブに変化しました。17 世紀にはトルコからコーヒーが輸入され、ロンドンのコーヒー・ハウスや、ターバンと呼ばれる宿屋で交流していた客のうち共通の話題を持つ者同士がその一室を借りて定期的に集会を開くようになりました。

政治結社 男性の集まりとして始まったクラブでは、盛んに政治談議が交わされた結果として、多数の政治クラブが結成されました。18 世紀のフランス革命当時には、ジャコバン・クラブ（憲法友の会）、コルドリエ・クラブ（急先鋒）、立憲王政の友クラブなどという政治クラブ、人民結社が多数存在していましたし、我が国にも「二院クラブ」という政治集団が存在しました。

協会 宗教改革が宗教的結合を、フランス革命が身分秩序を、産業革命が徒弟制度を崩壊させると、その保護を失って自立を余儀なくされた人々が独立して、互助、交流の組織をつくったのが協会 Verein（独）で、英国のクラブと性格を同じくするものです。当時のドイツは分断国家であったために愛国心を“共同の利益”として重視しました。同様に、今日の弁護士、医師ほか特定の職種の人々が共通の利益と団結を護るための団体を「協会」と称しています。

市民クラブ 18 世紀の産業革命の進展が中産市民階層の台頭をもたらし、その人々によるクラブ参加が盛んになりました。歴史クラブ、文芸クラブ、社交クラブ、スポーツ・クラブなどが生まれ、地域コミュニティの中心として憩いの場になり、重要なことは、英国におけるクラブの発達が自治を重んじる民主主義の母体となったことです。

スポーツ・クラブ 英国の市民の中に生まれたスポーツ・クラブは、ゴルフ、乗馬などのカントリー・クラブのほか、その組織・規模を広めて各種競技団体（連盟 league, 協会 association）として発展し、その中からプロスポーツ団体が発生しました。

—— 欧米では趣味であれスポーツであれ、それを通じて集まった人々が人間的交流を楽しむことがクラブの目的ですが、わが国では趣味やスポーツを行うことそのものが目的となってしまう、交流が本質的な目的であるとの意識が欠落していることが多いようです。

11 視線をクラブ外へ向ける

ロータリーも 2 年目になるとシカゴの人々に知られるようになり、一業種一会員制に沿った会員勧誘が円滑に進んでいました。そんな中で、特許申請などを主務とする弁理士がいなかったのも、弁理士ドナルド・カーターが選ばれ、入会を勧められました。彼は会則を読んでしばらく考えた末に首を横に振ったのでした。驚いたポール・ハリスに対して彼は「このクラブは閉鎖的な内部利益交換の団体にすぎず、社会的存在意義が欠けている」と言って、入会を断るという事態が発生したのです。

そこでポール・ハリスは、すぐさま会則の修正案を作成し、第 2 代会長のアル・ホワイトに提出しました。それが先の 2 項目に続いて付け加えられた次の 1 項目でした。

3. シカゴ市への最大の関心事*を発展させ、市民の間にシカゴ市民としての誇りと忠誠心とを浸透させること。

* 原語 best interests を、シカゴ市への関心を最大限に発展させること ----- と解釈しました。

ここでロータリーは、内部の相互扶助活動と親睦だけでなく、地域社会にも目を向けるという姿勢を明らかにしました。この項目が追加されたことでカーターがロータリーに入会し、以後、彼は初期ロータリーの中で市民意識の向上と対外姿勢の形成という意識改革に大きな役割を果たすことになりました。

1907 年 2 月、第 3 代会長にポール・ハリスが就任しました。当時のロータリーでは相互扶助を円滑に進めるための内部意識の向上に躍起になっていましたが、そんな中で彼は次のような目標を立てました。

- 1) 会員を増やしてクラブを充実させること。
- 2) 他地域にロータリー・クラブを設立する支援を行うこと。
- 3) 地域社会へ向けての活動を発展させること。

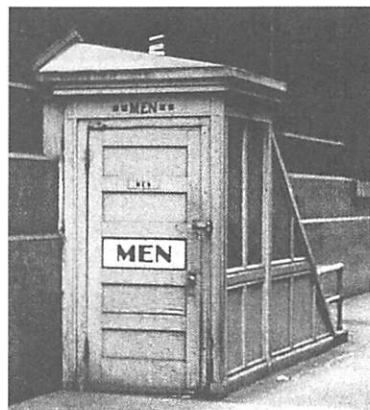
12 公衆便所の設置運動

ロータリー・クラブとして地域社会へ向けての実践活動の始まりが、わが国でもよく知られている公衆便所の設置運動でした。1907年、シカゴ市の中心部に公衆便所がないため通行人が不便な思いをしているとの話を聞いたポール・ハリスは、それに対応した活動をすることがロータリー会員の市民意識を向上させる絶好の機会になると考えました。

クラブではすぐさま、25の市民団体を集めて公衆便所建設連合委員会を立ち上げ、シカゴ市当局に対して設置運動を開始しました。しかし、これに猛反発をしたのが、この地域の既成権益を守ろうとするシカゴ百貨店組合と醸造組合でした。当時の市中心部で便所を使用するには、百貨店に入るか、バー（ビール立ち飲み店）に立ち寄るかしかありませんでしたから、無料トイレができれば百貨店やバーに入る客が減って、それらの店の収入減になると予測したからです。

行政との交渉が長引き、工事開始までに2年の歳月を要しましたが、シカゴ・クラブの努力が実って、ついに1909年、市から建設費用の捻出に成功し、市庁舎と市立図書館の横に2か所の公衆便所が設置されました。

これは初期ロータリーの社会活動の中で、世界のロータリアンが誇りにするに足る出来事ですが、これを“社会奉仕”の始まりとするのは疑問です。誰もが理解できるように、この公衆便所は市の予算で、市有地に建設されたもので、ロータリアンの寄付による慈善事業ではありませんでした。しかし最も基本的なことは、この当時のロータリーにはまだ“奉仕”という理念が生まれていなかったことで、もちろん1927年になって登場する“社会奉仕”という概念はこの時点では存在していませんでした。



13 クラブ内の意見対立と融和策

ポール・ハリスやドナルド・カーターによって対社会活動が進められると、クラブの目的として明示された事業利益の増大＝相互扶助活動と親睦を期待して入会してきた人たちが不満を持ったのもうなずけます。そしてロータリー内部に創立3年目（ポール・ハリス会長）にして早くも意見の異なる2派が存在するようになりました。

この二つの派閥間の接合役を見事に果たしたのが初代親睦委員長を務めた歯科医のウィリアム・ネフでした。欧米の習慣としてあらたまった会合には夫婦同伴で出席します。そのロータリーの会合でのネフの心温まる融和策と、彼の温和な性格が高く評価され、年度末（当時の年度末は1月）に盛大に開催されたネフ親睦委員長の慰労会が、ロータリー伝統の「家族会」の始まりになったと伝えられています。

そのネフ委員長の依頼を受けて、例会で歌を歌うことを提唱し、その指導を行ってロータリーソングを広めた功労者がハリー・ラグルスでした。歌を歌うことによって意見の対立から冷たくなった例会の雰囲気や和らげ、友情を取り戻す原動力にしようと考えた印刷業のラグルスは、30曲を収めた「歌の本」というパンフレットを印刷して、例会のテーブルに配布し、自ら合唱を指揮したそうです。

そのパンフレットは、例会後に戻しておくよう呼び掛けられたにもかかわらず、持ち帰る人が多く、流出した歌曲集がシカゴ地域社会の合唱運動の始まりになったといわれています。そこでラグルスは増刷に増刷を繰り返し、市中に流れ出た歌曲集は数万部に及んだそうです。彼は決して裕福ではありませんでしたが、費用のことについては一言も口にしませんでした。

彼は晩年にカルフォルニアに引退した後も、近隣のクラブから卓話に呼ばれると、指揮棒を持って、喜んで出席したと伝えられています。

14 二人の重要人物の入会

1908年1月（ロータリーの3年目の年度末）になって、この人たちがいなければロータリーは現在とは違ったものになっただろうといわれる二人の人物が入会してきました。それはアーサー・F・シェルドンと、チェスレイ・ペリーでした。

シェルドンは、1868年の生まれですから、このとき40歳（ポール・ハリスと同年）になる頭脳明晰で雄弁な人物でした。彼はミシガン大学経営学部で、当時、先進分野の販売学を修めたエリートであり、その道のパイオニアでもありました。1902年にシカゴにビジネス・スクールを設立して、手段を選ばずに富を得たものが成功者となった19世紀の利己的な販売手法を批判して新しい経営理念を教えていたのです。それは顧客への心配り、商品と営業行為への責任、相互信頼と相互満足を重視するものでしたから、クラブ内の「相互扶助・親睦派」にとっては“精神的相互扶助”の理論的根拠として歓迎され、また「対外行動派」にとっても“奉仕”への基礎的な概念形成に役立つものでした。

ペリーには専門教育を受けたという経歴がありませんが、事務管理に高い能力を有する人物でした。メキシコの対スペイン戦争に将校として参戦し、軍の指揮・管理に優れた力を発揮したようです。退役後はシカゴの図書館で事務的な仕事に従事していて、その職業分類から会員に推薦されました。彼はシカゴ・クラブ内の意見対立の調整に努め、全米RC連合会の設立へ向かって大きな力を発揮しました。その力が買われて1912年に全米RC連合会が国際RC連合会へ移行すると同時に、事務総長に選ばれ、その後30年の長きにわたってその役職を務めて、ロータリーの制度整備と世界的な発展に大きな足跡を残したのです。

ポール・ハリスはその著書の中で、ロータリーの最大功労者としてチェスレイ・ペリーの名を挙げています。

15 シカゴ・クラブの危機

1908年2月、ポール・ハリスが2期目の会長に就任すると、いよいよロータリー・クラブを全米各地に拡大する作業に取りかかりました。そのためにクラブ内に情宣・拡大委員会を設置し、入会して間もないシェルドンを委員長に指名したのです。それは、ハリスのシェルドンへの信頼が如何に厚かったかを物語るもので、実際に、シェルドンは全米各地の状況を調査してRC設置の基礎を固めていったといわれます。彼は「対外活動」の結果をクラブの例会で報告したのですが、問題は、例会の時間のほとんどを占有するその熱意と、雄弁さに「親睦」を重視してきた反対派の面々が辟易してしまったことにあります。

その結果、シカゴ・クラブ内に存在した多数派の「内部親睦派」と、ポール・ハリスを頂点とする「外部行動派」との確執が、シェルドンの登場によってエスカレートしていきました。ことに数の上では圧倒的な親睦派が、例会を集団欠席して抵抗するに及んで、ハリスは重大決意をせざるを得ませんでした。即ち、情宣・拡大委員長のポストからシェルドンを罷免することで事態の收拾を図り、後任に事務能力にたけているだけでなく、人心掌握・集団指導の天性を有していたチェスレイ・ペリーを任命したのです。

この人事異動が完了して、クラブがどうにか落ち着きを取り戻した1908年10月、ポール・ハリスが突然、任期途中で会長を辞任しました。名目上、病気理由となっていますが、クラブの混乱とシェルドン罷免の責任を取ったとみる人が多いようです。

ハリスの後任には、初年度の第2回会合からクラブに参加している古参で、内部親睦派のリーダーに押されていたハリー・ラグルス（ロータリー・ソングを広めた功労者）が、第4代会長として就任し、この年の途中から翌年にかけて混乱の收拾に力を注ぎました。

16 一業種一会員制

大都会の多くの異業種の中から 1 名だけの最良の会員を選んで社交クラブをつくるというアイデアは、ポール・ハリスの原点にあったものですが、このアイデアをロータリーの基本制度に仕上げたのは論理構築に強いシェルドンでした。

シェルドンは、販売学で学んだ職業分類法をロータリーに持ち込みました。それはシカゴの住民の職業を大分類から小分類に分けて XY 軸に並べ、その上に主要な住民を職業別に積み上げて、コンピュータ・グラフィクスのような立体的職業別住民人数のグラフをつくるような作業です。これを鋭利なナイフで水平に切ると、各職業別の代表が 1 名ずつ並ぶ平面が得られ、高い位置で切ると少人数の職種が排除されますが、低い位置で切るとあらゆる職種が網羅されます。切る位置の調整によってその都市毎の特徴のあるロータリー・クラブが構成されるのです。

RC のメンバーは各業界を代表する有能で、影響力の高い人材であるだけでなく、善良な市民であり、そして何よりも良質なロータリアンになり得る人物でなければなりません。それ故に各クラブに設置された「職業分類」と「会員選考」委員会が重要な役割を担っていました。会員は先着順に入会できるのではなく、職業分類に基づいて選考され、もし仮に、同じ職種会員がクラブ内にいれば入会が許可されることはありません。これによって会員は、クラブ内で同業者との無用な対立を避けることができ、あらゆる異業種の人たちから有力な情報を得、それを自分たちの仕事に生かすことができたのです。

ロータリーの活動から相互扶助が消滅してから後も、ロータリーの社会的な評価が高まるにつれてロータリアンであることの誇りが高まったのは、この一業種一会員制によるところが大きいと考えられます。この制度は 2000 年の規定審議会で変更されるまで継続しました。

17 一地域一クラブ制

ロータリー拡大方針に沿って、他都市にロータリー・クラブが新設されていった頃のことです。1909年にロサンゼルス RC が誕生した後、同市に“ロサンゼルス・ロータリー・クラブ”と名乗る別のクラブが創設されました。両クラブは競って会員を勧誘し、ともに 150 名くらいの会員を擁して勢力を争ったということです。

二つのクラブは、シカゴ・クラブの斡旋により 1912 年に合併して、円満解決に至ったのですが、これを先例として 1 行政地域におけるロータリー・クラブの数は一つでなければならないという原則が定められました。

また、クラブ新設には、しかるべき認証の必要性があると論じられ、当初はホスト・クラブが、後には国際クラブ連合会が認証状を発行することになりました。国際ロータリー（RI）への移行後は、上部組織としての RI がクラブ創立の申請を受けて、認証を行っています。

このようにロータリーは長らく一都市一クラブ制をとってきましたが、第二次世界大戦後、大都市で一つのロータリー・クラブでは、要件を満たす職業人をカバーできないことを解消するために、アディショナル・クラブを認めることになりました。1950 年 7 月以降、ニューヨーク、シカゴなどの大都市にクラブ地域区分を別に定めた第 2、第 3 のクラブが創立されるようになり、日本では 1950 年 8 月に東京北 RC と、東京南 RC が誕生し、以後、日本の大都市でも地域区分を分けて複数のロータリー・クラブが創立することになりました。

一業種一会員制、一都市一クラブ制は、制約の多い制度ですが、ある意味では、その制約に基づくロータリアン、ロータリー・クラブの切磋琢磨が求められたと思われ、数の増加だけが発展を意味するものなのか、と考える人も出るようになりました。

1910年初頭、シカゴ・クラブでは第4代会長ハリー・ラグルスの任期満了に伴って次期会長の選出が行われました。このとき会長候補に推されたチェスレイ・ペリーが、軽々しく対立候補を立てて選挙をしたらいいと口にしたことがきっかけとなり、A. H. ラムジーとの間で熾烈な選挙戦が展開されることになってしまいました。

クラブは青組（ペリー）と、紅組（ラムジー）とに分かれて紛糾し、ラグルスやハリスの自粛呼びかけにもかかわらず、二度の選考会議は收拾のつかない状態になりました。三度目の会議では混乱の中、ラムジーが僅差で逆転勝利を得、第5代会長に選ばれました。ペリーはその後、国際RC連合会、RIへと活躍の場を移す中で、クラブの役員選出は会員の直接選挙で行うことを避けて、指名制度とすることをロータリーの「標準定款」の中に盛り込み、そしてロータリー内部での派閥形成を極力防止するという方針を貫いたのでした。これがクラブ単位の分派行動や、クラブ内派閥を認めないロータリーの組織原則になっています。

このような経緯の中で、ハリス、シェルドン、ペリーを代表とする対外活動派の人々の視線は、シカゴ・クラブを離れて連合組織の結成へと向かっていきます。しかしシカゴ・クラブの親睦派の中にも変化が生まれてきました。それはラグルス、ニュートン、ネフ、ラムジーをはじめとする進歩的なグループの出現で、彼らはポール・ハリスらの対外活動派とは別行動を取りながら、親睦の力を結集して、それにサービスの概念を重ねて、対外活動を支えようとするロータリー特有の奉仕姿勢を形成する「中間派」となったのです。

これが今日、「ロータリーにあっては、いきなり奉仕のギアを回すのではなく、まず親睦のギアを回して、その動力を奉仕のギアに伝えなければならない」という言葉になって伝承されています。

19 全米ロータリー・クラブ連合会の設立

ポール・ハリスが目標に挙げていた他地区でのクラブづくりは、1908年に現地の弁護士 H. ウッドの協力でサンフランシスコで初めて実現しました。その後ウッドが熱心にロータリー・クラブの設立に動き、1909年にオークランド、続いてロサンゼルスと、西海岸に次々と新設されていきました。

東海岸では、シカゴ・クラブ第一の人格者と言われた F. ツィードがニューヨークでクラブ作りに成功し、これを契機に全米に拡大しました。

このようにして1910年以前に次の16都市にロータリー・クラブ(RC)が誕生していました。

- ①シカゴ、②サンフランシスコ、③オークランド、④ロサンゼルス、
⑤ニューヨーク、⑥ボストン、⑦バッファロー、⑧カンザスシティ、
⑨ミネアポリス、⑩リンカン（ネブラスカ州）、⑪ニューオーリンズ、
⑫シアトル、⑬ポートランド、⑭セントルイス、⑮セントポール、
⑯タコマ

ロータリー・クラブ拡大の裏には、ハリスとシェルドンがシカゴ・クラブで失敗した対外・社会活動を、全米規模のロータリー管理組織の中で実現しようとしたチェスレイ・ペリーの綿密な計算がありました。

1910年6月、全米ロータリー・クラブ連合会が結成されました。16クラブがシカゴに集まった第1回大会でペリーが議長に選ばれ、ロータリー運動の創始者としてポール・ハリスを初代会長に選出した後、ペリー自身が幹事に指名されました。

大会では、定款、紋章などを検討するとともに、すでに多くの人々の話題に上っていた企業倫理を討議する「企業問題委員会」の設置を決め、会長のハリスは躊躇なくその委員長にアーサー・シェルドンを任命したのです。

第1回全米RC連合会で採択された連合会定款の目的（設立趣旨）条項は次のような内容でした。

1. 全米の加盟ロータリー・クラブ組織によって、ロータリーの原理を拡大・発展させること。
2. 全米の加盟ロータリー・クラブの業務と原理とを統一すること。
3. 市民の誇りと忠誠心とを喚起し奨励すること。
4. 進歩的で誇り得る商取引手法を推進すること。
5. 加盟ロータリー・クラブの個々のメンバーの事業利益を増大すること。 (→資料 31)

条項 3. 4. 5. はシカゴ・クラブの条文にあったもので、企業倫理を問題にする人たち（4.）も、親睦・相互扶助を目指す人たち（5.）も、対外活動の必要性を主張する人たち（3.）もすべてを満足させるものでした。それでは、1. 2. に記されている“ロータリーの原理”とは、何を意味するものでしょうか？ ポール・ハリスはロータリー発展の初期段階で、後に「奉仕」というロータリー活動の基本理念となる考え（idea）が心の中に浮かんでいたと述べていますが、そういったものが“ロータリーの原理(Rotary principles)”という言葉に表されているのかもしれませんが。

さて、シカゴ・クラブでは“自主・自立”の伝統の上に成り立つ“クラブ”活動が、連合体によって支配されるのではないかと、との懸念があって、内部の意見統一に時間がかかり、連合会の定款を承認するのに1年間を要しました。しかしながら、その過程で、連合会には各クラブに対する命令権がないということが確認されました。即ち、連合会は各クラブの集合体ですが、それらを統率する上位組織ではないということです。このことが、12年後にRIの設立という次の段階への発展につながっていきます。

21 “サービス” 概念の提唱

全米 RC 連合会第 1 回大会の最終日の晩餐会の席で、企業問題委員長に就任したばかりのシェルドンが立ち、「商業サービス」に関する after-dinner speech を行いました（→資料 32）。

【スピーチの概要】 19 世紀の実利主義の特徴は競争にあり、世紀末には毎日が食うか食われるかという人間の本能をむき出しにした争いが最高潮に達していました（→ p.25）。・・・・・・20 世紀になって人類は知性の黎明期を迎えました。今世紀の実利主義の特徴は協力することであり、知性の光に照らされた人間は次のようなことを理解するのです。即ち、他人に利益をもたらすことこそが正しい経営学であり、販売哲理が人間に対するサービス学であり、それゆえに

仲間に対して最もよくサービスした者が最も多くの利益を得る

He profits most who serves his fellows best.

ということが理解されます。

私は、ここシカゴの地にロータリー・クラブが創設されたことを歓迎し、そして今、高度な意識へ向かって人類が成長した証拠として、全米 RC 連合会が結成されたこと、それを“サービス”の救世主として 20 世紀の空に輝くきら星の一つとして歓迎するものです。

——シェルドンらしい輝かしい言葉で語られていますが、会場に居合わせた人たちのうちで、どれほどの人がこのスピーチを理解できたでしょうか。卓話という短いスピーチですが、この中で、神に向かって尽くす（奉仕する）という意味の serve という単語が人（仲間）に向かって使用されています。そして“販売”、“経営”という言葉が並んでいて、20 世紀後半にアメリカで発展・定着した商業上の経営哲学（顧客満足 → p.108）に関する知識がなければ、難解なスピーチであっただろうと思われます。これは明らかに商売上の「サービス」について語っています。

22 「商業サービス」の提唱

——シェルドン：1911年のスピーチ原稿

1911年8月、オレゴン州ポートランドで全米RC連合会第2回大会が開催されました。この大会でシェルドンは企業問題委員長として講演のプログラムが予定されていましたが、新しいRCの創設と、自身のビジネス・スクールの設立という二つの用件が重なって渡英中であつたため、用意されていた講演原稿を幹事のチェスレイ・ペリーが代読しました。

私の宣言(MY PLATFORM)と題されたその原稿(→ p.66~67)は、I believe —で開始され、それを受ける形のThat・・・で始まる文章が62項、繰り返されるという少々変わった形式ですが、代読される場合に内容を理解しやすくすることを意識した文章だと思われます。

シェルドンは1910年、1911年、1913年と、1921年に国際ロータリーの年次大会でスピーチをしています、それらを通じて一貫した内容は「商業サービス」です。

我が国の一部では、シェルドンは「職業奉仕」をロータリーに導入した人物であるとみなされ、“職業奉仕の祖”と考えられている面があるようですが、4回の残された講演原稿を見る限り、どこにもVocational Serviceを語った痕跡が見当たりません。

そこで4回のスピーチのうちで「商業サービス」を具体的に語っている1911年の文章の前1／3部分(第18項まで)を次頁に記しました。この項以降の文章には、教育・知性・自然の法則・宇宙の認識、と続き・・・頭脳明晰と言われたシェルドンの頭の中の回転に聴衆がついていけないほどの文章の展開が見られます。そこで後半部を省略し、シェルドンの主張を正しく掌握できるよう前の部分の全文を掲載します。

まず第1に、この文章の中に、商業(commerce, commercial, 第5、15項)、経営・実業(business, 第8、15、16項)、顧客(customer, 第12、13項)、勲員客(patronage, 第15項)、・・・(→ p.68へ続く)

私の宣言

私の信じることを述べる—————

- 1) 私たちは科学の時代に生きている。これまで実用的な努力を積み上げてきたものは、すべて急速に科学的な基礎を持つものにとって変わられようとしている。
- 2) 私たちは適者生存の時代に生きている。
- 3) それは、10 年前よりも現在の方がより多く適合すべきであることを意味し、
- 4) 今より 10 年後の方が現在よりも多く適合すべきであることを意味するでしょう。
- 5) 私たちは商業の時代に生きており、商業や経営は科学である。
- 6) 科学とは、現実を適切な見解、掌握、比較、記録に基づいて単純に分類した常識である。
- 7) 専門職とは科学を実践することである。
- 8) 経営学とは“最もよくサービスした者が最も多くの利益を得る”というサービス学である。
- 9) 経営の取得と確立に関する知識を科学的に体系づけるならば、私たちはそれによって経営を専門職レベルにまで高めることになる。
- 10) いかなる施設の成功も、その施設のサービスに従事した人たちの成功の集積である。
- 11) その店の代表者より偉大な商店はなく、店の関係者は各人がその商店の代表者である。
- 12) 商店の（評判）は、その商店が抱えている顧客によって広められる。
- 13) 顧客を獲得し維持することができるか否かは、その店の代表者の能力次第である。
- 14) 広い意味で人はそれぞれセールスマンである。各人は、サービスであるにせよ商品であるにせよ、何か売るものを持っている。
- 15) 商業上で成功する鍵は、永続的で利益をもたらしてくれる最顧客を獲得する術を持った事業づくりをすることにある。
- 16) 事業づくりの根幹は、人々に品物を買うよう仕向けて利潤を得る力量、即ち販売術である。
- 17) 販売術の根源となる心をサービスと言い、それは買い手と売り手の双方に最終的な満足と利益をもたらす原動力のことである。
- 18) 成功するための自然法則のすべては、特にセールスマン向けに適応された 4 つの指令に要約される。第 1 に己を知ること、第 2 に他の仲間を知ること、第 3 に自らの事業を知ること、そして第 4 にこの知識を活用することである。

* シェルドンの 62 項に及ぶスピーチ原稿のうち、初めの 18 項を原文（右頁）と翻訳文（左頁）で再現しました。

* 原文には番号がありません。ここでは原文と翻訳文との対比を容易にするために番号を振りました。

* “商業サービス”についての文章であることが分かる単語にアンダーラインを入れました。

MY PLATFORM

I believe ——

- 1) That we are living in a scientific age, one in which all lines of useful efforts are rapidly becoming reduced to a scientific basis.
- 2) That we are living in an age of the survival of the fittest.
- 3) That it means more to be fit today than it did ten years ago.
- 4) That it will mean more to be fit ten years from now than it does today.
- 5) That we are living in a commercial age, and that commerce or business is a science.
- 6) That a science is simply classified common sense based upon proper seeing, grasping and recording of facts.
- 7) That a profession is a science practiced.
- 8) That the science of business is the science of service; he profits most who serves best.
- 9) That when business getting and business building are reduced to a science by organizing the knowledge pertaining to them we thereby elevate business to a professional plane.
- 10) That the success of any institution is the sum of the success of the people engaged in its service.
- 11) That no house is greater than its representatives and that every one connected with the house is its representative.
- 12) That a house is known by the customers it keeps.
- 13) That both getting and keeping of customers depends upon the efficiency of its representatives.
- 14) That in the broad sense every one is a salesman; each has something to sell, whether it be service or goods.
- 15) That success in life commercially hinges upon business building, the art of securing permanent and profitable patronage.
- 16) That the life-blood of business building is salesmanship, the power to persuade people to purchase product at a profit.
- 17) That the heart which pumps the life-blood of salesmanship is service—the power to serve to the end of satisfaction and profit of both buyer and seller.
- 18) That all of the natural laws of success may be boiled down to four injunctions which apply especially to the salesman. These are; First, man know thyself; Second, know the other fellow; Third, know thy business; Fourth, apply this knowledge.

(→資料 30 , 34)

(→ 65 頁より続く)…… 販売術 (salesmanship, 第 16, 17 項)、セールスマン (salesman, 第 18 項)、買い手と売り手 (buyer and seller, 第 17 項)、という文言が並んでいます——この文章が Vocational Service を語っていると考える人がいるでしょうか。

[文章全体の要約] 「事業成功の鍵は顧客を確保する技術 (販売術) を持っているかどうかで決まります。販売術の源となる心を「サービス」と言い、売り手と買い手の双方に満足と利益をもたらす原動力です。事業を営むことは経営学という科学を実践することで、それは He profits most who serves best. に基づいた“サービス学”なのです」

第 8 項に、後にロータリーのモットーに採用された文言が存在します。この項の全体をみてください：

That the science of business is the science of service ;

he profits most who serves best.

経営学とは“最もよくサービスする者が最も多くの利益を得る”
というサービス学である。

ここでは経営学 (science of business) = サービス学 (science of service) と語っていて、「(顧客に) よくサービスすると、(客はリピーターとなって商売が繁盛するので)、その結果として、よく儲かるようになる」ということを、最上級の表現形 (most, best) で述べています。まさにピューリタニズムの基本通りの説明です。——何よりも驚くべきことは、現代アメリカ経済の中心になっている経営姿勢 (顧客満足 Customer Satisfaction → p.108) の核心が、1911 年という早い時期にシェルドンによってロータリーで語られていることです。そして、He profits most who serves best. という言葉が、シアトル RC の J. ピンカム (宣言採択委員長) の心を捉え、大会宣言に採用されたのでした。

23 ミネアポリス・クラブの原則

——Service, not Self

ポートランド大会（1911 年）の催し物の一つとして、コロンビア川の船上遊覧が企画され、参加者は船上でスピーチを聞きながらあたりの景色を楽しみました。その中に 1 年前に創立したミネアポリス RC 会長のベンジャミン・F・コリンズのスピーチがありました（→資料 24）。

[スピーチの主要部分要約]

- ・自己の利益が得られると思って入会してくる人たちは間違っていて、それはロータリーではありません。ミネアポリス RC によって採用され、創立当初から定着している原則は Service, not Self（私利・私欲でないサービス）です。

- ・例会の食事チケットは、前週に委員長に指名された販売系の事業所で販売されます。すべての会員はチケットを購入するために彼の事業所を訪れ、そこで彼の人物や事業内容を知ります。それがクラブ内の交友関係を緊密にする方法になっています。

- ・チケットを購入するために余分な時間がかかると不満を述べる人に対しては、「あなたが当クラブの方針である Service, not Self（私利・私欲でないサービス）に従って行動しているなら、彼の事業所へ行く義務がある」ことを伝えます。そこでチケットを買い、事業所や商品を見て、友人となり、しばしば取引を成立させるのです。

——問題の Service, not Self は、このスピーチで語られているように、ロータリーの商取引は“自分がもうけよう（Self）とするのではなく、相手に良いもうけ話を提供しよう（Service）”という意味であると解釈され、それがこのクラブの原則だと述べています・・・さて、ここに突然登場した“Self”という言葉は、当時のアメリカ文化人は如何なる意味に捉えていたのでしょうか。その考察から後にロータリーのモットーになったシェルドンとコリンズの言葉に迫りたいと思います（→ p.100）。

もともと「会員の事業利益の増大」を目的に創設（→ p.52）されたロータリーは早い時期（1906 年、シカゴ・クラブ内）に、相互扶助推進のための Statistician（統計係）という役員が置かれ、会員には会員間の商取引の記録用紙の提出を求め、その集計を例会毎に報告していました。全米 RC 連合会結成後は、連合会の中に；

Local Trading Committee （地域商取引委員会）

Intercity Trading Committee （都市間商取引委員会）

National Trading Committee （全国商取引委員会）

という委員会が設置されて、委員会による商取引の奨励と管理が行われていました。即ち、ロータリアンという相互信頼を背景に、会員は自クラブ内だけではなく、近隣クラブの、あるいは遠隔地のクラブのロータリアンとの間で商取引を積極的、有効的に実践していたのです。会員間の物質的相互扶助活動がどれほど活発であったかは、当時の会員名簿の中に残されていると言われます。各クラブの名簿には会員の住所が記入、されていなくて、事業所名、事業内容、所在地、電話番号が記載されていて、職業別電話帳のような形をとっていたようです。

一方、1909 年にロータリーの閉鎖的商業活動をマスコミから批判されたポール・ハリスは、取引を管理する「統計係」を排除し、会員名簿と出席を管理する Registrar（記録係）によって兼務するようになりました。この 10 年後には、ロータリーは“奉仕の理念”を成熟させ、やがて奉仕団体へと脱皮していく（1922 年 RI への移行）のですが、そこに至る過程では、目をロータリーの外へ向けて、「奉仕」概念の成熟を推し進めようとしている先進的な一部のロータリアンと、その対極に位置して、「相互扶助」活動を通じて自己の利益追求に熱心な多くのロータリアンとが、同じ団体の中に共存していたと考えられます。

北アメリカ大陸中央部、国境より少しカナダ寄りに入ったところにウィニペックという町があります。ここにシカゴ・クラブの会員の従兄弟が住んでいて、ロータリー活動の話を聞いて興味を持っていました。彼がこの地に RC 設立の運動を始めたことを聞いたポール・ハリスとチェスレイ・ペリーが現地に出かけて設立運動を強く支援して、1910年、ウィニペックにアメリカ国外最初の RC が創立しました。

RC の英国への進出は、アメリカで活躍しているロータリアンの出身地であったり、商売上の関係があったりして、それらが有効に働いたようです。

まず、ロンドンにはビジネス・スクールの分校を持っていたシェルドンと、そこに支店を出そうとしていたボストン・クラブの H. ウィラーとが、全米 RC 連合会の指示のもとに協力して働きかけ、1911年にロンドン RC が設立されました。続いてシェルドンが努力してマンチェスター（イングランド）に、またサンフランシスコ RC の S. モローが故郷のダブリン（アイルランド）に RC を擁立し、このようにしてベルファースト（北アイルランド）、エジンバラ、グラスゴー（スコットランド）、リバプール、バーミンガム（イングランド）に RC が広がっていきました。

【ロータリー機関紙の創刊】

1911年1月、ポール・ハリスが書いた「合理的なロータリー主義」（→資料2）という論文を多くのロータリアンに読んでもらうために、幹事チェスレイ・ペリーが“The National Rotarian”という冊子を発行しました。その評判が良かったために、継続して発刊することとなり、ロータリーが国際化した後も引き続いて“The Rotarian”という誌名で、ロータリー哲学と情報を全世界に流しつづけました。それが今日の RI の公式機関紙となっています。

26 「国際ロータリー・クラブ連合会への移行

RCの海外展開の結果、「全米RC連合会」は国際化することが求められました。そこで1912年の第3回（ミネソタ州デュールス）大会では、1910年にさかのぼって連合会の名称を「国際RC連合会」に変更するとともに、この年の第3代会長にグレン・C・ミードを選び、このとき健康上の理由で参加していなかったポール・ハリスを名誉会長に推挙しました。国際化組織の初代事務総長にはチェスリー・ペリーが選ばれ、彼は1942年に引退するまで、実に30年間、この職を務めたのでした。

「連合会」は各クラブの集合体で、話し合いの場ではありますが上位団体としての監督・命令権がありませんので、当時の「連合会」と各クラブはそれぞれ別の定款を持っていました。国際RC連合会には以下に略記するような4項目の「目的」が示されました。

【連合会の目的条項】

- ①ロータリーの原則の標準化
- ②世界各都市へのクラブ設立
- ③クラブおよび会員の活動情報の共有
- ④ロータリアン間の友愛の精神と関心の統一

“Club”と称する組織が自主・自立の結社であるので、この条文は“連合会”としての役割を見事に示しています。即ち、ロータリーの拡大(②)とクラブ間での情報共有(③)という連合会の基本活動とともに、親睦・友愛の精神に加えて、“関心の統一”という微妙的な意識統一を目標に設定したのです(④)——これが何を意味するのかは、各クラブ宛に推奨された標準定款を見る必要があります。

そしてこの条文のトップ(①)に、各クラブの定款を統一することについての指針が示されています。連合会の定款とともに各クラブ宛の推奨定款(目的)条文が提示されました。

27 各クラブへの推奨定款 Objects

国際 RC 連合会が各クラブに推奨したロータリー・クラブの定款 Objects（1912 年）は次のようなものでした。

- ①社会へ奉仕する（to serve society）際には、合法的な仕事（legitimate occupations）の価値とその仕事への誇りを高める。
- ②職業における高い倫理基準（High ethical standards in business and professions）を奨励する。
- ③事業情報と経営法の意見交換によって事業効率を上昇させる。
- ④相互扶助活動に際して交友関係（acquaintance）の増進を図る。
- ⑤公共の福祉（public welfare）と市民との協調関係を進展させる。

——この条文の中で何よりも注目すべきは、第 1 項に記された「社会へ奉仕する（to serve society）」という言葉で、第 2 項の「職業における高い倫理基準（High ethical standards in business and professions）」という言葉とともに、これ以降の国際 RC 連合会から国際ロータリー（RI）を通じて作成・改定されて、現在に繋がっているすべての条文中に、実に 100 年以上にわたって継承されています。

これはシェルドンが 1910 年に語った to serve his fellows（仲間にサービスする——内部互助活動）とは違って、明らかに「社会奉仕を意味する言葉です。これらが第 5 項の市が行う公共福祉と協調して、その役割を高め、ロータリアンの誇りとするよう求めています。

この年から、serve, service という言葉が、社会への奉仕を意味するのか、商業上のサービスを意味するのか、慎重に判断して解釈する必要性が生じてきました。

第 4 項にある「交友関係（acquaintance）」という単語は、RI が相互扶助活動を放棄した 1922 年以降、奉仕の授受関係の中で大切な人間関係を表す言葉として現在の定款にまで残っています。

28 奉仕活動への転換

ロータリーが国際化した当時、定款 Objects（目的）に大きな変更が行われた最大の理由は、前項（→ p.73）に記したように、ロータリーの中心にいた人たちが示した「利己 Self」から「利他 = 奉仕 Service」への姿勢の転換でした。

1911 年にはロータリーの閉鎖性を批判する新聞記事が相次ぎ、ポール・ハリスは各クラブに互惠取引の中止を呼びかけるとともに、会員間の取引記録をつけていた統計係をクラブ役員から除外するという決断を行いました。これによってシェルドンおよびその支持者を除いて、国際 RC 連合会内部の多くの人たちの活動方針は「社会奉仕」と「倫理的な事業行為」という二つの目標に絞られるようになったのです。

1912 年に The Rotarian 誌が月刊誌になると、多くのクラブで「奉仕活動」についての成功談が寄せられるようになりました。

1912 年、ロサンゼルス RC：アメリカ横断高速道路計画に寄付、翌年 1 万 5 千人の貧しい人々にクリスマス・プレゼント。

1914 年、リンカーン RC（ネブラスカ州）：舗装高速道路敷設後援。

1915 年、多くのクラブが第 1 次世界大戦救援物資としてベルギーから大量の小麦粉を購入して支援。

1916 年、ボストン RC：事務所でロータリー活動を支援する青少年を対象に事業倫理講習を行う。

1917 年、デトロイト RC：障害児のための野外キャンプを後援。

1917~18 年、オークランド RC：数千足の靴を戦争難民に送る。

ニューヨーク RC：復員軍人を対象とする就職案内所を設置。
——このように人道的支援 = 社会奉仕の活動が活発になってきた反面、「商業サービス」に関するシェルドンの主張も執拗になり、次第に両者間の溝ができてきている様子がうかがえます。

29 シェルドン；1913年のスピーチ

1913年のバッファロー大会において、シェルドンは3度目のスピーチを行っています。4年間に3度という頻度がロータリーにおける当時のシェルドンの立場を示していると思われます。

「効果的な能力に関する哲学と倫理」（講演要旨）

長い間、解決できなかったロータリー理念の中心的な思考である「サービス」への光明を、インドの哲学者ガバン・ダスの書物の中の神秘的な言葉、真理の3原則「量・質・状態」に見出しました。

ロータリアンの職種が何であれ、そこでは支払われたお金に相当する正しい量、正しい品質を提供し、企業管理、サービスも正しく、それに伴う信用も満足度も正しいものでなければなりません。それによって顧客はリピーターになり、企業が成果を上げるようになるのです。敢えて言うならば、金儲けをすることは決して悪いことではないのに、それを否定する人が世の中には沢山います。その考えには同意できません。

世界中の偉大な宗教は、他人に対する善行をあの世へ行くためのパスポートであると説いてきましたが、世界中の人々はこの世で今、その配当をもらっているということに目覚めるべきです。キリストの黄金律では「すべての人にせられんと欲することを他人にもその通りにせよ」と説き、孔子は否定表現で「汝の欲せざることを他人にも施すことなかれ」と説いています。いまロータリーでは取引における言葉として「最も多くサービスした者が最も多くの利益を得る」と言えるようになったのです。小さな火は常に小さな熱を発し、大きな火は常に大きな熱を発するのが、原因と結果の法則です。ここでサービスが火であり、報酬が熱であるのです。・・・ 私たちがサービスするときには、サービスしていることが解るようにして下さい。何をどのように開発し成長させるかという原因の結果として、人間の能力が生まれ、成長するのです。

2年間国際（全米）RC 連合会会長を務めたポール・ハリスの後を受けて連合会会長になったグレン・ミード（フィラデルフィア RC）は、「ロータリーは実業界の古い秩序から新しい秩序への頑丈な架け橋を築くもの」と述べ、職業倫理の高揚に貢献しようと提唱しました。ミードと後任のラッセル・グレイナー（カンザス・シティ RC）は、実業界に対する民衆の信頼を回復させるためにロータリーには役割があると考えました。当時の社会には、ポール・ハリス、A. F. シェルドン、チェスレイ・ペリーが残した言葉（→ p.25）に見られるような、不正で詐欺的な商行為が横行していて、消費者保護法も広告規制もありませんでした。

1913 年のバッファロー大会で「倫理訓」を起草する目的で、アイオワ州・シューシティ RC の R. ハントを委員長とする委員会の設置が決められました。ハントは全世界のロータリアンからアンケートを取り、これを分類整理して一つの文章に表現する作業に取りかかったのです。ところが道半ばにして彼は職業上の都合により作業継続が困難になり、後任を同クラブの友人であった牧師の J. パーキンスに託しました。

パーキンスは 1914 年のヒューストン大会に出席するためアイオワからテキサスへ向かう汽車に乗り、シカゴから乗り合わせたシカゴ RC の H. アングスターの協力を得て、車中の作業でハントがまとめた 5000 字の報告書を 500 字に短縮することに成功しました。この原案はさらに 1 年間の検討を経て、1915 年のサンフランシスコ大会で「ロータリー倫理訓（Code of Ethics）」として採択されました。

この「倫理訓」を基にして、全米レストラン協会の倫理訓（フィラデルフィア RC、ガイ・ガンディカー制定）をはじめとして、全米で 145 件もの業界倫理基準が制定されたことが、シカゴ大学の調査によって報告されています（→資料 5）。

「全分野の職業人のためのロータリー倫理訓」

——職業生活のあらゆる場面において考えねばならないことは、責任と義務を果たすことであり、国際ロータリーの職業倫理の基本は以下の原則に従うことである。

1. 自らの職業の価値を認め、その職業を通じて社会に奉仕する機会を与えられたものと考えること。
2. 自らの修身と実力の涵養に努め、奉仕活動を広めること。「最もよくサービスする者が最も多くの利益を得る (He profits most who serves best.)」というロータリーの原則を実証すること。
3. 自らは経営者であり、したがって成功の野心を抱いていることを自覚すべきである。しかし倫理を重んじ、正義と倫理に基づかない成功を望んではならない。
4. 自分の商品・労働・アイデアを金銭化することは、それによって関係者すべてが利益を受ける場合にのみ合法的であり倫理的であるとの信念を持つ。
5. 自分の職業の倫理基準を高めるために最大の努力を払い、自分の職業の処理の仕方が賢明であって、利益を産み、この実例に倣えば幸福の道が開けることを同業者に知らせること。
6. 同業者と同等ないしはそれ以上の完全なサービスを尽くして企業経営を行うべきこと。
7. 専門家と実業家の最大の資産は友人であり、友情を通じて得られたものこそまさに倫理的に正当なものである。
8. 真の友人には互いに何も要求するものではなく、利益を得るために友人の信頼を利用することは、ロータリー精神にもとる。
9. 社会秩序の立場から他人が絶対に認めないような不正な方法による機会を利用し、これによって得た人の成功を正当かつ倫理的なものと考えてはならない。また、物質的成功を得るために、人が倫理的に問題ありとして退けるような機会に乗じることがあってはならない。
10. ロータリーの神髄は競争ではなく協力であるから、仲間外れや差別意識を排除すること。人権はロータリー内部に限られたものではなく、その範囲と重要性とは人類そのものの存在と同等のものであることを主張する。
11. “すべての人にせられんと欲することを他人に対しても行うべし”という黄金律の普遍性を信じ、地上の天然資源が機会均等に分与されることによって最良の社会状況が得られることを主張してやまない。

(→資料 5, 28, 33)

第2項でシェルドンの言葉“*He profits most who serves best.*”をロータリーの原則であると記述しています。さらに第2, 4, 5, 8項に profit または profitable という単語が用いられていて「利益」を意味しています。この文中の“*商売→金銭的な内容*”が濃いことが「社会奉仕」支持派に嫌われて、後に頒布禁止・廃棄処分 (→ p.106) に繋がったのではないかと考えられます。

国際 RC 連合会が結成されてから 5 年経過した 1915 年に、ロータリーの基本理念と原則をパンフレットにまとめて出版するという企画が持ち上がりました。それを担当したのが「哲学と教育に関する委員会」で、その委員長がフィラデルフィア RC のメンバーで、後に RI 会長を務めたガイ・ガンディカーでした。

当時は、クラブ数も、メンバー数も急速に膨張していったロータリーの成長初期の時代で、まだクラブ内の機構・運営に統一的な規定がなく、各クラブが暗中模索していました。したがって、この「ロータリー通解 (A Talking Knowledge of Rotary)」と称するパンフレットはクラブやロータリアンに対して、ロータリーの組織機構、運営、活動等についての指針を示したものであって、1916 年のオハイオ州・シンシナティ大会で参加者の全員に配布されました。

Talking Knowledge とは“入門書”のようなもので、次頁の目次と概説が掲載されています。その中には、前年度のサンフランシスコ大会で採択された「ロータリー倫理訓」が含まれているほかに、注目されるのは、2 番目の項目「ロータリアンたる者の成すべきこと」の中の Profit (利益) という見出しです (→資料 29)。

ここでは Profit という単語がもつ金銭的な“利益・儲け”という意味ではなく、人間的な“益”即ち、ロータリアンがより立派な、より規模の大きい人間となり、周囲の人々や社会に対し奉仕することに関して与えられた機会のことをいう、と記しています。この文章に続いてコリンズの言葉とシェルドンの言葉が記入されていますが、それらが登場した当時の商業的サービスには触れていません。これは前年の「倫理訓」以来、Service という概念が金銭的な内容 (商業サービス) から離れて精神的な内容 (奉仕) へ転換していく初期の変化を示す文書であると思われます。

A Talking knowledge of Rotary (ロータリー通解)

ロータリー・クラブの構成と諸目的

各会員の個人的向上

理想・実際の両面にわたる会員企業の向上

会員の属する職種全体の向上

会員の家・町・州・国および社会全体の向上

ロータリアンたる者の成すべきこと

出席

ロータリアンの活動（個人的活動、クラブ活動、同業者の団体における活動、公共的かつ慈善的奉仕）

利益 Profit

自己の企業発展のための活動、同業者の団体内の活動、公共的または慈善的活動の結果、人はどのような利益を期待しうるか。その者が得る利益とは、商品生産価と販売価との差額から生ずるところの近視眼的かつ些末なものではない。

利益とはすべてのロータリアンが、もっと立派な人物そしてもっと規模の大きな人物になり、そして自己に対し、同僚たるロータリアンに対し、また社会一般に対して、もっとすぐれた奉仕をすることに対して、与えられた機会のことを言うのである。

Service, not Self.

He profits most who serves best.

ロータリー・クラブの会員を真のロータリアンに改善すること

ロータリー・クラブの各会員に対する義務と責任

昼食会、夕刻の会合

自己の職業分野と社会に対するロータリアンの義務と責任

自己の職業分野に対する会員の義務と責任

会員の社会に対する義務と責任

ロータリー宣言

全分野の職業人のためのロータリー倫理訓

——1915年7月、サンフランシスコにおける第6回R C国際連合会年次大会決議——

ロータリー・クラブ

目的 Object

特典

義務

ロータリー精神

(→資料 29)

32 地区制とガバナー制度の導入

ロータリー・クラブの数が増えて（当時約 200）、アメリカ全土から海外にまで展開すると、インターネットやテレビ電話の無い時代ですから、本来、自主・自立を旨とするクラブの活動内容を中央（国際 RC 連合会）が掌握することは、まことに困難でありました。そこで、ある程度の範囲を区切って、その内部の各クラブの活動状況を監督しようとの動きが起こってきました。

事の起こりは 1914 年にイギリスおよびアイルランドの RC が「大英帝国・アイルランド内 RC 連合会」という自治組織を結成したことにあります。そもそも“クラブ”という結社は英国で生まれ、発展してきた自主・自立姿勢の強い組織ですから、英国内で自主的な連合組織を作ろうとしたのかもしれませんが。そして、この地域組織は同年に開催されたヒューストン国際大会で承認されたのです。

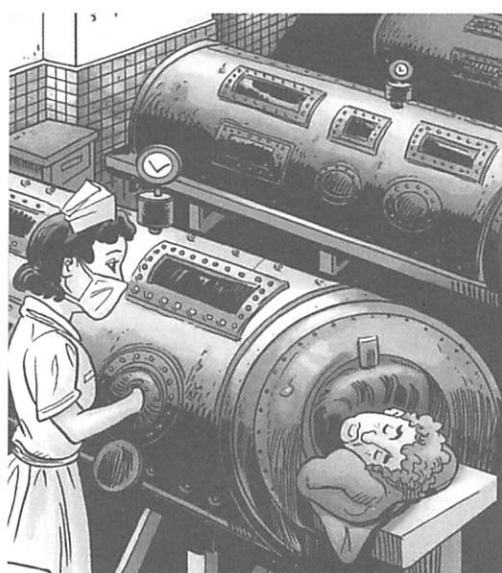
これがきっかけとなったのでしょうか、翌 1915 年のサンフランシスコ大会では、国際 RC 連合会に“地区制”が取り入れられ、国際連合会の役員である“ガバナー”が地区内のクラブを指導・監督するという制度が導入されました。しかし既成の大英帝国・アイルランド内 RC 連合会にはこの制度が適用されませんでした。そして 1922 年に“連合会”が“国際ロータリー（RI）”へと改称し、1927 年に世界中のクラブが RI の直轄となって、地域自治制が否定された後も、“大英帝国・アイルランド内 RI”の所属するクラブだけは別格の扱いを受けていました ----- 即ち、RI 成立以前に結成していたという既得権（年会費の半分を内部保留する）が認められたということです。この問題は 1967 年になって英国のクラブも RI の直轄方式を受け入れることに合意して解決しましたが、その後も長い間、“大英帝国・アイルランド内 RI”という名称だけが残されていたことをご存じの方も多いと思います。

33 身体障害児救済活動——ポリオ対策の始まり

ロータリーが社会事業として身体障害児対策を行った最初のクラブは、ニューヨーク州のシラキュース RC で 1913 年のことでした。1915 年にはオハイオ州のトレード RC ほか多数のクラブが障害児対策に立ちあがり、1917 年にはオハイオ州のエリリア RC のエドガー・アレンが強く提唱した「全米身体障害児協会」が設立され、それを通じて多くのクラブが支援活動を行いました。

この活動が何を意味していたかを正確に知っている日本のロータリアンは少ないと思います。実は、1916 年にニューヨーク州だけで 2 万 7 千人がポリオに感染して身体障害を発症し、9 千人が死亡するという大流行が発生したのです。ポリオウイルスは遺伝子変異性の高いウイルスで、年によって大流行をきたしたり、神経節破壊が強く身体障害が強く現れる感染を起こしたり、両者が重なることもあって、アメリカでは 1910 年代に何年にもわたって繰り返して大流行に見舞われていたのです。

当時、まだワクチンが開発されていませんから、後日の“ポリオ・プラス活動”とは質的に異なるものですが、すでにこの当時のロータリーに、鉄の肺（人工呼吸器、右図）や下肢の装具提供など、ポリオ対策活動が芽生えていました。



（資料 71 より）

34 米国が第1次世界大戦に参戦——「禁酒法」下のシカゴ

1910年代後半は、ロータリーの活動（方針）を巡って様々な、複雑な問題が持ち上がってきた時代でしたが、ロータリー外の一般社会にとっても問題の多い時代でした。

第1次世界大戦参戦 1914年に欧州で勃発した第1次世界大戦に、米国は当初、ヨーロッパの国際紛争には関与しないという孤立主義（モンロー主義）を貫いていました。ところが大西洋上の米国の船舶がドイツの潜水艦に轟沈される（ドイツの無制限潜水艦作戦）ようになって、ついに米国は1917年4月、ドイツへ宣戦布告をして第1次世界大戦に参戦しました。かくして米国社会の工業化に拍車がかかり、五大湖に面した重工業地帯（シカゴを含む）への人口集中も一層激しくなってきました。

第1次世界大戦の末期は皆さんがご存じのとおり、1919年に戦闘の最前線でスペイン風邪が大流行し、初め連合軍側に広まり、続いてさらに悪性度を増したインフルエンザがドイツ軍側に広がり、弾に当たらぬ兵士が塹壕内で次々死亡するという事態に陥って、戦争終結に向かいました（1919年6月、ヴェルサイユ講和条約）。

禁酒法成立 19世紀末の欧州大不況に端を発したアメリカ移民の中に、多くの地中海沿岸諸国からの人々がいました。彼らには発酵・醸造の技術を持っている人がいて、アメリカ社会の中で闇醸造酒の製造・販売が問題になっていました。

一方、当時ピューリタニズムが支配的な社会の福音主義的強化運動として禁酒運動の高まりがあり、1910年代半ばには米国の26州が州法で禁酒を実施していました。それが第1次世界大戦へ参戦した1917年になると、労働者の工場規律と生産能力向上という実利目的の政治・経済的社会規制運動となって、連邦国家として禁酒法（憲法修正第18条）を成立させるという前代未聞の社会が成立したのでした。

黒人ジャズメンの移動 この頃、中・南米方面ににらみを利かせるためにニューオーリンズに軍港建設が始まりました。この町は南北戦争後、黒人が移り住み、ブルース・ジャズのメッカとして繁栄していたところでしたが、多数の軍人移住のために酒場やレストランの密集する下町が解体され、再開発されることとなったため、職場を失ったジャズメンたちがシカゴへ北上する（→ p.19）ことになったのです。シカゴには、闇の酒をふるまう酒舗とサロンが存在し、そこでジャズ演奏が求められたからでした。この時期から 1930 年代初めまでシカゴは“ハウス・ミュージック”発祥の地として発展していきました（→ p.24）。

マフィアの台頭 禁酒法下の社会では、密造酒と密輸酒を巨大な財源とするギャングが台頭してきました。シカゴでは、1920 年にニューヨークから移ってきたアル・カポネを頂点とするマフィアが、やがて政界・警察・司法を買収し、数多くの暴力・殺人事件を起こして、力で社会を牛耳るようになっていきました。彼らはようやく町を走り始めた T 型フォードを駆って銃を撃ちまわる、あの映画“アンタタッチャブル”に描かれたようなシカゴの町をつくっていたと思われます。

——この頃、国際 RC 連合会内部でも、各 RC 間でもロータリー活動の方針を巡って様々な動きがあり、見解が錯綜していた時代でした。時代を象徴する言葉として、1912 年以降、1915、1918、1921 年の定款 Objects に、「あらゆる合法的な仕事(all legitimate occupations)は価値がある」という文言が挿入されていました。

注目すべきは、その条文の中に「社会に奉仕する機会が与えられた際には (as affording him an opportunity to serve society)」という言葉が添えられていた（→ p.7）ことで、ポール・ハリスの意志が条文の中でも次第にその位置を高めてきていることが解ります。

35 国際的支援活動

ロータリーが国際的な支援活動を行った最初の記録は、1914年に結成された英国・アイルランド RC 連合会（RIRC）が同年に開始した戦争難民救済活動でした。戦禍の直接及ばない英国でロータリーがヨーロッパからやってきた難民の救済に立ちあがったのです。

後には、第1次世界大戦に出兵したロータリアンの子弟を、英国のロータリアン家庭がホストしたり、米・英・アイルランド・カナダのクラブが、ヨーロッパ各地の戦争難民への物資供給や、傷病兵に対するボランティア活動を行いました。

1917年、米国が第1次世界大戦に参戦したとき、ルーズベルト大統領は、アーチ・クランプ国際 RC 連合会会長に対して、「利害が相反する国家間の同盟や友好関係が信じるに値しないのに対して、ロータリーを組織する人々の交流は確実に相互理解を深める」というメッセージを寄せています。

【アーチ・クランプ基金→ロータリー財団の設立】この年、クランプ会長の提唱によって、国際理解と親善を目的とする基金（アーチ・クランプ基金）が創設されました。しかし時期が戦争中であり、またその設立が早急であったために基金が集まらず、本格的な組織確立は、1928年に「アーチ・クランプ基金」から発展した「ロータリー財団」が設立され、RIから独立して運営されるようになってからのことになります。

そしてロータリー財団は1931年に基金運営のために信託制度を採用入れ、信託組織になりました。

ロータリー財団の活動が今日のような活発な様相を見せるようになったのは、1947年、ロータリーの創始者ポール・ハリスの死去に対して世界中の RC から多額の弔慰金が寄せられ、それが全額、故人の遺志によって財団に向けられたからです。

36 各クラブ共通の定款 Objects の提唱

クラブの自主性を最大限に尊重した国際 RC 連合会では、各クラブはそれぞれ独自の定款を有し、クラブ運営にも自主性が残されていました。そこで定款 Objects (クラブ設立趣旨) を統一しようとの動きが起って来ました。まず連合会規定の中の「目的条文」が 1918 年、カンザス-シティ大会で以下のように示されました (→資料 31)。

国際 RC 連合会の Objects (目的条文) 要約

1. ロータリー・クラブの拡大と監督
2. ロータリー・クラブの運営と活動の標準化
3. 連合会および各クラブの活動を通じて奨励されるべきこと
 - a. 職業上の高い倫理基準
 - b. 価値ある企業活動の基礎として“サービスの理念”(The ideal of **SERVICE**)
 - c. 地域社会の繁栄と倫理高揚への積極的関心
 - d. 商取引に伴う交友関係の発展
 - e. 事業構想および運営方策の互換
 - f. 社会に奉仕する際の合法的な仕事の価値とその仕事への誇り
4. ロータリーの紋章

———この中でキャピタル文字を用いて特殊表記した **SERVICE** が何を意味するのかは、どこにも記されていません。

1919 年のソルトレーク・シティ大会では、この連合会の定款 Objects を各クラブの定款にも採用するよう推奨しました。各クラブがこれを受け入れることで、ロータリーの設立趣旨を記した文章(定款「目的」条文)が、連合会と各クラブで一つになったのです。国際ロータリー(RI)では、RI とクラブの Objects が統一されていますので、ここでは、RI への移行の 3 年前に先行実験したようなものです。

37 初めてアメリカ国外で年次（国際）大会を開く
—— 定款に二つの ideal of service が出現

1921 年の国際 RC 連合会の年次大会が初めて米国外に出て、スコットランドのエジンバラで開催されました。この大会に関連して重要な事柄を二つ記しておく必要があります。

① 新しい定款 Objects が提示されました。それは前頁の 1918~19 年の条文の第 3 項の後に、次の第 4 項が挿入されました。

4. “ロータリーの奉仕の理念” (the Rotary Ideal of Service) に結ばれたあらゆる国の職業人からなる団体 (a fellowship) を通して国際平和と親善の促進に助力すること

——ここにまた、次の二つの問題が持ち上がりました。

その第 1 は、第 3 項に示された **the ideal of SERVICE** と似て非なる **the Rotary Ideal of Service** という文字が第 4 項に出現したことです。同じ内容であるなら別の表現をとる必要がありませんから、これは別の ideal（理念）で、この二つは対立関係にあると考えられます。

その第 2 は、商業関係の記述である第 3 項と分離して、第 4 項に国際活動を提示し、それを団体活動として実行することを示したことです。本邦では a fellowship (㊦団体) を正確に翻訳できず、㊦親睦・親交と誤訳したため、長い年月にわたってロータリーが団体活動を行うことについての理解が欠けていました。

② この大会にシェルドンが招かれ、スピーチを行いました。そこで大会抄録として別に用意した長大な文章を提出したとされます（→資料 32）。The Philosophy of Rotary と題するその文章は英文タイプで A4 紙 35 枚（田中 毅 PDG の翻訳文で A5 版 48 頁）に及ぶもので、大会記録としては長大に過ぎると考えられます。そこで英国 RC 連合会とシェルドンとの間には、すでに心情的な対立関係（→ p.101、102~107）があって、後にそれが進展して行ったのではないかと考えられます。

—The Philosophy of Rotary—

・ロータリー哲学はサービスの哲学です。当然のことながら、"Service above Self. He profits most who serves best." というモットーの源泉から流れ出ています。ロータリーの基本である「サービスの原則」は人間関係の自然の法則ですから、物体に対する重力の法則と同様です。

- 1) 空気より重い物体は、それを支えている物を除けば地面に落ちるのは当然のことです。
 - 2) どんな業種でも事業成果は、その生産物を通して世間に最もよくサービスしている企業のもとに寄ってくるのは、当然のことです。
 - 3) 従業員に最善のサービスをしている企業に、良質の従業員が魅せられてやってくるのは当然のことです。
 - 4) 企業に対して最善のサービスをした従業員に、昇給や昇進の機会という魅力を与えるのは、当然のことです。
- ・適者生存の法則は、肉体的、精神的な力を利己的に行使して生存する法則ではありません。それは最もよくサービスする者が生き残る法則であり、精神力や正義感が、その力を作る自然要素の一つなのです。
- ・かつての雇用主は、従業員が自分に対して最大限のサービスをすることを要求しましたが、顧客にサービスすることを望んだりしていませんでした。ところが近年、世界中の雇用主は、雇用主と従業員の双方が企業全体として顧客に与えるサービスこそが、取引の持続性や、収益の継続性を保証する唯一の方法であることに気がきました。顧客に対するよいサービスこそが健全な経済学なのです。
- ・私たちが生存するためには、基本的な必要条件である衣食住を満たし、文化という装いを身につける必要があり、そのためには金銭が必要です。ロータリー哲学は、交換手段として金銭の必要性を認め、財産権を否定することに妥協しません。すべての個人やすべての企業が稼ぎ出す金銭は原因ではなく結果であり、公正に稼ぎ出した金銭はサービスの対価として支払われた賃金なのです。
- ・最善のサービスをすれば、精神的な価値だけでなく物質的な利潤においても、最高の「利益」を得ることができるのです。
- ・世界中の人々のおよそ 95% は従業員であり、5% が雇用主です。強力な特権と大きな義務と責任がその 5% に集中しています。雇用主にはサービスの基本原則と人間活動に関する自然の法則を知り、それを教える教育者としての義務があります。

(商業的内容: 要点概説)

(→資料 23、32)

シェルドンの主張は後に米国で確立される「顧客満足」経営(→p.108)を先取りするものでしたが、当時ロータリーで熟成しつつあった Service (奉仕) に関する精神的・哲学的理念とは相いれなかったようです。

38 「国際ロータリー」(RI) への移行

国際 RC 連合会が全世界の RC の中心という立場にたって 12 年目の 1922 年、ロサンゼルス大会でいよいよ新しい世界機構である国際ロータリー Rotary International (RI) へ移行しました。頃もよし、といった感を与えるのは、同じシカゴに生まれた後発のライオンズ・クラブ (1917 年創立) が、創立当初から団体奉仕活動としての分かり易い性格を定款上に示し、国際協会という世界規模の組織展開を行ったことにあります。

一方、私たちの RC は、既に学んできたように、先発団体として苦難に満ちた成長期を体験し、その中で、ロータリー特有の“奉仕の理念”とクラブという“道場”を成熟させてきました。しかしながら後述するように、この当時“Service”の理念には異なる 2 方向の主張があり、実践としての社会奉仕の概念も定まらず、国際奉仕にも具体的な内容が伴いませんでした。これらが明確に定義づけられたのは 1927~28 年の「目標設定計画」以降のことになります。

さて、新機構 RI は機構としても組織性格の上からも注目すべき新機軸を有していました。

RI は、ロータリーの設立趣旨を記した「目的条項」を含む“標準定款”を定め、各クラブにはその標準定款の採用を義務づけました。これによって世界の RC は共通の目的・基盤の上に立ち、そして RI は各クラブをメンバーとする上部管理団体としての位置づけ (直轄方式) を明確にしました。(但し、既成クラブには標準定款の採用も、RI による直轄方式も強制しませんでした。RI と各クラブとの関係が最終的に確立したのは、1927 年のオステンド (ベルギー) 大会で、RI の全クラブに対する直轄方式が確定してからのことになります)

この改訂に歩調を合わせて、例会の出席規定、メイクアップ規定など、クラブ運営に付随する諸規定が定められました。

The Constitution of Rotary ロータリーの定款（1922 年）

Article III Objects of Rotary 第3条 ロータリーの目的

ロータリーの目的は以下の条項を奨励することである；

1. 全ての価値ある企業活動の基礎としての the ideal of SERVICE。
2. 職業における高い倫理基準。
3. ロータリアンは個人、職業人および社会の一員としての生涯を通して the ideal of service を実地応用すること。
4. 奉仕の機会があれば交友関係を発展させること。
5. 社会に奉仕する機会があれば、（奉仕に）役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、ロータリアン各自が行った仕事に誇りを持つこと。
6. The Rotary ideal of service に結ばれた職業人の世界的な団体を通して理解と親善と国際平和を促進すること。

この条文は、(1) ロータリーが現在と同じ機構：国際ロータリー（RI）になって初めて制定された定款であるという点で、(2)Service 概念の転換過程を語っているという点で、極めて重要な意味をもつ歴史的資料です。

＊歴史を通してロータリーの条文で初めて「Objects 目的」という言葉が登場しました。文章中の動詞は前文の中の“encourage and foster（奨励する）”のみで、6項目には動詞がなく、すべて名詞語節で書かれています。

＊RIに移行した時点で、RC創立以来の活動目的であった「相互扶助（互惠）活動」が定款目的から完全に削除され、ロータリーの組織性格に決定的な変化が生じたことです。前年までの条文では第4項の後半に相互扶助活動を示唆する文言がありましたが、これが削除されています。

＊（1921 年の国際 RC 連合会定款において指摘したこと（→ p.86）ですが）

第1項の“the ideal of SERVICE”と、

第6項の“the Rotary ideal of service”

という二つの“service”理念の対立が、そのままの形で RI に持ち込まれています。前者は、この言葉が定款に登場した年代および消滅した年代とロータリー内部の動きから判断して、シェルドンが唱える「商業サービス」を意味するものと考えます。それに対して後者は、同時期に各地の RC の中に芽生えてきた「人道的支援（身体障害児救済活動、戦争難民救済活動など）」を意味するものと考えられます。

第4項、第5項にあるserveという単語は理解しやすいのですが、第3項の the ideal of service はどちらの意味と捉えたらよいのかわかりません。

39 活動方針を巡る対立

1913 年以来、多くのクラブが身体障害児救済活動に取り組んできましたが、問題は「全米身体障害児協会」を設立したエリリア RC のエドガー・アレンが、この協会に対して国際 RC 連合会の協力を求めたことから起こってきました。

1922 年、エリリア、トレド、クリーブランドの 3RC からの共同提案を受けた RI 理事会は決議 22-17 を採択し、「身体障害児の治療に意欲を燃やす RC の人道的活動を賞揚し、この運動が地域社会における奉仕の機会を提供するものであることを各クラブが認識するように求める」と述べました。しかし RI は同時に「身体障害児救済事業に気乗りしないロータリアンにそれを強制することは好ましくない。身体障害児問題が如何に立派な事業であっても、それに夢中になってロータリーの基本的な目的を見失ってはならない」という、前記の決議に反するような宣言を行っていました。このような RI 理事会のはっきりしない態度は、翌 1923 年のセントルイス大会で、決議 23-8「障害児およびその救済活動に従事する国際的組織を支援するための、障害児救済に関する方針」を採択しようとして、混乱の極致に達しました。これは身体障害児対策を積極的に推奨して「身体障害児協会」の仕事をロータリーが代行し、その費用援助のために全世界のロータリアンから年間 1 ドルの人頭分担金を徴収するというものでした。

もしこの決議が採択されたならば、ロータリーは、すでに身体障害者対策に取り組んでいたライオンズ・クラブと差のない“団体奉仕”クラブになるばかりでなく、基本的なクラブ自治権までもが失われるので、シカゴ RC の P. ウェストバーグ会長、ラフス・チャパン・パスト会長を中心とした一大反対キャンペーンが展開されました。それはまさに、ロータリー分裂の危機をはらむものだったのです。

1923 年の大混乱を招いた対立は、奉仕の心の育成を目指す「理論派」と、具体的な奉仕の実践を重視する「実践派」との論争であると理解したり、個人奉仕（I serve）か団体奉仕（We serve）か、「奉仕の理念」か「金銭奉仕」か、という対立であるとの見方をされてきました（→資料 7、8）。いずれも間違いではないと思いますが、歴史の流れから見た実態は“商業サービス”（シェルドン主導）と、この頃ロータリー界に広まってきた“人道的支援”（ポール・ハリスが支持）との、ロータリー活動の路線対立であったと考えられます。

ロータリー分裂の危機にあったセントルイス大会の大混乱を収めたのが、テネシー州ナッシュビル RC のウイル・メーニアと、シカゴ RC の P. ウェストバーグでした。彼らは決議委員の指名を受けて、わずか 2 日間で決議 23-34 の文章を書き上げ、その成立と引き換えに決議 23-8（身体障害児支援団体奉仕案）を撤回させることに成功したのです。

この決議は当初の標題が「ロータリーの目的に基づく諸活動に関する方針」とされていたように、対立の解消を図るとともに、ロータリー活動全般に関する根源的な指針を示したものでした。ところがこの決議はわずか 3 年後の 1926 年に標題が「社会奉仕に関するロータリーの方針」に変更されたほか、度重なる部分修正が加えられました（下記）。ここで注目すべきは、“諸活動”という複数の方針が“社会奉仕”という単一の方針にすり替えられていることです（→ p.102）。

1926 年（決議 26-6）：標題改変、第 1 項を定款に即して修正、語句変更。

1936 年（決議 36-15）：第 4 項の追加変更。

1951 年（決議 51-9）：定款改定に伴う語句変更。

1964 年（決議 64-43）：第 4 項再修正、団体奉仕と個人奉仕の定義。

1966 年（決議 66-49）：広報活動の必要性。

決議 23-34—社会奉仕に関する 1923 年の声明（改定後）：概要

ロータリーにおける社会奉仕は、どのロータリアンも各自の個人的、職業的、および地域社会の一員としての生涯において、奉仕の理念を実地応用することを奨励することである。社会奉仕活動へのロータリーの方策を編み出すために、以下の原則が採用された。

1.（奉仕哲学） 基本的にロータリーは人生哲学であり、私欲のために利益を得んと欲する心と、他人に奉仕しようとする義務感がもたらす衝動との間に存在する心の葛藤を調整するものである。この哲学は“Service above self”という奉仕の哲学であり、“He profits most who serves best”という実践的な倫理信条に根拠を置くものである。

2.（ロータリアンの使命） ロータリー・クラブは奉仕の哲学を受け入れ、次の項目を体得しようと努める職業人の代表からなるグループである。

第1：奉仕理論が職業と人生における成功と幸福の基礎であることを集団的に学ぶこと。

第2：内部に対しても地域社会に対しても、成功の実例を集団として示すこと。

第3：各人が個人として、職業及び日常生活において奉仕理論を実践に移すこと。

第4：ロータリアンと非ロータリアンのすべてが奉仕理論を受け入れるよう働きかけること。

3.（RIの役割）

（1）ロータリーの奉仕の理念を擁護し、発展させて全世界へ広げること。

（2）RCの設立、奨励、支援を行い、運営を監督すること。

（3）各クラブに生じた問題の検討と助言を行い、業務と社会奉仕活動の標準化を図ること。

4.（クラブが行う奉仕活動の基本） ロータリー哲学は主観的であってはならず、行動の中で示さねばならない。各RCは毎年度、一つの主軸となる社会奉仕活動を後援することが好ましく、それもできれば毎年異なっていて、その年度に完了するものであることが望ましい。

5.（クラブの自治権） 個々のRCは、クラブとして心を動かし、地域社会に適した社会奉仕活動を選ぶことについて、絶対的な自治権を有している。

6.（奉仕活動に関する指針） a) RCは、適当な市民団体等が存在しない地域においてのみ、全体的社会奉仕活動に携わるべきであり、商工会議所が存在するところでは、RCはその役目を邪魔したり横取りしたりすべきではない。

b) どのように価値ある事業であっても、その事業を完遂する責任を負う心づもりがない限り、プロジェクトの保証（裏書）をすべきではない。

c) 宣伝をすべきではないが、プロジェクトについての相応しい広報は行われるべきである。

d) 事業の重複を避け、他の機関によって処理されている活動に手を出すべきではない。

e) RCが新たな機関を作るよりも、既存の機関があればそれを改善することが望ましい。

f) RCはすべての活動の中で伝道者として最大の働きをし、最高の成功を収めている。

g) RCが団体奉仕を行うことよりも、すべてのロータリアンの個人的成果を集めた奉仕活動の方がロータリー精神に叶っている。

41 ロータリーへの批判

“ロータリー倫理訓”が社会、とくに商業界に与えた影響がたいへん強烈なものであったために（→p.77）、反面、当時の知識人の一部から批判が浴びせられることになりました。バーナード・ショーは「ロータリーはどこへ行くのだろう。昼食を食べに行くのさ」と皮肉を言い、H.L. メンケンとクラレンス・ダローもショーに劣らない非難を行いました。

最も大きな関心と呼んだ攻撃は 1922 年にシンクレア・ルイス（1930 年ノーベル文学賞受賞）が書いた小説「バビット」だと思われます。この小説の主人公バビットは、当時のいわば典型的ともいべき“ロータリアン”として描かれていて、ルイスによって呵責なく風刺されていました。そしてバビットという名前は一般の通用語となって社会に大きな影響を及ぼしたという点で、ロータリーに最も不快感を与えたものとして歴史に残っています。しかし、ロータリアンの努力は上述の 4 人の小説家とロータリーとの間の誤解を解き、後にこの 4 人がすべて The Rotarian への投稿者になっているという事実があります（→資料 17）。

さて、ロータリー活動が中央ヨーロッパに広がるにつれて、カトリック教会の指導者から反ロータリー・キャンペーンを受けることがありました。1928 年にパレンシア司教が「善良なカトリック教徒は RC に属することはできない」という公報を発行し、1929 年にはバチカンのジャーナル“ラ・シビルタ・カトリカ”は「フリーメーソンとロータリー倫理訓には関連がある」との疑惑をもとに、ロータリーに対して強烈的な批判を浴びせました。同様の批判と警告がスペイン、オランダ、カナダの司教からも出され、1935 年にはバチカンの機関紙が「ロータリーにご用心」というタイトルの記事を書きましたが、カトリック教徒がロータリーに入会するにつれて関係が修復され、1979 年にはヨハネ・パウロ 2 世がローマで開催された RI 大会出席者を正式に歓迎するまでになりました。

42 ロータリーの世界展開

国際 RC 連合会は 1916 年 3 月にラテン・アメリカでの RC 拡大を目指す委員会を設立し、フロリダ州のタンパ RC の A. ケストラ他の委員を任命しました。彼らはスペイン語を話せる人たちで、この年、早速キューバでハバナ RC の結成に成功しました。これが英語圏以外での最初のクラブになりました。

1918 年にはウルグアイのモンテビデオで南米初の RC が、1920 年にはスペインの首都マドリッドでヨーロッパ大陸で初めての RC が誕生しました。これはマドリッド出身の A. ケストラの働きによるもので、彼は新設クラブでの奉仕プログラムに多額の寄付を行っています。

第一次世界大戦の終了とともに、RC は世界中に急速に拡大し始めました。アジアでは 1919 年にマニラ RC と、上海 RC が、1920 年に東京 RC が設立され、アフリカでは 1921 年に南アフリカのヨハネスブルクに発足しました。パリ RC は第一次世界大戦末期から連合関係者、米国大使、赤十字代表などが集まって非公式に開催されていましたが、1921 年に公式に認証され、その後、オスロ、コペンハーゲン、アムステルダム、オステンド、チューリッヒ、プラハへと拡大していきました。

どんな組織にも急速な発展期にはそれを担う超人的かつ献身的な働きをする人物が登場するものです。

1921 年、国際 RC 連合会はカナダ人の J. ディビッドソンと、J. ラルストンに、オーストラリアとニュージーランドへの展開を要請しました。彼らは 4 か月の時間と多額の寄付を行って、メルボルン、シドニー、ウエリントン、オークランドの 4 都市に RC を設立しました。

ディビッドソンはかつての日本文化に魅せられていて、帝国陸軍に入隊して日本語を習得し、「台湾：顔と現在」という本を残しています。また、中国の海賊による殺戮行為から地域住民を護ったことで、天皇陛下から

旭日章を受けています。後に上海の米国総領事としてセオドア・ルーズベルト大統領から賞状を受け、日本国の満州進出に対する調査団の一員として派遣されています。彼は RI 国際拡大委員会で活躍しましたが、根っからの“行動する人”であったそうで、1928 年、RI 理事会は彼に名誉最高責任者の称号を贈りました。

ディビッドソンの妻リリアンと幼い娘マジョリーを連れた 2 年半の旅は 1928 年 8 月にモントリオールから始まり、汽船、汽車、自動車、ボート、カヌー、時には象に至るまで、当時の交通手段のすべてを駆使して世界を回ったようです。その結果、アテネ、エルサレム、カイロ、ムンバイ（ボンベイ）、デリー、マドラス、コロンボ、ヤンゴン（ラングーン）、クアラルンプール、バタビア、シンガポール、マラッカ、バンコク、香港、など、地中海、中近東、インド、東南アジア地域の 23 都市で RC を設立するという快挙を成し遂げました（→資料 5）。

1931 年 3 月、24 万キロの旅を終えて一家がバンクーバーへ帰ってきたとき、チェスレイ・ペリーをはじめとする大歓声に迎えられ、ディビッドソンの帰国講演を聞きに集まった 2000 人の男性の殆どがロータリアンになったと伝えられています。リリアンは、旅行中に面白い旅行記を The Rotarian に投稿していましたが、後にそれらをまとめて Making New Friends という本を出版しています。

1920 年代は、ロータリーにとって素晴らしい国際的拡大の成果が上がった 10 年間でした。当時の先進国には各国の出先機関や商社の出店先などで親善目的の社交クラブが作られており、それがディビッドソンの熱意溢れる勧誘によってロータリーを標榜するようになった、という背景があります。しかし彼の並はずれた伝道師としての活躍に対する賛辞は、今日までロータリアンの活動の中に引き継がれています。

かつて国内で「四大奉仕」と呼ばれた活動方針がロータリーに導入された経緯を、ロータリー 100 周年記念誌（→資料 5）の記述内容から調べました。

Four Avenues of Service(ロータリー活動の4路線、邦訳:四大奉仕部門)の成立過程： 著者 David C. Forward が「奉仕の一世紀」を著わす 70 年以上前の大英帝国・アイルランド内 RI (RIBI) での経緯が右頁のように記述されています。パスカル会長が「ロータリアンの多くがロータリーの Objects を十分に理解していないと語ったのは、この当時の Objects には活動方針として二つの service が記されており（→p.89）、定款上の活動方針に混乱が生じていたからでした。彼は、ロータリーの活動（activity）を高速道路の 4 車線（3-lanes + 1-truck）に喩え、それぞれを where（場所を示す関係副詞）を用いて説明していますので、その説明は、路線（Avenue）の内容であり、活動（Service）の内容ではありません。4 路線の内容はロータリー活動を明確化することを意図したものですから「目標設定計画」と称され、好評の中で 1927-8 年に RI へ提唱されました。この RIBI からの提案は重要な意味を持っていました。

① **Four Avenues of Service：** ロータリー活動は 1) クラブ活動、2) ヴォケーション(『職業』)活動、3) 社会奉仕活動、4) 国際奉仕活動に分類されましたが、そこにはシェルドンの「商業サービス」が含まれていません。定款 Objects には二つの ideal of service が存在したにもかかわらず、その一つが新しい活動方針から除外されたのです（→ p.103）。

② ロータリーの世界展開の中で、中心思想である Vocational Service を他の活動方針と並列で目立たぬように、しかし明確に表明しました（→ p.105）。

③ 上記のような RI 中心の人事抗争と世界宣言というような重要な内容の提案が地方組織である RIBI 内だけで考えられたのでしょうか？ RI との裏の連携といった事柄を推測してしまうような歴史的な出来事だと思われます。

Four Avenues of Service 成立過程の記述

1926 年のある日曜日の朝、大英帝国・アイルランド内 RI (RIBI) の S. パスカル会長と V. カーター事務総長がロンドンからさほど遠くない森に散歩に出かけた。パスカルは「ロータリーの Objects を十分に理解しているロータリアンは少ない気がする」と話しかけ、「ロータリーのあらゆる活動 (activity) を半頁ほどにまとめられる筈だ」と考えた。二人はロータリーが 3 車線の高速道路 (3-lane highway) に似ているとの結論に辿り着いた。ロータリアンがクラブで活動する車線 (lane)、職業 (Vocation) で活動する車線、そして地域社会で活動する車線。彼らはこれを目標設定計画 (The Aims and Objects Plan) と名付け、クラブと RIBI とで大いに役立てた。一年後、RI は V. カーターをシカゴに招き、理事会で目標設定計画の説明を聞いて感服した。目標設定計画が 1927 年のオステンド (ベルギー) 大会で案件として提出されると、代表委員はそれを世界的に使用するよう圧倒的多数で承認した。・・・(中略)・・・

3 車線に加えて、1928 年のミネアポリス大会では、国際活動を、後に“ロータリー活動の 4 路線”として知られるようになった最後の車線 (final track) として満場一致で承認した：

- ・ クラブ活動路線、そこでは会員がロータリーについて教わり、親睦が奨励され、各種委員会がクラブ運営を司る。
- ・ 『職業』 活動路線、そこで会員は、倫理、奉仕、指導力向上という組織の理念と各自の職業とを結びつける。
- ・ 社会活動路線、奉仕の神髄であり、そこで世界のあらゆる RC が地域社会のよき隣人として行動する。
- ・ 国際活動路線、1921 年のエジンバラ大会で加えられた Objects であり、そこでロータリアンが各自の地域社会を超えて各国間の平和、民族間の理解、飢餓・苦難・病気の解消を唱道する。

The 1928 Minneapolis convention unanimously adopted International Service as the final track of what has forever since been known as Rotary's Four Avenues of Service :

- ・ Club Service, where members are educated about Rotary, where fellowship is encouraged, and where communities handle club administration.
 - ・ Vocational Service, where members connect the ideals of organization --- ethics, service, the drive for leadership excellence --- with their trade or profession.
 - ・ Community Service, the very heart of service, where every Rotary club on earth acts as the good neighbor in its local community.
 - ・ International Service, the Object added at the 1921 Edinburgh convention, where Rotarians reach far beyond their own communities to advocate peace among nations, understanding among peoples, and the elimination of hunger, suffering, and disease.
- (英文は D. C. Forward : A Century of Service—The Story of Rotary International より)

第1次世界大戦後、戦争利得国として景気上昇を続けていた米国は、過熱経済の末、1929年10月の“暗黒の木曜日”（ウォール街の株価大暴落）を皮切りに、工業部門から農業部門に至る全経済麻痺を引き起こすようになりました。工業生産低下率56%、企業倒産40%、失業者1600万人（失業率30%）、という大恐慌は、続いて銀行閉鎖、経済破綻となって全世界を巻き込む世界恐慌へと発展していきました。

大恐慌の最中にシカゴではアル・カポネが逮捕・投獄（1931年）され、恐慌が終息を迎えた1933年にアメリカ全土に大きな影響を及ぼした禁酒法が廃棄されました。この激動の嵐は、当然のことながら、ロータリーの事業にもおよび、例会欠席者が続出してクラブ管理が破綻したことや、退会者が大幅に増えたことが記録されていますが、それにもかかわらず、ロータリーの地道な活動が続けられていきました。

【A. F. シェルドンの退会】

大恐慌が吹き荒れていた1930年、かつてロータリー運動の中核をなしていたシェルドンが、突然ロータリーを去っていきました。彼はそれから5年後の1935年12月に死去（69歳）しており、その墓碑には“He profits most who serves best”のモットーが刻まれているとのこと。退会から死去までが短期間であったことから、シェルドン病氣説もあれば、商業サービスを主導していた彼と、人道的支援（社会奉仕）に傾いていったポール・ハリスとの間に溝ができたという説もあります。

後に改めて検討しますが、シェルドンが退会する前の数年間のロータリーにはシェルドン離れとも、シェルドン排斥運動とも取れるような事態^{*}が連続して起こってきていて（→p.102~107）、そのような時流の中で、シェルドンがロータリーに失望したという見方もできるようです。（^{*}国内外のロータリーの歴史書で取り上げられたことはありません）

45 四つのテスト

世界恐慌による会社倒産が続出する社会にあって、ロータリーが掲げる「奉仕の理念」が企業姿勢として見直されるようになっていました。この時期（1932年）にシカゴRCのメンバーで訪問販売業のオーナーであったH. テーラーが倒産の危機にあったアルミ器具メーカーの経営再建を依頼され、提案したのが四つのテスト（Four-way Test）でした。

Is it the truth?	真実かどうか	truth には誠実という
Is it fair to all concerned?	みんなに公平か	意味があります。
Will it built goodwill and	好意と友情を	fair は等しいという
better friendship?	深めるか	感覚よりも、公正な
Will it be beneficial to	みんなのために	というニュアンスが
all concerned?	なるかどうか	強く fair and square

で公明正大な、となります。to all concerned は関係者全員という意味で、取引の相手方全員を含んでいます。goodwill には「店の信用」という意味があり、ここでは信用と親睦を築くことになるか、と問いかけています。そしてbeneficialは有益な(利益がある)という意味で、“ためになる”という言葉の裏に“儲けになる”という意味が含まれています。

成立の背景を考えるまでもなく、「四つのテスト」は商取引に関する提言であって、四つの問いかけのすべてに相手方の姿が見え、その相手に対する配慮を訴えているので、“Service above self”や“He profits most who serves best”に通じるものがあります（→資料12）。

周知のごとく、「四つのテスト」の使用権が1942年にRIに渡され、テーラーがRI会長になった1954年に著作権もRIに譲られました。1915年に制定された「ロータリー倫理訓」が1931年に頒布禁止に追い込まれ、1951年には廃棄が決定されたので、ちょうどこれと引き換えに「四つのテスト」がその位置に置かれたことになります。

46 言葉の意味が変わる

英単語には複数の意味が存在するため、状況、使い方（名詞の可算／不可算など）によって、文章全体の意味が変化する場合があります。

[self を考える] **self** (1. 私利・私欲、2. 自己・自我)

20 世紀初頭のアメリカ知識階層に広く読まれていて、アメリカ文化に最も多くの影響を与えた書物の第一位が、精神分析で知られるフロイト（独）の一連の著作であるとされます（→資料 80）。self はラテン語の ego からきており、フロイトの ego 論（自我論）（→資料 79）がアメリカ社会に多大な影響を与えていたために、1911 年にコリンズが語った

Service, not self

の self 「私利・私欲」は、その主体である「自己・自我」に包含される概念として捉えられていました。そしてそれはキリスト教（ピューリタニズム）の歴史に即したもののでもあったのです。

これに対して、キリスト教思想から離れた立場に立つニーチェは次のような考えを述べていました。

『ただひたすら純粹に非利己的行為（not self）を行うなどということは、不死鳥よりもさらに作り話めいている。非利己的行為（not self）なる概念自体が、厳密に検討されると空中のチリのように飛散してしまうようなもので、どんな個人的動機もなしに、他人のことばかり行う（利他）というような行為はあり得ない。それどころか、人間というものは自分に関係のない、したがって内面的な脅迫（個人的欲求）の無いようなことに手を染める筈がない（「人間的、あまりに人間的」より）』（→資料 81）。

not self の深層心理を抉るようなニーチェの言葉に対して、コリンズをはじめ、ロータリアンはどう反応したのでしょうか。そこで登場したのが：

Service above self

でした。この言葉の起源は明らかではありませんが、1916 年のロータリー通解（ガイ・ガンディカー）には Service, not self と記入されて（→ p.79）いますので、それ以後のことになります（→ p.141）。

[profit 論争]

profit（語源：ラテン語・前へ出る、役に立つ）

1. 儲ける、利益を得る
2. ためになる、恩恵を受ける、教訓を受ける

1011 年に（コリンズと同じ大会で）シェルドンが語った言葉：

He profits most who serves best.

についても、これを巡って長年にわたる確執がありました。

シェルドンは明らかに金銭的な収益について述べており、1913 年の年次大会スピーチで「金儲けは決して悪いことではないのに、それを否定する人が多くいます。その考えには同意できません」と語っています（→ p.75）。また、1921 年のエジンバラでのスピーチにおいても顧客サービスについて触れ、「すべての個人や企業が稼ぎ出した金銭は、原因ではなく結果であり、公正に稼ぎ出した金銭はサービスの対価として支払われた賃金なのです」と述べて（→ p.87）、profit（収益）の社会的、倫理的正当性を主張しています。

一方、1916 年、ガイ・ガンディカーが「ロータリー通解」を出版したとき、単語 profit を取り出し、“人間的な成長”を意味する言葉であると解説して（→ p.79）います。

ポール・ハリスは、著書（→資料 1）中でガイ・ガンディカーの先見性を激賞する言葉を残すとともに、来日時にも、profit はドルでもセントでもなく、人生の something である、と語っていて（→ p.124）。終始この言葉に金銭的な意味を含まないとの独自解釈を貫いていました。

現行のロータリーのモットーに用いられている日本語訳—service（奉仕）、self（我）、profit（報いられる）のように、翻訳文では翻訳者が用いた訳語によって、その文章の意味が定められています。しかし原文（英文）では、よほどの注釈でもない限り、その単語（文章）をどのような意味に受け取るかは、読者次第です。従って同じ言葉なのに、1911 年にコリンズ、シェルドンが語ったときの意味（→ p.65, 69）と、40 年後に RI がモットーとして採用した（1950 年）ときの意味（→ p.141）とは全く異なるのです。言葉は、誰が、いつ（時代）、どこで（状況）、どのような意図で、語ったのかを考えないと、その意味が正しく伝わりません。

1. 二つの“the ideal of service”の対立

1918年の国際RC連合会の定款 Objects に現れた“the ideal of SERVICE”という言葉には、全く解説がありませんが（→p.85）、その後の歴史経過よりみて、シェルドンが語った He profits most who serves best. に由来する「商業サービス」を意味する言葉であると解釈されます。

ところが1921年の Objects の第4項に、“the Rotary ideal of service”という、もう一つの service が挿入され（→p.86）、それは国際活動に関する条項の中であつたので、「人道的支援」を意味するものと解釈されました。

この二つの service が1922年の RI 最初の定款 Objects の第1項と第6項に並立していて（→p.89）、国際RC連合会時代の対立がそのまま RI に持ち込まれたのです。詳しい説明もなしに二つの“the ideal of service”が RI の定款に持ち込まれるという状況を指して、1926年に、RIBI（大英帝国・アイルランド内 RI）のパスカル会長が「ロータリーの Objects を十分に理解しているロータリアンは少ない」と語った（→p.97）のだと考えられます。このパスカル会長の発言と、その後の行動（Four Avenues of Service の提唱）から見ると、二つの service を支持するロータリアンは当時、既に厳しい対立関係にあったと考えられます。

年次大会での紛糾と“決議 23-34”： 二つの“the ideal of service”を支持するグループが対立して、ロータリー分裂の危機とまで言われた紛糾に至ったのが1923年のセントルイス大会でした（→p.90）。決議 23-34（→p.91）が、この大混乱を収めるために大会期間中に急遽作成されました。それは、ロータリーに於ける二つの活動の対立を丸く収めることが喫緊の目的でしたから、次のようなタイトル（標題）のもとに作成されました：

「ロータリーの目的に基づく諸活動^{*}に関する方針」

^{*} 諸活動とは、二つ以上の活動（シェルドンの商業サービスと、人道的支援＝社会奉仕）を含む言葉と解釈されます。

2. RIを中心とするシェルドン排斥運動

過去の歴史書には1923年の大会での対立激化を「ロータリー分裂の危機」と評していますが、いくらロータリアンという紳士の集団とはいえ、その激しい紛糾が“決議23-34”のみですんなり収まるとは思われません。今日、文献的に読み取れるものを並べるだけでも、1926-29年にわたってRIの周りには、「反シェルドン」とみられる状況・事態が連続して出現していました。

a) **決議23-34 標題の変更：** 決議23-34成立のわずか3年後(1926年)に、この決議文のタイトル(標題)が以下のように変更されました。

「社会奉仕に関するロータリーの方針」

“人道的支援”と“社会奉仕”は同義語のようなものですから、それはよいとして、対立していた二つのserviceのうち、もう一つの“商業サービス”はどこへ行ったのでしょうか。標題を見る限りロータリーはシェルドンが主導する“商業サービス”を切り捨てて、その活動方針を一方向的に“社会奉仕”へ向けたことになります。

b) **Four Avenues of Service**の採択： 1927-8年にRIは、大英帝国・アイルランド内RI(RIBI)から提案されたRotary's Four Avenues of Service(ロータリー活動の4路線)という活動方針(→p.96)を採択しました。そこに示された活動(Service)の4路線(Avenues)とは：クラブ活動Club Service、ヴォケイション活動Vocational Service、社会(奉仕)活動Community Service、国際(奉仕)活動International Serviceでしたから、重要なことは、そこにシェルドンの「商業サービス」が含まれていないということでした(Vocational Serviceは“商業サービス”ではありません)。国内の書物には、1921年にエジンバラ(スコットランド)で開催された国際大会で、シェルドンの講演に多くの聴衆が心酔したと記されていますが、その後の経過を見れば、「商業サービス」はRIBIからもRIから排除されたと言わざるを得ません。

c) **シェルドンの言葉の使用禁止案：** 1929年、ダラスRCよりシェルドンの言葉：He profits most who serves best. の使用禁止案が提出されました。このときにはまだ、この言葉がロータリーのモットーになっていなかったことを考慮すると、これはどういうことなのでしょう。たいへん多くのロータリアンがこの言葉を使用していた(受け入れていた)という事実を示すとともに、強いアンチ・シェルドンの意志を表明したものと解釈され、26年以降、RIの周りに起こった反シェルドン運動に連動する動きの一つと理解できそうです。

3. シェルドンの退会と定款 Objects 改定

このような動きの中で、シェルドンが1930年にロータリーを去っていきました。国内の書物にはシェルドンの退会に病気説(?)をとるものもありますが、英語版の書物には、シェルドンの退会を詳しく述べたものはありません。前項のa)、b)、c)を歴史的な事象として記述している書物があっても、それらをシェルドン排斥運動ととった書物がないのと同じく、この時代のロータリーがシェルドンへどのように対応したのかを記した書物がないのです。

シェルドンが退会した翌1931年、RIはかつてあれほど各方面の商業界に大きな影響を与えた「倫理訓」の頒布禁止令を発表しました(1951年に廃棄処分を決定)。その理由として、第11項にある聖書の「黄金律」の存在を挙げている書物がありますが、それならば、第11項だけを削除すればよいように思われます。ここでは「倫理訓」の第2項にシェルドンの言葉He profits most who serves best.を“ロータリーの原則”と述べ、第2、4、5、8項にprofitまたはprofitableという言葉で“利益・収益”という意味で用いているからであろうと考えています。英文の歴史書(→資料1、4、5)には「倫理訓」の廃棄について、詳しく述べているものはありませんし、D.C. フォワード(奉仕の一世紀の著者)など、書物の中で「倫理訓」が果たした役割を誇らしげに語っているほどですが、現実には、ロータリー活動をめぐる抗争に敗れたシェルドンがロータリーを去っていったのです。

1935年に定款Objectの改定が行われ(→p.106)、シェルドンの「商業サービス」が排除されて、定款上でのserviceの一本化が実現しました。

不思議なことに、1951年の定款改定についての解説があっても、1935年の定款改定を話題にした国内の論文・書物を見たことがありません。そして、ポール・ハリス(→資料1)や、ハロルド・トーマス(→資料4)のようなRIの中心にいた人たちですら、この年の定款改定を「6項目から4項目に簡素化することに意義があった」と語っていて、「商業サービス」の廃棄、シェルドンの排除を正面から捉えていません。

1955年のThe Rotarian誌には、シェルドン・スクールで学んだロータリアンのJ.O. ナットソン(→資料25)がシェルドンの業績を偲んで長文の投稿をしていますが、しかし同年、ロータリー創立50周年記念講演を行ったチェスレイ・ペリー(→資料26)は、講演記録の中でシェルドンに全く触れていません。このあたりに、過去のロータリーの歴史の中で、なにやらロータリアンが触れたがらない歴史の一面(シェルドン排斥運動)があるような気がします。

ロータリー活動の4路線 (Four Avenues of Service)

(邦訳：四大奉仕部門) の歴史的意義

「奉仕の一世紀」(→資料5)によれば、Four Avenues of Service(ロータリー活動の4路線)の提唱はRI内部からではなく、大英帝国・アイルランド内RI(RIBI)からだということですが、その記述にはある種の驚きがありました。なぜならば、次に述べるような歴史的に見て重要な意味を持つこの提案が、中央(シカゴ)ではなくRIBIという地方組織からだったからです。

①ロータリー活動の一本化(シェルドンの排除)：RIBIのパスカル会長とカーター事務総長の会話から、提案された4路線(Four Avenues of Service)とは、単なるロータリー活動の分類・定義ではなく、「商業サービス」排除を意図するものでありました。これは、その後、定款Objects内のserviceの一本化に中心的な役割を果たすことになります。

しかし「商業サービス」の排除(シェルドン排斥)というような重大な行動を、RI内部との連携なくしてRIBIという地域組織だけで推進できたのでしょうか？組織の活動方針や人事などにまつわる抗争は、往々にして、ベールに包まれた歴史事件として残されるものなのだとすることに留めておきます。

②ピューリタニズムの明示：ロータリーの国際組織がRIへ移行した1920年代は、ロータリーが大変な勢いで世界に広がっていった時代でした(→p.94)。この時期には人種、政治体制、宗教の異なる世界から多くの人々がロータリーに参入してきました。そこでロータリーは例会で「政治と宗教の話避ける」ことを通じて、会員間の深刻な対立が生じない努力をしました。

しかしロータリーの原点はピューリタニズムにあり、これを消し去っては、当時の中心ロータリアンの立場がありません。そこでRIはロータリー活動(Avenues of Service)の一項目にヴォケイション活動(Vocational Service)という項目を挿入し(→p.97)、その中で、ロータリーの組織理念(ideal of organization)(→p.179)さえ受け入れるならば、会員個人の宗教については問わないという基本姿勢を明白にしたのです。ここにピューリタニズムに原点を有するロータリーの宗教的「寛容」が成立しました。

宗教的「寛容」は歴史的な意味をもつ言葉です。最初の「寛容」は周辺の異教徒を容認した中世のキリスト教徒に、第2の「寛容」は信教の自由に目ざめたニューイングランドのピューリタンに(→p.33)、そして第3の「寛容」が世界展開をしていくロータリアンの中から生まれました。

48 1935 年の定款改定 —— 「商業サービス」 の削除

1935 年、定款改定があり Objects が次のように変更されました。それはシェルドンがロータリーを退会して 5 年後のことでした。

Article III Objects of Rotary 第 3 条 ロータリーの目的

ロータリーの目的は価値ある企業活動の基礎として奉仕の理念を奨励することであり、詳しくは、次の項目を奨励することである：

1. 奉仕の機会があれば、交友関係を発展させること；
2. 社会に奉仕する機会があれば、職業上の高い倫理基準を保ち、（奉仕に）役立つ仕事（活動）はすべて価値あるものとみなし、ロータリアン各自が行った仕事（活動）に誇りをもつこと；
3. どのロータリアンも、個人、職業人および地域社会の一員としての生涯に奉仕の理念を実地応用すること；
4. ロータリーの奉仕の理念に結ばれた職業人の世界的な団体を通して、理解と親善と国際平和を促進すること。

（英文は次頁右枠を参照下さい）

一見すると、この定款 Objects には、1922 年の条文（→ p.89）と比較して、まとまった前文があり、条項が 6 項目から 4 項目に変わっているなど、大きく変化しているように見えます。しかし原文（→次頁）をよく見ると、使われている文字、文言にはほとんど変わりがありません。

注目すべきは、これまで強調表現されていた SERVICE という文字が普通文字の service に変更されて、ロータリーの Objects からシェルドンが唱えた「商業サービス」の理念が抹消されたことです。さらに「奉仕の理念(the ideal of service)」とは何か、ということ、続く 4 項目で詳述しています。条文構成を次頁で説明しますが、この年の改定のポイントは、条文の文字をそのまま用いて内容を大きく変更するという見事な文章操作によって、①「商業サービス」を抹消し、ロータリー活動における service の理念を単一化する（→ p.102）、② 1927 年に導入した Vocational Service というロータリーの中心理念を Objects の中に見事に盛り込んだことです（後述→ p.178）。

1922 年の定款 Objects

The objects of Rotary are to encourage and foster :
1. The ideal of SERVICE as the basis of all worthy enterprise.
2. High ethical standards in business and professions.
3. The application of the ideal of service by every Rotarian to his personal, business and community life.
4. The development of acquaintance as an opportunity for service.
5. The recognition of the worthiness of all useful occupation and the dignifying by each Rotarian of his occupation as an opportunity to serve society
6. The advancement of understanding, goodwill, and international peace through a world fellowship of business and professional men united in the Rotary ideal of service.

1935 年の定款 Objects

The Objects of Rotary are to encourage and foster the ideal of <u>service</u> as the basis of worthy enterprise and, <u>in particular, to encourage and foster</u> :
1. The development of acquaintance as an opportunity for service ;
2. High ethical standards in business and professions ; the recognition of the worthiness of all useful occupations ; and the dignifying by each Rotarian of his occupation as an opportunity to serve society ;
3. The application of the ideal of service by every Rotarian to his personal, business and community life ;
4. The advancement of understanding, goodwill, and international peace through a world fellowship of business and professional men united in the Rotary ideal of service.

両年度の Objects 翻訳文は 89 頁と 106 頁を参照してください。

【文章構成上の変化】

- a) 1921 年の前文と第 1 項を合わせて 35 年の主文が構成されました。全体を見ると、新しく追加された in particular, to encourage and foster という文字のほかは、両年度の条文は全く同じ文字から成り立っています。
- b) 22 年の第 2 項と第 5 項が合併されて、35 年の第 2 項となっています。従って、第 2 項は “社会奉仕の機会があれば”(as an opportunity to serve society) という条件で全体がまとめられた一つの条項なのです。
- c) 22 年の第 3、第 4、第 6 項はそれぞれ 35 年の第 3、第 1、第 4 項にそのまま移されました。
- d) 35 年の条文で、詳しく述べると the ideal of service = 4 項目であるとされていますから、ロータリーが奨励する内容が 6 項目から 4 項目になったのではなく、the ideal of service ただ一つになり、4 項目はその補足文になったのです。
- e) そして最も注意すべきは、SERVICE の文字が消えて、普通文字 service に代わっていることです。条文の文字をほとんど変えることなく、実に見事にシェルドンの “商業サービス” を定款 Objects から抹消しました。

顧客満足 (Customer Satisfaction) 経営

“騙してでも儲けたヤツが勝ち”というような商業倫理の欠如した 19 世紀末から 20 世紀初めのような社会 (→ p.25) には、その対極に位置する姿勢・行動をとる人たちが生まれてくるものです。その一つの代表が 1901 年、シアトルに創業した靴の専門店「ノードストローム社」(→資料 85) で、他の一つが 1902 年にシカゴで A. F. シェルドンが設立した「ビジネス・スクール」でした。

ノードストローム社は、アウトサービス (サービスを越えたサービス) を主義として徹底して顧客の視点に立った商売を行い、また顧客の最前線に立つ店員に最大の権限と責任を与えるという経営方針によって大きく発展し、全米に店舗を広げていきました。1960 年代にアパレル会社を買収してから郊外型百貨店として全米一の地位を占めるまでに躍進し、「顧客満足」という言葉がアメリカ産業界の共通語になると、その原点がノードストローム社にあり、ということが定説 (→資料 84, 85) になっています。

アメリカ産業界の最新経営指標である顧客満足 (Customer Satisfaction) という概念と、その原点であるノードストローム社を我が国に紹介したのは、同社に就職してその経営方針のすべてを知って帰国された松方 真氏 (エドウィン・ライシャワー米国駐日大使・ハル夫人の弟さん) でした (→資料 85)。

一方、1910 年以来、ロータリー内部でもシェルドンは“商業倫理”と併せて“商業サービス”の重要性を訴え、多くの支持者を得ていました。彼は商売上の利潤をサービスに対する報酬であると述べ、それは決してピューリタニズムの教義に反することではありませんでしたが、この頃、並列的にロータリー内に広がってきた人道的支援＝社会奉仕を支持する人たちと対立するという事態に追い込まれていきました (→ p.105)。

RI 成立前後の定款 Objects には、“商業サービス”と“人道的支援＝社会奉仕”という二つの“service”が並列するという時期がありましたが、その後、1923 年の大会での騒動と決議 23－34 の制定、Four Avenues of Service の採択、シェルドンのロータリー退会、そして 1935 年の定款改定を経て、ロータリーは活動方針から“商業サービス”を放棄しました。

当時のロータリーには「顧客サービス」と「社会奉仕」という二つの Service を共に伸ばし広げていくという方策はなかったのでしょうか？ 問題は二つの概念の異なる Service を支持する人たちが対立して、二者択一の争いとなったことです。

かくして 20 世紀後半、“顧客満足”がアメリカ産業界の主流となって、もてはやされたとき、そこにはシェルドンの名前も、ロータリーの活動の歴史も全く見られませんでした。1931 年に RI は、あれほど多くの商業社会に大きな影響を与えた「倫理訓」を頒布禁止とし (1951 年廃棄処分)、1935 年にはロータリーの定款 Objects から「商業サービス」に関係する文言を完全に削除したからでした。

第 3 部

日本のロータリー
世界のロータリー

1920年～1935年以降

歴 史 年 表

世界・日本の歴史	西暦	ロータリーの歴史
2・26 事件勃発、日独防共協定成立	1936	地区大会（神戸）で「大連宣言」論争
ヒトラー総統就任、イタリアが国際連盟脱退	1937	ドイツ 42 RC が解散
独・オーストリアを併合	1938	オーストリア 11RC、イタリア 37RC 解散
独軍ポーランドへ進撃 第二次世界大戦始まる	1939	「日満ロータリー連合会」結成
ドイツ軍パリ占領、日独伊三国同盟成立	1940	日本 RC の RI 脱退
国民学校令公布、米穀配給通帳制実施 昭和 16 年	1941	
日本軍真珠湾奇襲、太平洋戦争始まる		
日本海軍ミッドウェー海戦で大敗北	1942	チェスレイ・ペリー R I 事務総長退任
スターリングラードの独軍降伏		
日本軍アッツ島守備隊玉砕	1943	
サイパン島守備隊玉砕、B29 の日本空襲始まる	1944	
米軍沖縄上陸 昭和 20 年	1945	
ナチス・ドイツ無条件降伏		
広島・長崎に原爆投下、ソ連日本に宣戦布告		国連結成準備会にロータリーの全面支援
日本ポツダム宣言受諾、太平洋戦争敗戦		米山梅吉、福島喜三次の逝去
第 1 回国連総会開催、安全保障理事会成立	1946	
極東軍事裁判開廷		
インド独立宣言	1947	ロータリー創始者ポール・ハリス逝去 国際ロータリー復帰協議会開催
イスラエル共和国成立、ビルマ連合共和国成立	1948	
大韓民国成立、朝鮮民主主義人民共和国成立		
北大西洋条約機構《NATO》成立	1949	東京・京都・大阪・神戸・名古屋・福岡・札幌 RC が RI 復帰、この年、復帰が 20 クラブに達する 大都市にアディショナル・クラブが承認される
ドイツ連邦共和国成立、ドイツ民主共和国成立		
中華人民共和国成立		
米上院議員マッカーシーの赤狩り始まる 昭和 25 年	1950	ロータリーのモットー制定
朝鮮動乱始まる、国内：警察予備隊の創設		
対日講和条約調印（49 か国）、日米安保条約成立	1951	定款 Object の改定（最終）
保安隊に改組	1952	日本 2 地区（第 60 地区、第 61 地区）に分離 東京 RC 米山奨学基金を計画、 1958 年：米山奨学会の設立 1967 年：財団法人ロータリー米山奨学会の設立
米・水爆実験成功		
朝鮮動乱休戦協定成立	1953	「ロータリーの友」創刊、地域機関紙に認定 されたのは 1980 年。
NHK テレビ（白黒）放映開始	1954	Manual of Procedure 初版発行
ワルシャワ条約締結（ソ連と東欧 7 カ国）昭和 30 年	1955	
自衛隊設立	1956	
	1957	地区番号が三桁になる 日本 350 地区～370 地区
皇太子殿下・美智子妃殿下ご成婚	1958	東京 RC に世界から祝電

世界・日本の歴史	西暦	ロータリーの歴史
新日米安保条約調印、安保阻止運動全国に広がる	1960	「手続要覧」初版発行
ソ連・人工衛星船ヴォストーク1号打ち上げ	1961	東京国際大会（東京見本市センター）開催
米、キューバを封鎖、中ソ対立表面化	1962	
米英ソ部分核停止条約締結、ケネディ米大統領暗殺	1963	インターアクト・クラブ提唱、仙台と京都に成立
東京オリンピック開催、ソ連フルシチョフ首相解任	1964	東京文献事務局（RI 日本支局の前身）開設
米軍、北ヴェトナム爆撃開始 昭和40年	1965	
中共の文化大革命 政治闘争に発展、紅衛兵運動始まる	1966	
全米・世界でヴェトナム反戦デモ広がる	1968	東ヶ崎潔 RI 会長就任
小笠原諸島が日本復帰		
米アポロ11号月面着陸、大学紛争・東大入試中止	1969	
国連総会で「中国招請、国府追放」を決議	1970	規定審議会が RI の立法機関となる
大阪万国博覧会開催、よど号ハイジャック		万博会場内例会場で連続例会
日米、沖縄返還協定調印、中国・国連加盟	1971	RI が青少年指導者養成プログラム(RYLA)を採択
札幌冬季オリンピック開催、沖縄が日本復帰	1972	
日中国交回復、連合赤軍浅間山荘事件		
オイルショックー日本を襲った石油危機	1973	
ヴェトナム戦争終結 昭和50年	1975	
ロッキード事件ー田中角栄前首相逮捕	1976	
日中平和友好条約調印	1978	東京で二度目の国際大会開催(国立代々木競技場)
米レーガン大統領就任	1981	RI 日本支局設置
日航機羽田沖墜落(逆噴射)、テレビ「おしん」全国を席卷	1982	向笠広次 RI 会長就任
日航ジャンボ機御巣鷹山に墜落、ハレー彗星大接近	1985	
スペースシャトル「チャレンジャー」爆発	1986	
チェルノブイリ原発爆発、三原山大噴火		
国鉄民営化(JR)、大韓航空機爆破テロ事件	1987	ロータリーの世界本部が移転
瀬戸大橋開通、青函トンネル開通	1988	WHO 総会でポリオ根絶計画決議・RI の全面参加
昭和天皇崩御、ベルリンの壁崩壊、平成元年	1989	規定審議会でも RC の女性会員を承認
ソ連解体、湾岸戦争勃発、バブル崩壊	1991	世界の地区番号が4桁となる
阪神淡路大震災発生、地下鉄サリン事件	1995	地区リーダーシップ・プラン制定
長野冬季オリンピック開催 平成10年	1998	
有珠山噴火、三宅島火山噴火	2000	RC の一業種一会員制が緩和される
米国同時多発テロ事件(9/11)、ヒトの全塩基配列解明	2001	
欧州通貨統一(ユーロ)	2002	地区リーダーシップ・プラン制定
裁判員制度法成立、日本人口1億2682万人	2004	大阪で国際大会開催(大阪ドーム、国際会議場) クラブ・リーダーシップ・プラン実施
オバマ米大統領就任、世界総人口69億870万人	2009	
東北大震災・大津波・原発事故発生、平成23年	2011	
東京スカイツリー開業	2012	田中作次 RI 会長就任
日本人平均寿命 男 80.21 歳、女 86.61 歳	2014	

49 日本人最初のロータリアン

記録に残っている日本人の最初のロータリアンはダラス RC のメンバーであった福島喜三次（キソジ）です。

福島喜三次：佐賀県有田出身の 1881 年（明治 14 年）生まれ、長崎商業学校から東京高等商業学校（現一橋大学）を首席で卒業、三井物産に就職、1905 年（明治 38 年）5 月にニューヨークに転勤、オクラホマ、ヒューストンを経てダラス支店に勤務。

20 世紀に入って日本の綿花輸入が増大し、その輸入量の 26% を三井物産が扱うようになって、1911 年（明治 44 年）、ヒューストンに現地法人の子会社（南部物産）を設立し、福島がその次席として就任しました。この会社は翌年、綿花集積地のダラスに移り、米国内および海外に 8 か所の支店を置く活動をしていましたが、三井物産綿花部から独立して東洋綿花が発足した（1921 年）のに伴って、新しい会社になりました。

この会社の福島の部下にダラス RC のメンバーであったドイツ人がいましたが、米国が第 1 次世界大戦に参戦したために帰国し、そのあとを受けて福島が 1917 年秋頃にダラス RC のメンバーになったようです。

一方、国内では、1917 年（大正 6 年）、目賀田種太郎男爵を団長とする 8 名の団員からなる政府特派財政経済視察団（4 名が政府役人、4 名が財界人）が任命され、三井銀行常務取締役の米山梅吉がその一員に選ばれました。当時、第 1 次大戦の好景気に伴って日本が巨利を得ていたため米国の圧力が高まっていて、実業者間の友好的交流が必要になっていました。視察団はサンフランシスコ、セントルイス、シカゴ、ニューヨーク、ワシントンなどを訪れましたが、1918 年正月の休みを利用して三井銀行の米山梅吉が一行から外れてダラスまで足を延ばし、南部物産（三井系列）を視察したことから、米山（49 歳）と福島（36 歳）との歴史的な会合がダラスの福島の自宅で行われることになりました。

50 東京ロータリー・クラブの創立

1918年（大正7年）元旦をダラスの福島家で迎えた米山梅吉は、生来、奉仕についての基本体質を宿していたので、福島からロータリーの話聞いて大いに感じるどころがあったに違いありません。

福島喜三次は1920年（大正9年）1月に帰国しましたが、その際、ダラスRCのR. メリウェザー会長から、東京にRCをつくるよう勧められ、また帰国後の2月28日付けで、国際RC連合会から特別代表を委嘱されました。しかし会員の選出は思うように行かず、4か月後に送った福島からシカゴ宛の書状には、特別代表には三井銀行常務取締役・米山梅吉氏が最適任であることを告げています。東京におけるRC設立の難渋を察知した国際RC連合会は、福島の申し出を受け入れるとともに、元上海RC会長であったパシフィック・メール汽船会社のW. ジョンストン横浜支店長を共同代表に加えました。

ジョンストン氏応援の効果はてき面で、同年10月20日、チャーターメンバー24名が銀行倶楽部に集まって東京RCの創立総会を開くことができました。国際RC連合会から認証を得たのは1921年4月1日で、登録番号852でした。これは1922年のRIへの移行以前のことから、東京RCは日本で唯一の国際RC連合会認証クラブなのです。

チャーターメンバーは財界から選抜かれた錚々たる顔ぶれで、その一部の方々の所属・役職のみを記すと：日本銀行（理事）、三井銀行（重役）、三井物産（副支配人）、日本郵船（副社長）、北海道炭鉱（重役）、日興証券（社長）、三越百貨店（重役）、清水組（組主）、芝浦製作所（重役）、興業銀行（副総裁）、明治生命（重役）、内外興業（重役）、富士紡（社長）、東京日日新聞（重役）、日本製鋼（社長）、正金銀行（副頭取）、三井鉱山（重役）、商科大学（学長）、東京市電気局（局長）、・・・などでした。会長：米山梅吉、幹事：福島喜三次でスタートしました。

米山梅吉

・生い立ち・学業

明治元年（1868年）、東京芝田村町（港区新橋）に、父：大和国高取の藩士、和田竹造、母：静岡三嶋大社神官の娘、の三男として生まれる。4歳時に父死去し、母の郷里、三島に移る。幼時から神童と呼ばれた英才で、11歳のとき隣村の旧家米山家の養子に望まれた。その一人娘が後の米山夫人である。1881年、13歳で沼津中学（勝海舟らの影響を受け、西洋文化、蘭学、英語教育等に力を入れ、明治時代の近代化をめざした沼津兵学校の後身）に学んだ。江原素六校長は東洋英和、麻布学園を創立したクリスチャンで米山は大きな影響を受けた。しかし15歳の時、友人らと図って中学卒業を待たずに上京、17歳時、東京府吏員採用試験に合格。この頃より渡米を志して、青山の東京英和学校に入学、米人ニコール・バックに就いて英語を学び、19歳で銀座福音会英語学校に就学、その年末、20歳で渡米した。

・渡米

サンフランシスコ福音会寄宿舎でアメリカ生活を始めたが、ここで福音会に逗留中であった本多庸一（明治時代のキリスト教指導者、東奥義塾再興、弘前公会創設、後に青山学院長、日本メソジスト教会初代監督）に出会う。その後、学資稼ぎの皿洗いなどをしながら、カルフォルニア州のベルmont・アカデミーを経て、福音会の推薦でオハイオ州のウエスレアン大学に進んだが、神学を志すことなく、政治、一般科目に終始した。後にニューヨーク州のシラキュース大学に転じ、渡米8年で帰国。アメリカの知識を持ち、ハイカラで身だしなみよく、礼儀正しい堂々たる日本紳士として帰国した。

・就職

米山は帰国後、28歳で米山はると結婚、日本鉄道会社に入社したが、盟友藤田四郎の父、井上馨侯（伊藤博文、山県有朋と並んで長州三尊と言われた財界の雄）の口利きで、明治30年に三井銀行に入行した。大御所の紹介、アメリカ大学卒、英語堪能、演説上手、見栄えよし、でトントン拍子に出世、1年後に神戸支店次席、4年後に大阪支店次席、同年大津支店長、明治37年横浜支店長、40年に大阪支店長、42年には三井銀行常務取締役役に就任している。

1923年（大正12年）、関東大震災のため、帝都復興院の参与となる一方、信託銀行の創立に奔走し、翌年、55歳で三井信託銀行初代取締役社長に就任した。

・三井報恩会時代

10年後財団法人三井報恩会の理事長に就任、これは三井財閥が当時の金で3000万円を出資し、社会、文化諸事業に貢献する目的で設立された会である。米山は、“一旦名を挙げた男子はすべからく後進に道を譲り、以後は社会の奉仕事業に貢献すべし”という信条を綴った「新隠居論」を世に出し、それを実践した。広範な事業の一部を列举すると：医療・福祉関係：ハンセン病、ガン、結核、とくにベルギーから100万円でラジウムを購入、医療関係に寄付。

農村復興事業：農村更生協会、工業協会、東北更新会、農村工業品販売所、農漁村文化協会健全娯楽助成など多岐にわたる。学術研究助成：放射能、赤外線研究など 35 件の大学等への助成と、富士山頂気象観測所への経費助成が目にとまる。

・教育奉仕

米山は青年時代、東京英和学校に学び、渡米して福音会で本多庸一郎の指導を受け、メソジスト教会とは格別の関係にあったため、青山学院への協力は特別のものがあった（拡張計画、校舎・道場建設、初等科創立：全額米山の私財投入）。その他、立教大学への研究棟寄贈、郷里長泉村への図書館寄贈（鉄筋造り、図書 1000 冊）など。

・ロータリーとのかかわり

1917 年（大正 6 年）49 歳、三井銀行常務取締役、政府特派財政経済委員として米国派遣される。翌年正月、一行から離れてダラスを訪問、福島喜三次からロータリーの話聞く。

1920 年（大正 9 年）、東京 RC 創立、初代会長

1921 年 10 月～22 年 1 月、英米訪問事業団の一員として訪米、
単独でシカゴを訪れ、チェスリー・ペリーと面談

1924 年（大正 13 年）、初代スペシャルコミッショナー就任

1926 年（大正 15 年）、RI 理事（アジアで初）就任

この年 RC は世界 37 カ国、2396 クラブに拡大した

1928 年（昭和 3 年）、第 70 地区初代ガバナー就任

1929 年 ダラスの世界大会に出席、シカゴのロータリー本部訪問

1930 年 国内最初のカバナー通信発行。ガバナーとして、神戸—大連—ハルビン—奉天—
京城—大阪—京都—名古屋—横浜—東京、各 RC を訪問

1931 年 台北 RC 創立のため台湾に向かう

1935 年（昭和 10 年）、ポール・ハリス来日、歓迎の挨拶に立つ

1939 年（昭和 14 年）、第 70 地区を 3 地区に分割、日満 RC 連合会結成、初代会長に就任

1940 年（昭和 15 年）、第 1 回日満 RC 連合大会（横浜）開催、11 月に RI を脱退

1946 年 4 月、郷里の静岡県長泉村にて逝去、享年 78 歳（→資料 36）



明治時代にアメリカからやってきたキリスト教（プロテスタント各派）は、各地にミッションスクールを建て、日本の近代化、民主化、女子教育に大きな貢献をしました（→p.35）。

米山梅吉は 10 代から一貫してプロテスタンティズムの教育の中で育ち、その延長線上で米国留学経験を積み、帰国後は三井銀行系の実業家として活躍しました（→p.114）。その間、英語が堪能で米国社会を知る数少ない日本のロータリアンとして、RI からの信頼を得て、日本の初期ロータリーの重鎮としての役割を果たすことになりました。

51 大阪ロータリー・クラブの誕生

三井物産副支配人に昇進していた福島喜三次は、1921年4月、東京RCの例会にはほとんど出席できないまま、会社の転勤で大阪に赴任しました。福島はここで関西財界の星野行則とロータリーについて話し合う機会を得、関西財界にもロータリーに関する関心が高まってきました。

1922年、日本から英米訪問実業団が派遣され、その一員として渡米した星野行則がシカゴまで足を延ばして国際ロータリー(RI)*のチェスリー・ペリー事務総長を訪ねました。そこでロータリーに関するいろいろな教えを直接受けました。この年はロサンゼルス国際大会が開催され、1910年以来の国際RC連合会から国際ロータリー(RI)へ機構・名称が改められ、標準定款・推奨細則もできたばかりの年であったので、ロータリーとしての最新の情報を伝授されたことになります。

このときRIから大阪にRCを設立する全権を委嘱された星野は、福島とともに創立準備を進め、1922年11月17日に中之島大阪ホテル（後に解体）に集まったチャーターメンバー25名によって創立総会が開催されました。会長に星野行則、副会長に村田省三、幹事には福島喜三次が選ばれました。

翌1923年2月10日にRIから加盟認証を受けました(登録番号1349)が、東京から2年の間にRCが500増えていることは驚きです。

なお、国内で出版されたロータリー関係の書物には、東京RCのスポンサーとしてダラスRC説と、マニラRC説とが記載されていますが、いずれも間違いで、シカゴの直接指導で創立した東京RCにはスポンサー・クラブがありません。

また大阪RCのスポンサーが東京RCであるとする説も誤りです。大阪RCもシカゴRIの直接指導によって成立したクラブですから、スポンサー・クラブも特別代表も存在しませんでした。

52 東京 RC・大阪 RC の特徴

1920年代は RC が世界に膨張していた時代で、東洋にもその勢いが波及していましたが、新設されるクラブがその国の、その都市の人たちで構成されているのかと言えば、必ずしもそうではありませんでした。例えばマニラ RC では 87% が米国人、8% がスペイン・英国人で、フィリピン人は 5% に過ぎませんでしたし、上海 RC でも 40% が米国人、20% が英国人他、中国人は 20% にすぎないというように、必ずしも、RC が設置された地域の人たちが中心のクラブが創設されたわけではなかったのです。ところが日本の RC は、東京も大阪も創立メンバー全員が日本人でありました。指導役の外国人が一人も存在しなかったことが注目されます。

東京 RC のメンバーは、米山梅吉が選んだ国際感覚を有する一流の財界人で、ポール・ハリスがシカゴに最初にクラブをつくった時のような、大都市の孤独に悩まされていた者は一人もいませんでした。米国の先輩クラブに負けてはならじと、整然とした例会を運営し、英文の会報を発行して各地に送るなど、その存在を知らしめたのでした。しかしクラブ創立が RI への移行前のことですから、原則としてクラブ独自の定款・細則を制定することが可能で、例会は月に 1 回とされていて、例会出席率も低く、先々のクラブの存続さえ危ぶまれるほどだったようです。

これに対して大阪 RC は、RI チェスリー・ペリーからの直伝を、星野行則の几帳面さと福島喜三次の経験を生かして、まずは親睦から始めて、それを例会出席に繋げていきました。当時としては珍しかった家族同伴の小旅行や運動会、趣味の同好会を催して、楽しいクラブとしての団結と、そこから得られる評判を勝ち取りました。ロータリーの理念やクラブ運営などを日本社会の実情と調和させるべく、いち早く定款その他を翻訳し、日本語のロータリー・ソングなどを作ったりしました。

53 関東大震災

1923 年（大正 12 年）は RI 成立の翌年で、ロータリー活動の方針を巡る対立騒動から、決議 23-34 が発動された年でした。

我が国では、この年の 9 月 1 日、関東大震災が発生しました。被害は東京府、神奈川、千葉、埼玉、静岡県に広がり、被害者 190 万人、死者 10.5 万人、全壊 10.9 万棟、全焼 21.2 万棟、に及びました（後日集計）。震災直後、C. E. ウッズ駐日米国大使の機敏な処置によって、食糧・救援物資を積んだ米国東洋艦隊がわずか 60 時間後に横浜に着き、米政府も赤十字と共同で救援活動に乗り出しました。2011 年 3 月の東北大震災津波災害に際して、米軍の素早い救援活動をテレビを通して目にした私たちは、救援物資の常備と迅速な行動をとった 90 年前の米軍の活動が目に見えようです。

災害国家に住む私たちのロータリーでは、将来の災害のための救援物資の備蓄と救援体制づくりなど、考えさせられるところが多いように思います。

さて、震災による東京全壊の報が世界に発信されたとき、迅速な対応を行ったのが RI でした。9 月 4 日、RI ガイ・ガンディカー会長からお見舞いと支援申し出の電報が届きました。東京が壊滅的であったために大阪 RC が対応したところ、サンフランシスコ RC（9 月 10 日）、ニューヨーク RC（9 月 11 日）から義捐金各 \$ 1,000 が大阪 RC に届きました。そして 9 月 16 日には RI より \$ 25,000 の救援資金が届いたのです。以後東京への直接送金となった義捐金の総額は \$ 89,800 に達しました。

送金を受けたクラブは、米国 375、英国 60、カナダ 40、キューバ 6、メキシコ 4、オーストラリア 3、オランダ、フランス、NZ、パナマ、各 2、ペルー、南ア、フィリピン、ブラジル、ノルウェー、デンマーク

各 1、の 16 カ国、503 クラブに及びました。

東京 RC では特別委員会を設けて使途を検討した結果、孤児院建設に 41.5%、東京、横浜の焼失小学校 188 校への備品送呈に 30%、焼失産科病院の再建支援に 11.2%、殉職警察官遺族への援助に 17.3%を支出したと RI へ報告されています（換算レート、物価指数を考慮した正確な円表示が困難ですから%で表しました。なお受領義捐金額並びに支出金額は東京 RC の RI への報告書に基づくものです）（→資料 20）。

孤児院は東京市の要望を受け、旧孤児院の敷地内に 180 坪の鉄筋コンクリート 2 階建てで建設されました。事務室、保母室、裁縫室、集会室、ミシン 15 台を備えた当時の最新施設で、「ロータリー・ホーム」と名付けて寄贈されました。（このホームは 10 年後に内部改装され、東京 RC の特徴ある社会奉仕事業として誇りにされていました。しかし戦時下の RC 解散に伴ってこの施設は東京市の管理下に移された後、東京空襲によって壊滅したため現存していません）。

1924 年 10 月 23 日、「ロータリー・ホーム」の開館式が贈呈式を兼ねて挙行され、東京 RC の会員もその 60%が家族を伴って参加しました。そしてこれが、我が国におけるロータリー家族会の最初の行事であるとされています。

関東大震災は国内に大きな被害をもたらしましたが、一方では、ロータリアンにも、世間一般の人々にも、ロータリーを見直すきっかけとなりました。

東京 RC は、関東大震災を契機に独自の定款に基づく月 1 回の例会を改めて、RI の定款に従って毎週 1 回の例会を開くようになり、例会出席率も高くなり、英文の週報を発行して世界から評価されるようになりました。

54 特別コミッショナーの設置とクラブ拡大

(国内・満州・朝鮮・台湾)

東京、大阪の2クラブしかなかった当時の日本は、RIによる直轄地として無地区であったためガバナーは存在しませんでした。そこで1924年以降、特別コミッショナーを置いてクラブ拡大に努めました。

初代コミッショナー：米山梅吉（東京RC、1924、25年）

第2代コミッショナー：井坂孝（東京RC、1926年）

第3代コミッショナー：平生釵三郎（大阪RC、1927年）

東京、大阪に次いで生まれたクラブもそれぞれの都市の一流の名士を会員とするようになり、それが日本のロータリーを長く特徴づけることになりました。1924年8月、大阪RCのスポンサーで神戸オリエンタルホテルに15名が集まって神戸RCの創立総会が開かれました。

1925年4月14日、中国大陆へ渡行中の米山梅吉の帰りを待って、東京RCのスポンサーで名古屋RCの発会式が行われました。同年9月28日、同じく東京RCのスポンサーで18名が京都ホテルに集まって京都RCの発会が挙行されましたが、その1か月後に開催された同クラブの披露宴には会員全員が紋付羽織袴の正装で整列して来客を迎えたことが、人々を驚かせたと記録されています（→資料10, 22）。大正時代に創立した日本のRCは以上の5クラブです。

昭和時代に入って、RCの新設は、横浜RC（1927年＝昭和2年）、京城RC（1927年）、大連RC（1928年）、奉天RC（1929年）と続き、さらにハルピンRC（1930年）、台北RC（1931年＝昭和6年）へと進展しました（→資料6, 13, 14, 15）。国内の大都市にRCが広がるのはわかるとして、当時すでに日本の支配下にあった朝鮮、台湾だけでなく、満州深くに進展していたのは驚きです。この地域には農・工業指導、教育、建設、鉄道敷設など多数の日本人が進出していて、日本人会などを通じてRCが結成しやすい環境があったものと思われます。

55 第 70 地区の設定

日本の全 RC が一同に会するインターシティ・コンファランス（全日本連合会）第 1 回会合が 1926 年 5 月、米山コミッショナーのもとで大阪（5 クラブ）で開催されました。ここで会の名称、全国への RC の拡大、RC の活動や広報などについての話し合いが行われました。

第 2 回の会合は 1927 年 10 月、東京（6 クラブ、井坂コミッショナー）で開催され、家族を含めて 252 名が集まって、上野美術館鑑賞、三越百貨店見物、明治神宮参拝、東京会館での晚餐会、帝国劇場観劇、箱根遊覧など盛りだくさんの行事だったようです（→資料 20）。このとき、地区設定の決議が行われ、RI 本部へ申し入れを行いました。次期尚早ということで受け入れられませんでした。

第 3 回の会合が 1928 年 5 月、名古屋（平生コミッショナー）で 270 名を集めて開催されました。このとき再び地区設定の要望が強く出されたため、平生特別コミッショナーが RI 理事会に対して強引な申請を行ったところ、1928 年 7 月から第 70 地区として承認されることになりました（→資料 6）。

このとき日本、満州、朝鮮（新設の京城 RC）を含めて 7 クラブしかない地域に「地区」が設定されるのは異例のことで、後の国際大会でアジア地域の RC から反発・苦情が出たのもうなづけます。

しかしこの頃、世界各地で RC の誕生が相次いでいたことと、ようやく世界の一等国意識が芽生えていた日本の勢いがこれを進めたものと思われる。この年の秋、太平洋ロータリー大会が東京で開催されることが決定しており、日本における RC の拡大が予想されたことも、第 70 地区設置の決定の後押しをしたものと思われる。

1928 年は、RI が「ロータリー活動の 4 路線（Four Avenues of Service）」を採択し（→ p.96）、新しい委員会活動の方向性を定めてきた年でした。

56 太平洋ロータリー地域大会の開催

太平洋沿岸各国の RC が集まって国際親善を図るとともに世界平和に貢献しようとする大会が、1926 年 5 月、ホノルルで 8 か国 433 名の参加者を集めて開催されました。

翌 1927 年 10 月、第 2 回大会が東京で開催されました。海外からの参加者のために、米国方面へ大洋丸を、豪州・東南アジア方面へは安芸丸を派遣して参加者を運びました。海外からは、親日家のトム・サットン会長夫妻をはじめ 109 名（会員 51 名、家族 58 名）、国内から 459 名（会員 233 名、家族 226 名）の参加があり、会議は米山梅吉司会のもとに進められました。参加者全員が田中義一首相主催の官邸での茶会に招かれ、晩餐会には東久邇宮殿下のご臨席がありました。また新宿御苑および西の原の古河男爵邸での園遊会といった華やかな催しもあって、当時の日本の社会からたいへん注目を集めて、話題になりました。

サットン会長は 10 月 3 日、NHK ラジオ放送で日本全国に話しかけ（通訳付き）を行い、ロータリーへの理解を深めるとともに、海外の人たちには日本を紹介するという大きな役割を果たしました。

この年は、衆議院普通選挙法公布、治安維持法公布、経済不況、そして張作霖爆死事件以後、関東軍の独走が始まるという不穏な世の中でしたが、東京 RC を中心にして国際大会を見事に運営したことによって、RI および世界のロータリー界に日本に対する好印象を与えました。

1929 年 4 月、京都で、米山梅吉ガバナー（後述）のもと、9 クラブから会員・家族 385 名が集って第 70 地区・第 1 回地区大会が開催されました。この大会でシェルドンの言葉 *He profits most who serves best.* が取り上げられ、「最大多数の最大幸福という視点から、profit は物質的利益を指すもので、求利の念を純化して正しい方法で利潤を上げるよう努力すべきである」というシェルドンの言葉を引用した解説がなされました。

57 ローターリー・クラブの拡大

地区が設定されたためガバナーが就任することになりました。

初代ガバナー 米山梅吉（1928～31年）

第2代ガバナー 井坂 孝（1931～33年）

第3代ガバナー 村田省三（1933～35年）

これ以後は毎年交代となり現在に至っています。

地区大会は第1回京都の後、神戸（1930年）、横浜（1931年）、大阪（1932年）、東京（1933年）、名古屋（1934年）、京都（1935年）、神戸（1936年）、札幌（1937年）、京城（1938年）、別府（1939年）と続き、日本RCのRI離脱（後述）まで続けました。

井坂ガバナーの2年間に、広島、札幌、福岡にRCが新設され、クラブ拡大に意欲を燃やした村田ガバナーの2年間には、小樽、岡山、高雄（台湾）、門司、今治、旭川、函館、新京（満州）、釜山（朝鮮）、帯広、岐阜、金沢、徳島の13クラブが誕生しました（→資料6, 14）。

井坂ガバナーの第5回地区大会は、1933年（昭和8年）4月、東京で開催されましたが、このとき大連、奉天、ハルピン、台北、京城の外地5クラブから代表の参加がありました。

村田ガバナーのもと1934年8月、地区協議会が高野山金剛峯寺で行われ、家族同伴もあって100名を超す出席者がありました。冷房のなかった当時としては最良の清涼境で、横浜の有吉会長の講演「キリスト教時代よりロータリーの時代へ」に参加者一同が深い感銘を受けました。

時代は特高警察設置（1928年）、世界金融恐慌始まる（1929年）、満州事変（1931年）、満州国成立、5・15事件・犬養首相暗殺（1932年）、軍国主義化が進んで日・独が国際連盟を脱退（1933年）、ヒトラーが総統就任（1934年）というように、国際・社会情勢が不穏な状況にあったため、華美な催しを控え家族の服装も目立たぬよう配慮したと記録されています。

58 ポール・ハリス夫妻の来日

マニラで開かれる第5回太平洋 RC 地域大会に出席する船旅の途上、ポール・ハリス夫妻が R・E・ヒル会長夫妻一行とともに、日本に立ち寄るとの知らせが入って、東京・大阪は歓迎の準備を整えていました。ところが、荒天のため船の横浜入港がまる3日遅れ、1935年2月9日となって、わずか2日の日本滞在となってしまいました。

ハリスらは帝国ホテルで記念植樹を行い、芝公園にある紅葉館で純日本式の午餐会に臨み、夜は東京会館での東京・横浜両 RC の歓迎晚餐会で、名誉会員斉藤実前首相、米山梅吉以下、多数のロータリアンの歓迎を受け、館内にしつらえられた隅田川の春景色と桜踊りを堪能した後、その夜、忙しく横浜港から乗船して、神戸へ出発したのでした。

京阪神での予定もすべてキャンセルとなり、2月10日午前中に京都を案内された後、京阪神3クラブ合同の午餐会が新大阪ホテルで開かれて、150名が参加しました。その夜、神戸から出航する際には、多くの会員がプレジデント・クーリッジ号船中まで見送り、神戸 RC からハリス、ヒル両夫人に花束と絵日傘が贈られたということです。

この船には、マニラの太平洋 RC 地域大会に参加する14名の日本人ロータリアンが乗船し、上海から乗船してきた上海 RC の会員・家族と大いに親善の実をあげたようです。

ポール・ハリスはマニラの大会で、シェルドンの言葉：He profits most who serves best. に触れ、その profit とはドルでもセントでもなく、それは人生の something だと語ったということです。シェルドンが強調した原意とロータリーの解釈は、このようにして違った方向を歩んでいったものと思われます。時はまさに、ロータリー活動の方針変更(Four Avenues of Service) が示されて7年目、シェルドンがロータリーを退会(→ p.98) して5年目のことでした。

59 切迫する軍国主義の足音

1934年の地区協議会（高野山）と1935年の地区大会（京都、833名参加）とで話題にされたのがロータリーの日本化問題でした。討議内容は、英語圏以外でロータリー用語の母国化が行われているので、本邦でも考慮すること、また全世界のロータリーがシカゴのRI事務局の采配で動いていること（中央集権）に問題があるとして、RIBI（大英帝国・アイルランド内RI）並みの自主性を獲得すること、などでした。

神戸RCからは、①用語の外国語の使用を避け、②集会等の外国語直訳を改め、③ロータリーの標語を邦訳し、④日本語のロータリー歌をつくる、⑤新聞の協力を求め、⑥大学に文献を提供して研究を依頼する、⑦ロータリーに関する懸賞論文を大学生から募集する、等の提案がなされました。

京都ではその頃、右翼団体京都支部の結成式があり、その席で「ロータリー排撃」の決議がなされ、決議文が京都RCの石川芳次郎会長に手渡されました。またその年の秋には、国家社会党と称する団体から「ロータリーは国家思想に反するフリーメーソン外郭団体だ」と決めつけた書面が送られてきました。

こうしたロータリーへの中傷・外圧は、福岡RC（ユダヤの秘密結社フリーメーソン*との関係を糾弾された）、神戸RC（左翼＝マルクス主義関連の会報記事があったとして警察の調査を受けた）、大阪RC（国粋主義者から会長との面談が要求され例会場に乱入された）など、全国的な広がりを見せていました。

* メンバーだけの定期的な集会を持つロータリーは、ときには秘密結社フリーメーソンに比喻されることがあり、西洋では1929年にバチカンの雑誌を通してカトリック教会からフリーメーソンとロータリー倫理訓との関係を痛烈に批判（→ p.93）されたことがありました。

60 国産ロータリー・ソングと国旗掲揚、国歌斉唱

ロータリーへの右翼・左翼（ともに軍部の手先機関）からの外圧が高まってきているとき、東京三越百貨店で内務省と陸・海軍省後援の「各種秘密結社によるスパイ活動の展示会」が開かれました。その秘密結社の中にロータリーが加えられていたのです。ロータリーは驚いて、すぐさま取り除きを求めましたが、軍部のある筋は、あくまでロータリーとユダヤ秘密結社との関係を信じて、攻撃の手を緩めなかったと伝えられています。

そもそも、例会で英語の文章が飛び交っていたこと（横浜 RC など、英語で例会を行っていたそうです）、英語のロータリー・ソングを歌っていたこと、などがスパイ説、フリーメーソン説を招いたとして、日本語のロータリー・ソングの全国募集が行われました。その結果、1935 年（昭和 10 年）の京都における地区大会で、日本語のロータリー・ソング 4 編の入選が発表されました。その中に、京都・前田和一郎作詞、東京・荻原栄一作曲「奉仕の理想」や、「吾等の生業」があり、それが今日まで“ロータリーの君が代”と陰口をたたかれながら歌い続けられてきました。

また、国家社会党京都支部長と京都 RC の石川芳次郎会長との間で、ロータリーが国家に従順な姿勢を表明するために“例会で日の丸を掲揚し、君が代を歌うこと”で話し合いがつき、京都 RC は早速このことを全国のクラブに連絡しました。その後、日本のすべての RC は例会で日の丸を掲揚し、君が代を歌うことになったのです（→資料 6）。

ロータリーが国家単位の行動をとらないことは、1927 年のオステンド（ベルギー）国際大会で決められていることですから、日本の RC が国旗を掲揚し、国歌を歌うことは、かなり異例のことで、現在何気なく受け入れているその行為は、戦前の軍部と圧力団体への対応策として生まれてきたものであることを承知しておく必要があります。

奉仕の理想

奉仕の理想に集いし友よ
御国に捧げん我等の業
望むは世界の久遠の平和

めぐる歯車いや輝きて
永久に栄えよ
我等のロータリー ロータリー



我等の生業

1. 我等の生業 さまざまなれど
集いて図る 心は一つ
求むるところは 平和親睦
力むるところは 向上奉仕
おゝロータリアン 我等の集い

2. 奉仕に集える我等は望む
正しき道に果(このみ)をとるを
人の世挙(こぞ)りて光を浴みつ
力を協(あわ)せて争い忌むを
おゝロータリアン 我等の集い

【定款 Objects 改定の本質】

1935 年（昭和 10 年）は、軍部・右翼・左翼からの外圧によって、ロータリー全体の緊張が高まっていたときでしたが、この年、RI では定款 Objects の改定が行われ、構成文字を殆ど変更しないまま、実に巧妙に、ロータリー活動の基本方針の大幅な方向転換が行われました（→ p.103）。当時の国内事情から、この定款改定が話題にならなかったとしても、それを理解することができます。しかし、その後のロータリーの歴史の中で、1935 年の定款改定が殆ど話題にされないのは不思議でなりません。

英文の歴史書の中でも、ハロルド・トーマスは「1934 年のデトロイト大会で、Objects の明確化と単純化のためにロータリーの 6 つの目的を 4 つに減らす制定案が RI 理事会から提案された」（→資料 4）、と記していて、ここでも定款改定の本質、即ち、シェルドンが主導した「商業サービス」の廃棄という歴史的事実については全く語っていません。

二つの the ideal of service の対立 → 1923 年の活動路線を巡る紛糾 → 決議 23-34 のタイトル改定 → Four Avenues of Service の採用 → シェルドンの退会 → 定款改定（1935 年）、という時の流れ（→ p.102~108）は、ロータリーの活動方針を巡る意見対立の歴史であるために、RI としてはそれを表立って取り上げたくないのかもしれませんが。

しかし、“1935 年の定款改定問題”を曖昧にしておくことが・・・

- 1 シェルドンのロータリー内での立場 （→ p.65, 75, 86）
- 2 Four Avenues of Service の歴史的意義 （→ p.105）
- 3 Vocational Service と定款 Objects の本質（→ p.178）

をヴェールで包み隠すことになります。ここにあって確かな認識を持つことを訴えます——なお、シェルドンには 22 年間の RC 在籍中、Vocational Service という言葉を使った形跡がありません。

61 「大連宣言」

1936 年雪の朝、2・26 事件が勃発し、東京に戒厳令が施行されました。これは皇道派青年将校らが“昭和維新”軍部クーデターを企てて決起し、高橋是清蔵相、斉藤 實内大臣（ロータリー名誉会員）らを殺害、警視庁、朝日新聞社を襲撃したものです。

このとき、年次地区大会の案内状を発送しようとしていた神戸では、このような非常事態下でロータリーの地区大会を開いてもよいものか否か、苦慮の末、5 月に神戸オリエンタルホテルで予定どおり地区大会が挙行されました。

大会前夜の懇親会で神戸 RC の直木太一郎が提出した、大連 RC 古沢丈作による「大連宣言」を巡って、大混乱に陥りました。村田省三パストガバナーは、この宣言内容は東洋的思想を加えた立派なものだから、これを英訳してロータリーの Object と入れ替えるよう RI に提言するという強硬論を述べ、RI が決定した定款は一字一句の変更も許されないとする米山梅吉と激しく対立したのです。激論の末、この宣言を Objects を補足するものとして地区大会の宣言にとどめるという京都 RC の田辺隆二会長、大阪 RC の里見純吉会長らの意見によって RI への提出を控えて収拾されました。

1938 年度第 70 地区年次大会が 5 月に朝鮮の京城で開かれ、449 名が参加しました。日華事変中でもあり、出征兵士への感謝や傷病兵への慰問などが決議されたほか、日本の RC として華北の RC と連絡を取って平和に貢献しようとの意見もあったようです。

この年の地区協議会が 8 月に比叡山延暦寺で開催されました。ここで国際ロータリーは、国情、風俗、習慣の違いなどを尊重して中央集権を改めて自治的な分権を進める提案を、次期国際大会に提案することを決議して、改組案研究委員会を作りました。この日の昼食は梅干しだけの

大 連 宣 言

第1. 須らく事業の人たるに先立ちて道義の人たるべし。蓋し事業の経営に全力を傾倒するは因って世を益せんがためなり。ゆえに吾人は道義を無視して所謂事業の成功を獲んとする者に与せず。

第2. 成否を日々に先立ち退いて義務を尽さむことを思い進んで奉仕を完うせんことを念う。自ら利するに先立ちて他を益せむことを願う。最も能く奉仕する者、最も多く満たさるべきことを吾人は疑わず。

第3. あるいは特殊の関係をもって機会壟断しあるいは世人の潔しとせざるに乗じて巨利を博す。これ吾人の最も忌むところなり、

吾人の精神に反してその信条を案るは利のため義を失うよりはなほだしきは無し。

第4. 義をもって集まり、信をもって結び、切磋し琢磨し相扶け相益す。これ吾人団結の本旨なり。然れども党をもって厚くすることなく他をもって拒むことなく私をもって党する者にあらざるなり。

第5. 徒爾なる角逐と闘争とは世に行わるべからず、協力をもって博愛平等の理想を実現せざるべからず。しかり吾が同志はこの大義を世界に敷かむがために活躍す。吾がロータリーの崇高なる使命ここにあり、その存在の意義またここに存す。 (→資料 53)

“日の丸弁当”だったそうです。現在の飽食の時代に育った若い日本のロータリアンには“日の丸弁当”の意味が解らないだろうと思います。四角い（木製の）弁当箱に詰められた米飯の真ん中に梅干しが置かれてありました。その米飯が麦飯であったり、他の穀類が交ぜられていると「白地に赤く日の丸染めて……」にならないので、これは白米の弁当なのです。当時、白米を食べることが贅沢そのものであり、他のおかずなど必要なかったのです。

1938年7月に東京丸の内ビル348号室に第70地区ガバナー事務所が設けられ、東京RCの芝染太郎が専任幹事に就任しました。そして第70地区の機関紙「国際ロータリー月報」を発行して、ガバナー月信に代えることになりました。翌年1月号に、日本・満州・朝鮮・台湾を含む第70地区をまとめて自治体とする改組案研究委員会の提案（宮脇案）が掲示されました。それによると、名称を「日満ロータリー」として、日満ロータリー会長を地区内部で選考してRIに報告し、RIはこれを役員と認める、などの7項目にわたる内容があり、それらの案がシカゴへ送られたのでした（→資料 35）。

62 「日満ロータリー連合会」の結成

RI 副幹事 A. ポッターが 1939 年 3 月に来日して、日本から提起された改組について次のような見解を述べました。1927 年のオステンド（ベルギー）大会で国家単位の機構は既に廃止されているからその実現は無理である。そこで第 70 地区をいくつかに分けて、それらを合わせて GIRI やフランスの連合地域委員会方式の半自治的な連合体を意図するならば可能性があるというものでした。

同年 6 月に開催されたクリーブランド国際大会に、大会議案 39-9 として提出されることになっていた日本の改組案は、南米が同様の自治制を求めていることを知り、到底承認される見通しが立たないと判断した代表の芝染太郎（理事・米山梅吉の代理）は、審議直前にこれを撤回し、別に理事会から承諾を獲得するという非常手段に訴えて、実現に漕ぎ着けました。かくして 1939 年 9 月、第 70 地区は次のごとくに分割され、年会費の半分を内部保有する自治地区＝日満ロータリー連合会へと移行しました。日満ロータリー連合会会長には米山梅吉が選ばれました。

第 70 区 名古屋以东の本州・北海道 20 クラブ、

第 71 区 本州西日本、四国、九州、台湾 19 クラブ、

第 72 区 朝鮮、満州 8 クラブ

1940 年 5 月、横浜で第 1 回日満ロータリー地区連合会・年次大会が開催され、542 名の出席があったことが記録されています。ここで国名をニッポンと呼ばせることを求め、3 地区のガバナーノミニエと次年度大会開催地を大阪とすることなどが決められましたが、日満ロータリー連合会は、これが最初で最後の大会となりました。

ロータリーへの干渉や圧迫はさらに激しくなり、例会は憲兵や特高が参席し、例会卓話内容も事前に警察に届け出ておかなくてはならなくなっていました。

63 日本ロータリー・クラブの解散

戦争への階段をまっしぐらに昇って行った近衛文麿内閣は 1938 年、国家総動員法を成立させ、軍需優先の物資動員計画を立てました。国民服はカーキ色に統一され、3 月に IOC で決定された 1940 年（昭和 15 年）のオリンピック東京開催が、7 月の閣議で返上と決定されました。1939 年、平沼内閣は国家総動員体制を強化、中国大陸、南方への進出を続け、国民徴兵令を公布、9 月 1 日、独軍がポーランドへ侵攻して第二次世界大戦がはじまりました。

1940 年（昭和 15 年）、第二次近衛内閣は大東亜新秩序を打ち出して、芸能人やスポーツ用語からカタカナ語を排除し、国民精神総動員本部は「ぜいたくは敵だ」の看板を東京市内に 1500 本立てました。

この時代は、国内 RC にとっても受難の時代でした。たとえば、和歌山 RC は、創立のための会議を開いたものの陸軍旅団所在地であったため、チャーターナイトを行わないうちに消滅に追い込まれました（→資料 9）。戦前最後の創立であった静岡 RC は、創立後 RI からの認証状がまだ届いていない 1940 年 8 月 8 日に、日本で最初の解散クラブになりました。大阪 RC は、弾圧による解散に先んじて自発的に解散することによって、ロータリーの精神を温存する策を選択して 8 月 12 日に解散し、京都 RC は 8 月 21 日に、解散、存続 2 派に分かれて例会を開きました。

日満ロータリー連合会長、米山梅吉は軍当局に呼び出され、ロータリーの組織機構は日本帝国に対する反逆であると告げられ、大阪、京都、神戸と中心都市の RC が次々解散していく中で、ついに 9 月 4 日、RI を離脱することを決意しました。

欧州では国家権力による RC の強制解散や、戦禍の中で崩壊していくクラブが続出する中で、日本のクラブは強制解散に至る前に自主解散したのです。1940 年（昭和 15 年）の解散時、国内にあった 37 クラブ

名称を変えて存続したクラブ
(* 戦時中も例会を継続した 17 クラブ)

解散日	RC	再組織名	解散日	RC	再組織名
1940年 8 月	静岡	木曜会	9 月	小樽	火曜倶楽部 *
	大阪	金曜会 *		新潟	火曜倶楽部 *
	岡山	水曜会 *		東京	水曜倶楽部 *
	京都	水曜会 *		旭川	金曜会
	広島	火曜会		四日市	木曜会
	高知	火曜会		郡山	金曜倶楽部
	金沢	水曜会		仙台	火曜会 *
	今治	木曜午餐会 *		横浜	同人会 *
	神戸	木曜会 *		札幌	職能倶楽部 *
9 月	盛岡	木曜会 *	1941年	7 月	清和会 *
	名古屋	同心会 *			
	函館	職能協議会			
	帯広	木曜会 *			
	高松	職能奉仕会 *			
			10 月	釧路	職域懇談会

は、上表の 27 クラブのほか、室蘭、北見、浜松、和歌山、徳島、松山、宇和島、門司、長崎、熊本の各クラブでした。このほか、外地：満州 4 クラブ（大連、奉天、ハルピン、新京）、朝鮮 4 クラブ（京城、平壤、釜山、大邱）、台湾 3 クラブ（台北、基隆、高雄）の 11 クラブがありました。

国内 37 クラブのうち名称を変えて存続を図ったクラブが 29 (78%) あり、更なる弾圧によって脱落していく中で上記の 17 クラブ (46%) は戦中、戦後の空白の 9 年間を、昼食の弁当も作れない中で、ほそぼそと例会を続けたという歴史を作りました (→資料 6, 10, 13, 15)。

日満ロータリー連合会が解散を決めたとき、「七曜倶楽部連合会」という新しい組織の結成を目指した委員会をスタートさせましたが、開戦直前の厳しい社会情勢の中でこれを維持することは不可能でした。しかしその意図を踏まえて、RC 解散・組織維持を決定したクラブの多くが例会開催曜日を頭につけた○曜会、○曜倶楽部と称していました。

64 第二次世界大戦とロータリー

1937 年、ヒトラーが総統就任後、その命によりドイツの 42RC と、ダンチヒ自由都市のクラブが解散させられました。翌年ドイツがオーストリアを併合して 11 のオーストリア RC が解散へ向かい、さらにムッソリーニの圧力でイタリアの 37RC も解散へ追い込まれました。

1939 年 9 月、ナチス・ドイツ軍がポーランドへ進撃し、英・仏が直ちに對独宣戦布告をして、第二次世界大戦勃発。

この月、我が国では日満ロータリー連合会が発足、米山梅吉が会長に就任。1940～41 年にかけて日本の 37 クラブがすべて解散しました。

1940 年 6 月、ドイツ軍がパリを占領、

同年 9 月。日独伊三国軍事同盟成立、国内では大政翼賛会結成。

1941 年 4 月、国民学校令公布、米穀配給通帳制実施、

同年 10 月、東条英機内閣成立、

1941 年（昭和 16 年）12 月、日本軍が真珠湾を奇襲し太平洋戦争開戦、

1942 年初め、RI 第 13 地区の年次大会がロンドンで開催されました。このときロンドンに亡命（避難）していたヨーロッパ 21 カ国政府の文部大臣及びオブザーバーが招かれ、戦後の教育・科学・文化交流のための世界組織づくりが話し合われました。この会議が継続されたのち、1946 年の国連教育科学文化機関（ユネスコ）に発展したのです。

また RI はこの年、「永続的世界秩序の条件」と題する冊子を作成し、世界の全クラブに送付しました。これはこの時期に、新たに提案されていた国際組織（後の国際連合）について、世界中でその内容を討議することを促すことが目的でした。このように、ロータリーは「ユネスコ」の生みの親になったばかりでなく、戦時中の「国際連合」創立の準備段階から密接に関わっていたのでした。

【事務総長チェスレイ・ペリーの退任】

1942年6月、RI創設時より事務総長の任にあったチェスレイ・ペリーが高齢を理由にその勤めを退きました。1910年の全米RC連合会の発足時に幹事に就任、2年後、国際RC連合会へ移行して事務総長となり国際ロータリー（RI）にわたって、実に32年間、ロータリーの国際組織の中枢を務めた人物です。ペリーは1910年、シカゴ・クラブの会長選挙で大混乱を招いた苦い経験（→p.61）から、ロータリーの役員選考には争いの起こらない機構作りを採用したとされています。それが今日のクラブ定款細則の中に生かされています。ポール・ハリスは、チェスレイ・ペリーがいなければ、ロータリーは今日のような姿に発展していなかったとして、その著書の中で絶賛を送っています。

1942年6月、日本海軍ミッドウェー海戦で大敗北

1943年5月、アッツ島守備隊玉砕

1944年7月、サイパン島守備隊玉砕

1945年4月、米軍沖縄上陸

5月、ナチス・ドイツ無条件降伏

8月、広島・長崎に原爆投下

ソ連、日本に宣戦布告

天皇ポツダム宣言受諾、太平洋戦争敗戦

10月、国際連合成立

太平洋戦争中に日本全国で喪失した家屋・建造物 210 万戸

失った人命 310 万人（戦死者および空襲等での死者の総計）。

——1937 年以降、第 2 次世界大戦終了までの間に、枢軸国（ドイツ・イタリア・日本）の軍隊の侵入、および戦闘地域となったため、RI は 33 カ国、434 クラブ、16,700 名の会員を失ったのでした。

1945年10月（日本敗戦から2か月後）にサンフランシスコで開催された国際連合の結成準備会に、米国国務省がRIに対してオブザーバーを要請し、11名のオブザーバー（顧問団）が国連憲章の原案作成に携わりました。3名以上のオブザーバーを輩出した団体は、RI以外には1つだけでした。準備総会に正式な代表団を送った50カ国のうち32カ国でロータリーが運営されており、各国代表団のうち20名の代表と7名の委員長がロータリアンで、代議員を含めて総数40名のロータリアンがこれに参画しました。このとき国連という組織はまだ存在せず、従って事務所も職員も存在しませんから、米国の23名のロータリアンがオブザーバーとして議事進行、通訳、文書作成の助言、各国間の調整を行ったほか、資料作成などの事務支援を行ったことが記録に残されています。

「RIが国連準備会のコンサルタントとして招聘されたのは、国際的な機関への好意や尊敬の表明ではなく、ロータリー会員が各国間の理解を深める上で、これまで演じ、これからも演じていく実践的な役割を認識したに過ぎない」と、E.R. ステティニアスJr. 米国務長官が述べています。

準備総会の議長を務めたのはブリュッセルRCのB.H. スパークで、ダマスカスRCの創立会員でシリア代表のF. エルコーリ首相が国連憲章に署名しています。米国代表団のV.R. オースチン団長はヴァーモント州ヴァーリントンRCの創立会長でした。国連創立から12年のうちに5名のロータリアンが総会議長を務めていますし、国連経済社会理事会やユネスコとの強い人事関係も継続していました。これらの経緯があって、RI本部には国連・関係機関へのRI代表団という委員会が設置され、ニューヨーク国連本部（5名）、ジュネーブ、ウィーンの国連事務所（各2名）、開発途上国経済支援、環境、食糧、世界銀行、ユネスコなどの関係機関へ計20名のロータリアンが代表として派遣されていました。

ロータリアンが国連創立に貢献したからと言っても、ロータリーの意見に基づいて国連が創設されたわけではありません。従ってロータリーは、出来上がった国連に対して冷静な見方を失うことなく、批判的な姿勢を崩すことはありませんでした。

RIは「From Here On! (これから後)」と題する 124 頁の冊子を 7 版 25 万部も作成し、その中でロータリーの意向に反して作成された国連憲章への批判を行い、「RI は国連憲章の規定や、国連の決定について否定しないが全面賛成もしない。世界平和の促進のために行われる国連の活動については、ロータリアンが常にこれを見守るよう奨励する」と宣言しました。そして「ユネスコ物語」と「国際ロータリーによる国連レポート」が 1947 年から 1952 年まで毎月発行されました。

国連 (United Nations, UN) を邦訳すると「連合国」であって、「国際連合」にはなりません。誰がこんなに響きのよい、都合の良い訳語を当てはめたのでしょうか。「連合国」とは第二次世界大戦で、日・独・伊の枢軸国と戦った戦勝国を指す言葉で、その主要国が“拒否権”という自国の特権を自在に使う非民主主義的な機構を作ったのです。

いわば勝った側の勝手な世界統治機構なのです。国連の常任理事国は平和推進や経済的支援への評価ではなく、核兵器を保有する軍事大国として国連を支配しています。

日本は経済的に大いなる貢献をしてきましたが、もともと United Nations の仲間などではないのです。戦争直後のロータリーは、国連に対しても正当な批判力を有し、世界のロータリアンに対して、国連の本質を見抜くだけの目を養うよう強い警告を発していました。これに対して、近年の RI と、世界の RC は、みんな大変従順で、身の回りの Service の実行だけで満足しているように思えてなりません。

第2次世界大戦後のロータリー関係の最初の記事は、ロータリーを日本へ導入した二人の貢献者の訃報でした。終戦から8か月後の1946年4月、郷里の沼津に疎開していた米山梅吉が亡くなりました。享年77歳でした。若い時代からピューリタン系の英語学校で学び、その流れの中で8年間のアメリカ留学経験を積み、帰国後もメソジスト教会および青山学院との強い結びつきの中で、経済界での重鎮として多くの社会貢献を果たしてきた米山は、米国ロータリー関係者からの信用も厚かったので、もう少し若くもう少し長生きしていたら、間違いなく日本人として最初のRI会長になっていただろうと思われます。

この5か月後、1946年9月に福島喜三次の死去の報が伝えられました。国内の都市のほとんどが焼け野原になっており、国民は毎日の食糧確保に躍起になっていた、そんな時代で、○曜会と名乗って弁当もちで例会を続けていたクラブの人たちから、ぼつぼつRI復帰の話が持ち上がっていた頃でした。日本のロータリー黎明期に活躍した二人の人物が、RC再生の姿を見ずしてこの世から去って行ったのでした。

翌1947年1月、ロータリーの創始者、ポール・ハリス死去の報が伝えられました。戦中・戦後に解散していた日本のRCがまだRIに復帰を果たす前のわずか9か月間に、ロータリーの重要人物を次々と失ったのでした。

ポール・ハリスの逝去に際して世界中のRCから多額の弔意金が寄せられましたが、故人の遺志によって、それらはすべてロータリー財団に向けられ、それ以後、財団は十分な資金を持って各種の支援活動ができるようになったのです。この年のサンフランシスコ国際大会で、ポール・ハリスを記念して財団奨学生制度が発足し（→資料6）、日本ではRI復帰後の1950年から奨学生を送り出すようになりました。

67 国際ロータリー復帰協議会

ヨーロッパでは世界大戦後、早くも 1945 年中に、フランス、ベルギー、オランダ、ノルウェーの RC が復活し、これに米占領下のグアム、フィリピンが続きました。翌 1946 年には上海、香港、シンガポールの RC が復活して、戦争地域から 72 クラブが RI 復帰を果たしました。戦時枢軸国から最初に復帰したのはイタリアでしたが、それはイタリア国内での戦闘・破壊が少なく、国際社会への復帰が早かったからでした。続いてアテネ、チェコスロヴァキア、ルクセンブルグ、ギリシャ、ビルマ、インドなどから続々と復帰してきました。

日本においても RI 復帰の希望が強まり、1946 年 1 月には東京水曜倶楽部から、同年 4 月には大阪金曜会から RI ラブジョイ事務総長(ペリー事務総長の後任)に復帰の希望を申し入れましたが、受け入れられませんでした。

そこで 1947 年 7 月に東京工業倶楽部に 14 の会から 32 名が集まり、GHQ からロータリアンのモス氏も出席して「国際ロータリー復帰協議会」が開かれました。このとき戦前の RC のうち、その当時、例会を続けていたものが 18 (毎週例会が 15、隔週が 3)、会員数は 1,050 名であったと報告されています。

翌 1948 年に RI 中央アジア駐在員としてインドのボンベイにいた、ジョージ・ミーンズが帰国の途中で日本へ立ち寄り、ロータリー復帰協議会を訪れたほか、東京水曜倶楽部、神戸木曜会、大阪金曜会、京都木曜会などの例会に出席し、日本の会員と懇談しました。ミーンズは RI の命を受け、日本の旧 RC の様子を調査することが目的だったのです。

1949 年 3 月、ジョージ・ミーンズが突然飛行機で来日して、ロータリー復帰協議会の手島知健会長、東京水曜倶楽部役員らと会見し、いよいよ RI への復帰が可能になったことを告げました。

68 国際ロータリーへの復帰

RIへの復帰条件として示されたのが、(1)現状の各曜会の解散、(2)定款・細則の順守、(3)RI義務の完全履行、でしたが、各クラブはRI直轄であるので、戦前のような独自の集団*を形成しないこと、という注文が付けられました(*日満ロータリー連合会)。

これを受けて1949年3月29日、東京RC(会員数189)と、京都RC(会員数57)とが、旧登録番号のまま再登録されました。4月になって大阪RC(会員数68)、神戸RC(46)、名古屋RC(47)、福岡RC(33)、5月に札幌RC(45)がRI復帰し、この7クラブで新しくRI第60地区を形成することになりました。戦後の初代ガバナーには東京RCの手島知健が選ばれ、早速6月の国際協議会に出席するため渡米しました。

東京RCでは4月にミーンズから小林雅一会長にチャーターが手渡され、時の吉田茂首相が出席して祝辞を述べ、GHQ総司令官マッカーサー元帥(ロータリアン)からの祝辞もありました。

RI復帰は7月以降も続き、横浜(38)、西宮(20)、高知(24)、今治(20)、徳島(30)、広島(27)、岡山(24)、小樽(25)、函館(25)、熊本(27)、新潟(24)、四日市(20)、岐阜(20)と、この年20クラブに達しました。1950年には門司(29)、仙台(33)、浜松(20)、高松(40)、金沢(32)、旭川(36)、静岡(28)、長崎(30)、盛岡(21)、釧路(25)、郡山(28)、松山(30)、室蘭(31)、帯広(19)、和歌山(35)がRIに復帰しました。
【アディショナル・クラブの承認】

ロータリーは1909年以来、一都市一クラブ制をとってきましたが、大都市では必要な職業人をカバーしきれないため、アディショナル・クラブ(→p.60)を認めることになり、この年の8月に東京北RCと東京南RCとが誕生しました。以後、日本の大都市でも地域を分けて複数のRCが創立することになります。

69 ロータリーの標語（モットー）

1950 年、第 41 回 RI 国際大会（デトロイト）で、オハイオ州コロンバス RC からの決議案を採択してロータリーのモットーが決定されました。

1. He profits most who serves best.

2. Service above Self.

言うまでもなくこの二つの言葉は 1911 年にシェルドンとコリンズが語ったスピーチに由来するもので、元来は商業サービスに関する言葉でした（→ p.67、p.69）。これらが 1911 年にモットーとして採用（→資料 5）されたという事実はありません。

ところで 1910 年代半ばから、これらの言葉が金銭がらみで語られることが嫌われて、次第に精神論・人生論的な内容に置き換えられていきました（→ p.100）。これを踏まえて我が国では：

1. 最もよく奉仕する者が最も多く報いられる。

2. 超我の奉仕

が公式訳とされています。翻訳語では、その言葉によって読者のある方向に誘導することができますが、英文では過去 100 年間、上に記した英語だけしかありませんので、解釈は読者の姿勢次第です（→ p.101）。

モットー 1 は、1929 年のダラス大会で使用禁止案が提出され（理事会で提案を否決）しました。1989 年の規定審議会はモットー 2 を第一標語にすることを定めて、1 と 2 の立場が逆転しました。さらに 2001 年に RI は第 2 モットーを性差別用語に抵触するとして使用禁止としましたが、日本などの反対により 4 か月後にその決定を撤回しました。すると 2004 年に再度このモットー廃止案が提出され、審議の結果、僅差で否決されました。ロータリーのモットーは、最初に語られたオリジナルな意味を変更して、都合の良い新しい意味を押し付けようとするために、様々な意見が錯綜して、今日まで複雑な歴史の中を歩んできました。

1951 年、定款 Object に部分的な変更がありました。右頁に英文を 1935 年の条文（→ p.107）と同じパターンで記しましたので、どの部分がどう変更されたのかを比較してください。

Article III Object of Rotary 第 3 条 ロータリーの目的

ロータリーの目的は価値ある企業活動の基礎として奉仕の理念を奨励することであり、詳しくは、次の項目を奨励することである：

1. 奉仕の機会があれば、交友関係を発展させること；
2. 社会に奉仕する機会があれば、職業上の高い倫理基準を保ち、
（奉仕に）役だつ活動はすべて価値あるものとみなし、
そして、ロータリアン各自が行った活動に誇りをもつこと；
3. ロータリアン各人は、個人、職業人および地域社会の一員としての生涯を通して奉仕の理念に専念すること。
4. 奉仕の理念に結ばれた職業人の世界的な団体を通して、国際的な理解と親善と平和を促進すること。（英文は次頁枠内に記しました）

1935 年の Objects は、1922 年の Objects の文字を変更せずそのまま用いて、内容をガラリと変更するという見事な操作が行われました。これに対して 1951 年の Object 英文は、内容に大きな変化がないままに、文言をより正確な表現となるよう修正されたものと考えられます。

ところで、1935 年・1951 年の条文（現在の条文）には、ロータリーとして極めて重要な言葉が語られています。それは主文の中のアンダーライン部分に記された：

企業活動の基礎として奉仕の理念を奨励する

という言葉です（→ p.36）。ここにピューリタニズムの基本が語られていて、続く 4 項目にも、ピューリタニズムとロータリー精神の基本が述べられています。ロータリーは 1920 年代に世界各地へ急速に拡大したの

1951 年の定款 Object

The <u>Object</u> of Rotary <u>is</u> to encourage and foster the ideal of service as the basis of worthy enterprise and, in particular, to encourage and foster :
1. The development of acquaintance as an opportunity for service ;
2. High ethical standards in business and professions ; the recognition of the worthiness of all useful occupations; and the dignifying of <u>each Rotarian's</u> occupation as an opportunity to serve society ;
3. The <u>application</u> of the ideal of service in every Rotarian's personal, business and community life ;
4. The advancement of <u>international</u> understanding, goodwill, and peace through a world fellowship of business and professional men united in <u>the ideal of service.</u>

1951 年に改訂された定款 Object を 1935 年の Objects (→ p.107) と同じパターンで記入しましたので、両者を対比してください。

・主文の中で主語 (Object) と述語 (is) が単数表現になったことは、これまで多くの先達が指摘された通りで、これは目的語である “the ideal of service = 4 項目” を複数とみるか、単数を見るかの違いによるものです。単数化によって、the ideal of service が強調されたことは間違いのないと思われます。

・第 2 項に表現の変化がありますが、邦訳内容については全く違いがありません。

・第 3 項では、application of A to B (A を B に適用する、1935 年) から、application of A in B (B で A に専念する、1951 年) へ変更されています。訳文でもこの違いが判るように記さなければなりません。

・第 4 項では、international の文字の位置が変わって、次の 3 語のすべてにかかっています。

次に末尾の文字が 1935 年の the Rotary ideal of Service から Rotary の文字が消えました。ここで Rotary の文字を入れなくとも、この理念がロータリーの中で定着したと判断しているからです。

1951 年以降では、第 4 項の men が性差別用語にあたるとして persons に変更されました。

で、各クラブにはさまざまな人種・社会制度・宗教の会員が入会してきました。そこでロータリーはキリスト教の伝統的な宗教的「寛容」(→ p.105)を掲げましたが、ピューリタニズムの原点である Vocation = 「無償社会奉仕」の理念が失われてはロータリー活動が成り立ちません。そこでロータリーは活動方針の中に Vocational Service を組み入れ (1927 年)、定款改定時 (1935 年) に Object(s) としてその理念を文字で綴ったのでした。Object(s) では宗教用語の使用を避けたが、その中で “クラブ設立趣旨”、“ロータリー活動の神髄”を語るのは当然のことです。しかし、時が移り人が変わると、定款 Objects の本質が見失われがちになり、現在では RI の中心でも、Vocational Service という宝物を抱えて、右に左に迷走するリーダーが増えてきたように見えます (→ p.178)。

71 クラブ増加と地区分離

朝鮮動乱景気に沸く国内では 1951 年に新しく 28RC（復活 7 クラブを含む）が誕生し、前年に誕生した 26 クラブの記録を超えて大躍進の年となりました。各クラブの会員の半数近くは戦前の会員経験者で、多くは実業人でしたが、戦後の入会者には、弁護士、医師などの専門職、教育家、技術者、芸術家、僧侶、神官などあらゆる職業人が含まれていて、その会員増加の一因になっていました。

RC の増加に伴って、地区協議会（京都）で地区の分割が検討されていましたが、1952 年 7 月から、福井、滋賀、奈良以西の西日本（28 クラブ）を第 61 地区とし、東日本（38 クラブ）の第 60 地区と分離することになりました。

東西分離に先立つ 1952 年 4 月、全国 1 地区時代の最後の地区大会が大阪中之島中央公会堂で開催されました。星野ガバナー（大阪 RC）は、日本のロータリアンの浄化について語り、奉仕のための人生についてロータリーの先覚者としての厳しい話をされたと伝えられています。大会第 1 日に関西交響楽団（現在の大阪フィルハーモニー）の演奏があり、交響楽団によって新ロータリーソング「手に手つないで」（作詞・作曲：東京・矢野一郎）が披露されました……他のロータリーソングと歌詞を比べてください。これは戦後の歌なのです。

1952 年 5 月、国際大会が 4 年に 1 度米国を離れてパリで開催され、76 カ国から 1 万人を超える参加者がありました。この大会でプルニエ会長は、日本の RC の驚異的な発展に触れて奇跡だと紹介しました。

1952 年 11 月、第 60 地区の地区大会が名古屋に 49 クラブ 829 名が集まって、また第 61 地区の地区大会は福岡に 47 クラブ から 625 名が集まって開催されました。各地区のクラブ数を確認ください。当時の国内の急速なクラブ拡大の状況が見て取れます。

72 機関紙「ロータリーの友」発行

全国が1地区（第60地区）であった最後の大会（1952年）で、日本全体の機関紙の発行が決定されました。RIの公式機関紙 The Rotarian は英文ですから、日本のロータリアンにとっては日本語の機関紙の発行を望んだのです。戦前（1938年）に「国際ロータリー月報」と称する第70地区の機関紙が発行されたことがありましたが、戦争時代の中で消滅していました。発行の打ち合わせ会が8月に岐阜で開かれ、翌1953年1月から毎月の発行となりました。

当時の記録によると、機関紙のタイトルは、初代編集委員長を務められた岐阜RCの遠藤健三パストガバナーの案が採用され「ロータリーの友」とされました。機関紙の形式については第60地区全会員の投票結果（2/3が横書きを希望）に基づいて横書きと決定されたようです。編集委員は委員長・遠藤健三（岐阜）以下、手島知健（直前ガバナー・東京）、望月成人（京都）、露口四郎（大阪）、一力次郎（仙台）、平島健次郎（神戸）の5名で、岡野鑑記（横浜）が編集人に選ばれました。

かくして1953年1月号が葛飾北斎の「凱風快晴」に描かれた富士山の絵を表紙に発行されましたが、当初の6号まで同じ富士山の表紙が用いられています。

1972年から国内記事や会員の作品を右開き、縦書きとして現在の形式に移行しました。また、1977年の規定改定によって The Rotarian 以外の公式地域雑誌が認められるようになり、「ロータリーの友」は1980年7月からRI認定地域雑誌（機関紙）に昇格しました（→資料61）。



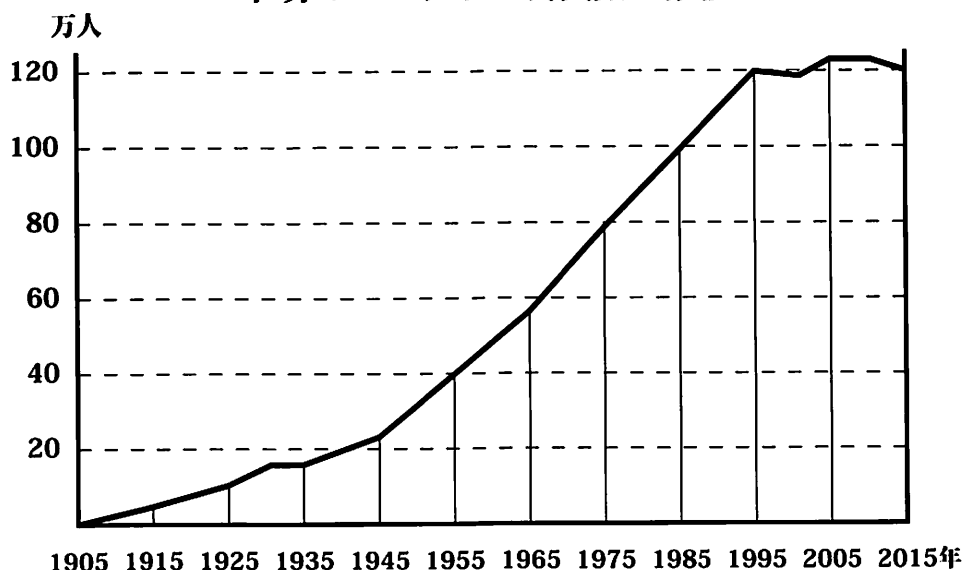
73 クラブ増加・地区拡大

〔社会情勢〕 朝鮮動乱の後、警察予備隊が創設（1950年）され、それが保安隊に改組（1952年）、自衛隊に変貌（1954年）していきました。1951年に対日講和条約《49か国》が成立し、同時に日米安保条約が締結されました。1953年にはNHKがテレビ放映（白黒）を開始し、1956年に日本が国連に加盟しました。

1954-55年度はロータリー創立50周年を迎え、世界のロータリアン数は40万人に達しました。その後も直線的な増加を続け、1995年には120万人となって、以後増減がありません。

国内でもクラブ増加への拍車がかかり、1955年には2地区157クラブ、会員6,300人でしたが、1960年には7地区へ、1970年には30地区へ、そして1990年には30地区1,880クラブ、117,000人へと急増しました。そして1994年には34地区に、1996年に会員数が180,982人（過去最高）になりました。

世界のロータリー会員数の推移



日本ロータリーにおける米山梅吉の偉業を記念して、海外（アジア地域）から優秀な学徒を日本に招致して学問・技術を学ぶことを支援する奨学目的で、1952年に東京RCが米山奨学基金を計画し、翌年に会員から1口千円以上、法人から1口1万円以上をもって目標額260万円を募りました（→資料20）。

奨学生第1号はタイの青年ラタナチャッタ君で、1954年10月に来日して東大農学部で養蚕を学びました。同じ東大で水産資源を学んでいたインド学生のエーベン君と、東京水産大学のインド学生のロイ君が、学資途絶で帰国もやむを得ない状況となっていたところを、米山奨学金が支給されて学業を続けることができました。

米山奨学基金は東日本3地区から全日本に広がり、1958年に米山奨学会の設立となり、さらに1967年に財団法人・ロータリー米山奨学会となって、民間奨学制度では国内最大規模を誇っています。2014年7月現在でこれまでに支援した奨学生数は18,104人で、年間約700人です。奨学会は全国のロータリアンからの寄付金（普通寄付、特別寄付）により運営されていて、2013-14年を例にとると、運営総額13.37億円、奨学金を含む事業・管理費が13.11億円と報告されています

ロータリーの奨学制度が他の奨学制度と異なる点は、奨学生の一人一人に地域のRCが「世話クラブ」となり、ロータリーとの交流の起点となることです。さらに世話クラブ会員の中から「カウンセラー」が選ばれて、奨学生の日常の相談役となります。米山奨学生はクラブの例会や家族会、社会奉仕活動などに参加することによって、日本と、ロータリー活動を知ることになります。元奨学生と現役奨学生による学友会が国内の地区のほか、台湾、韓国、中国、タイ、ネパール、モンゴルにできて、奨学期間を過ぎたのちも、ロータリーとの絆を結んでいます。

75 地区番号が三桁に、 皇太子・皇太子妃ご成婚

RIは1957年7月から地区番号の整理を行い、すべて三桁としました。日本は第350地区から第370地区までが割り振られ、第60地区は第350地区と第355地区に二分され、第62地区は第360地区に、第63地区は第365地区に、そして第63地区は第370地区に変更されました。

地区番号の変更によって、東日本の第350, 355, 360の3地区連合年次大会が東京都体育館で9月に開催され、マッカーサー2世大使、安井東京都知事の挨拶があり、さらに岸首相、藤山外相他の祝辞もありました。RI会長代理で来訪したジョージ・ミーンズRI事務総長が挨拶に立って日本の都市の復興に驚いたとのことでした。

西日本の第365, 370地区の連合年次大会は10月に神戸国際会館で開催され、米山奨学会寄付推進と留学生支援が話題の中心になったようです。

1958年11月、皇太子と美智子さんとのご婚約が新聞で一斉に報道されました。正田美智子さんは、東京RC・正田英三郎会員の長女であり、戦前の東京RC・正田貞一朗会員のお孫さんで、また叔父の正田健二郎氏も大阪RCの会員というロータリー一族から皇太子妃が選ばれたということで、ロータリアンの喜びも一入でした。

ご成婚の盛儀は翌1959年4月10日に盛大に挙行され、パレードがテレビで放映されましたが、東京RC宛にはRI会長名で、また世界各地のRCからも続々と祝辞が送られてきました。

戦前には東久邇宮殿下をロータリーの宮様と称していたことが、本冊子の中でも紹介してきましたが、戦後は、1957年から高松宮殿下が東京南RCの名誉会員となっておられ、そして1966年から三笠宮殿下が東京北RCの名誉会員になられ、ロータリーと皇室との縁を深くしてきました。

1916年にガイ・ガンディカーが著した冊子「ロータリー通解」(→p.79)を除いて、ロータリーには、理念・活動・手続きなどを記した適切な指導書がありませんでした。そこで創立 50 周年を前にした 1954 年、RI が地区、クラブの指導者向けの“Manual of Procedure”を発行し、それを世界の全クラブに送りました(→資料 38)。

これはマニュアルと称されている通り、A5 版の小冊子で、当初は 2 年ごとに、その後は 3 年ごとに出版され、現在まで続いています。現在の冊子では解説や規定など、まとめられて記載されていますが、当初の冊子では、さまざまな内容がタイトルの ABC の順に並べられていたもので、それが英文であったことと併せてたいへんわかりにくいものでありました。なお、一年交代の RI 会長はこの冊子の出版には関わっていないようで、冊子の序文に記されている通り、その数年間を担当される事務総長の責任編集で発行されるようです。

当時のわが国の RC 数は 140 を超えて、急速な発展期を迎えていましたので、このマニュアルの翻訳版の発行が望まれたのは、当然の成り行きだったと思われます。1957 年に RI から、手島知健、宮脇 富両 RI 理事に対して、Manual of Procedure の翻訳権が委譲されたと伝えられています。これは、戦前のロータリー内部にあった国粹主義的な傾向、特に、「大連宣言」の英訳と定款 Object への置き換え発議問題が懸念材料となって、“翻訳”は理事経験者の二人に限定すること、英単語 1 字に対して日本語 1 字を当てはめること、意識の禁止などの条件が付けられたということです(→資料 33, 37)。翻訳作業は大変だったと推察されますが、途中でお一人が体調を崩されたため、以後の翻訳を残りのお一人で担当されたと伝えられています。

かくして 1960 年、「手続要覧」の初版が発行されました(→資料 41)。

定款 Object (目的) 翻訳の歴史

ロータリーの定款 Object の翻訳邦文は、「手続要覧」内に正式に印刷・保存されていますので、初版にさかのぼって発行された全冊子を調査して、次のような翻訳の変遷を確認しました。
1960 年版手続要覧より：(→資料 39, 41, 42)

第 3 条 ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、尊ぶべき事業の基礎として奉仕の理想を奨励且つ育成し、
特に次の事項を奨励し育成するにある：

第一 奉仕の一つの機会として 知り合いを拡めて行くこと；

第二 ① 社会に奉仕する一つの機会として、ロータリアン各自の従事する職業の道徳的
規準を高め； その真価を認識し； 且つ職業そのものに権威あらしめること；
② 職業上の高き道徳的規準、総ての有用な業務の認識、そして社会に奉仕する
好機としての 各自の業務を各ロータリアンにより権威あらしめること；

第三 各ロータリアンは、その個人生活、職業生活、社会生活の区別なく常にこれに
“奉仕の理想”を適用すること；

第四 “奉仕の理想”に結ばれた職業人の世界的親交によって国際間の理解と友情と
平和とを促進すること。

第二の①は“国際ロータリー定款”の Object の邦訳文で、②は“ロータリー・クラブ定款”
の Object の訳文です（英語は同文）。翻訳に携わったお二人の異なる見解がそのまま印刷された
ものと推察されます。1962 年版では、両方とも②に近い形で統一されています。

この当時、“可算／不可算名詞”（→ p.6）や、“常用省略形”（→ p.7）に関する文法的知識は、
まだ国内に普及していませんでしたし、過去のロータリーの条文に関する資料も存在しなかつ
たため、上記アンダーラインで示した多数箇所翻訳上の誤りが存在します。

1970 年版手続要覧より：(→資料 40, 43)

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成
し、特に次の各項を鼓吹、育成するにある：

第一 奉仕の機会として 知り合いを拡めること；

第二 実業及び専門職業の道徳的水準を高めること； あらゆる有用な職業は尊重され
るべきであるという認識を深めること； そしてロータリアン各自が職業を通じ
て社会に奉仕するために、その職業を品位あらしめること；

第三 ロータリアンすべてが、その個人生活、職業生活及び社会生活に常に奉仕の
理想を適用すること；

第四 奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって国際間の理解と
親善と平和を推進すること。

手続要覧内に記されたこの条文は「改訳」と明記されていて、1970年7月、日本支局“翻訳室”に集まった翻訳諮問委員の方々と翻訳室スタッフとが協議して作成されたものです。ただしその会議では英和辞典は用いられなかったとされていて、そこでは英文法上の誤りは全く修正されませんでした。

1989年版手続要覧より：(→資料44)

ロータリーの綱領は、有益な事業(1)の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成するにある：

第一 奉仕の機会として(イ) 知り合い(2)を広めること；

第二 事業及び専門職務の道徳的水準を高めること； あらゆる有用な業務(3)は尊重されるべきであるという認識を深めること； そしてロータリアン各自が業務(3)を通じて社会に奉仕するために(ロ) その業務(3)を品位あらしめること；

第三 ロータリアンすべてが、その個人生活、職業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；

第四 奉仕の理想に結ばれた事業と専門職務に携わる人の世界的親交(4)によって国際間の理解と親善と平和とを推進すること。

この年の改訳は、どのような人々によって、どのような手続きで行われたものか不明で、RI日本支局にもその記録がないとのことですが、決定的なことは、これがその後20年以上にわたって我が国におけるロータリー定款のObject(綱領)邦文として定着していたことです。最大の問題点は、1975年に中学校基礎英語教育の中に採用されていた英語名詞の「可算／不可算」の処理が、10年以上が経過しているのに正しく捉えられなかったことです。

【文法的問題点】 (英文および修正訳は185頁を参照ください)

- ・「綱領」：英単語 Object には綱領という訳語がありません (→ p.186)。
- ・可算／不可算名詞(1~4)の判断が必要なすべての単語で、間違いが見られます (→ p.6, 186)。
- ・常用省略形(イ、ロ)が正しく理解されず、その部分の日本語には文法上の法則性が見られません (→ p.7)。
- ・第二の条文は1935年に二つの条文を合併してできたもので、それが邦訳文のように三つの相互に関係のない文章に分かれるなどということは考えられません。文法的、歴史的に再考すべきです (→ p.107, 186)。
- ・「奉仕の理想」 the ideal of service、「特に」 in particular、「有益な」 worthy、「尊重される」 worthiness、「ロータリアンすべて」 each Rotarian、「生活」 each Rotarian's life、「適用する」 application……in…など、法文の翻訳には慎重な文法的処理が必要です。

-----2010~12年に活動された「定款等翻訳問題調査研究小委員会」から提案された Object 邦訳文では残念なことに、多くの部分で過去の過ちと同じ過ちが繰り返されました(→ p.171)。

77 東京国際大会の開催

'61 ロータリー国際大会が、1961 年 5 月 28 日（前夜祭）から 6 月 1 日までの 5 日間、東京晴海の国際見本市センターを主会場として開催されました。

国内初の国際大会は、東京 RC がホストを、東京都・横浜市の 22 クラブがコホストを務め、74 カ国から 23,366 名という記録的な参加者があり、そのうち、国内参加者 16,011 名というのも新記録でした。海外から 7,300 名を超える集団の来日は、歴史上最大の観光団ともいえるべきもので、宿舎の手配があれば、まだまだ増していたといわれます。

本会議には天皇・皇后両陛下をお迎えし、「ロータリーの会員が創立以来、奉仕と友愛とを目標として人種、宗教、国境を越えて友好を重ね、国際理解を深める上に多大の寄与をしてきたことは喜びに堪えません」とのお言葉がありました。続いて池田勇人首相、東竜太郎都知事などの挨拶があり、5 日間の講演には石坂泰三経団連会長が日本の努力と西洋の民主主義の育成について語って会場の注目を集めました。また国連の L. モンロー卿、H. フィールド・フォード財団会長なども登壇され、国際大会を盛り上げました。

大会の実況放送はテレビ 2 局、新聞などを通じて全国津々浦々にまで行われ、その一部は海外にまで報道されました。また会場内では無線機による同時通訳が行われ、会場間を同時放映で繋ぐというシステムが導入されましたが、いずれのシステムもロータリー国際大会としては最初の試みでした。

期間中に海外からの参加者を国内会員の家庭に招くホーム・ホスピタリティの催しがあり、盆栽展示、着物ショー、茶の湯などのプログラムが満載で、最終日には「手に手つないで」の大合唱で締めくくった印象深い大会でした。

・**ワンダーフォーゲル運動** 1956 年夏、若い世代に善意と親切を教えることを目的に、夏の 40 日間をかけて南九州の 11 クラブの共同事業としてワンダーフォーゲルが計画・実施されました。男子高校生を対象にして参加校 32 で、参加学生 429 名が自転車で南九州を走破しました。

ワンダーフォーゲル運動は 5 年を経て九州地方全域から山口県にまで広がり、この成功に倣って、東北北部 3 県でワンダーフォーゲルを実施しましたが、1962 年 7 月～8 月、352 地区全域（東北 6 県）で 800 人の学生が参加して実施されるまでになりました。

・**青少年交換計画** この時期、青少年交換が第 358 地区、第 370 地区と第 268 地区（オーストラリア）との間で計画され、男女高等学校生徒計 15 名が、1 年間オーストラリアの高校へ入学して勉学しました。

・**インターアクト・クラブ** 1962-63 年度のラハリー会長時代に提唱された 12 歳～18 歳の青少年育成プログラムです。1963 年 6 月のセントルイス国際大会で、すでに 12 か国、116 インターアクト・クラブが成立したと報告されました（→資料 18）。日本においては高等学校の社会福祉ボランティア・サークルとして出発することが多く、1963 年 6 月に仙台（仙台育英高校：会員 130）と京都（西京商業高校：会員 18）とが最初のインターアクト・クラブとして名乗りを上げました。

・**ローターアクト・クラブ** 18 歳から 30 歳までの青年男女のための奉仕クラブで、地域の RC が提唱・支援して、大学または地域社会を基盤として設立されます。ローターアクト・クラブの日本第 1 号が 1968 年 6 月、埼玉県川越 RC の努力により国際商科大学に設立されました。

・**新世代奉仕（活動）New Generations Service** 21 世紀に入る前から重要な活動（Service）の一つとされてきましたが、2010 年に定款第 5 条の中に記載されて、正式な活動方針の一部とされました（→ p.183）。

神武景気(1957年)、岩戸景気(1959年)と続く高度経済成長の勢いで辿り着いたのが1964年の東海道新幹線の開通と東京オリンピック(10月10日～24日)の開催でした。



満員のオリンピック・スタジアムに華やかな各国の入場行進が行われた後、聖火最終ランナーが駆け上り聖火台に点火しました。最終ランナーは原爆投下の日に広島で生まれた19歳の青年・坂井義則君、聖火台は3年前のロータリー東京国際大会の成功を記念して東京RCと東京・横浜の22RCが寄贈したものでした。スタジアムは戦後19年の復興を世界に知らせ、坂井君は「原爆キッド」として海外メディアに報じられましたが、あの巨大な聖火台(高さ2.1m、直径2.1m、重量2.6t)がロータリーの寄贈だという報道はなく、殆どの方が知りません。

実は、聖火台は1年前の第3回アジア競技大会の前に発注されたもので、手がけたのは、かつて鋳物産業で栄えた埼玉・川口の鋳物師、鈴木萬之助・文吾さん親子でした。萬之助さんは銅像や仏教彫刻などに用いられる鋳造技術「惣型法」の名工で、文吾さんも惣型法を受け継いだ腕利き職人でしたが、注文を受けてから完成まで6か月という切羽詰まったタイミングでした。初めての巨大な鋳型に1400度の鋳鉄を流し込む作業は失敗の連続で、癌を発病した萬之助さんの意地と命をかけた作業姿がNHKテレビで放映されました。

東京オリンピックで忘れてはならないのが、競技会場の案内や、トイレ、非常出口、エレベーター、食堂などを示す絵文字(ピクトグラム)の開発でした。たいへんな努力がオリンピック会場で生かされ、それがその後の全オリンピックに採用されただけでなく、今日、人の集まる会場やビル内で広く用いられるようになっていることは周知のとおりです。

1968-69 年度 RI 会長に東京 RC 会員の東ヶ崎 潔が就任しました。会長のテーマとして掲げた“PARTICIPATE”（参加し敢行しよう）は、英語として歴代で最も短いテーマでした。

ジョージ・潔・東ヶ崎の両親は明治初期の日本人移民（キリスト教徒）で、氏は 1895 年サンフランシスコ生まれ、カルフォルニア大学バークレー校に在学中に第 1 次世界大戦が勃発し、ジョージはフランスにわたって兵役に就きました。卒業後、実業の道に進み、商用で日本に来たとき、日本基督教会の草分け的存在であった金森通倫牧師の長女と結婚、活躍の場を日本に移しました。ロータリーの先輩、芝染太郎と同じく Japan Times 社長を務め、その縁で 1949 年、東京水曜倶楽部に入会、RI 復帰に尽力した後、1955 年に東京 RC の会長、1957 年に地区ガバナー、1963 年 RI 理事に就任、ジョージという名前で世界中のロータリアンに親しまれました。

1969 年 5 月に開催された年次国際大会はハワイ・ホノルルのインターナショナル・センターで開かれ、参加者 14,453 名中、日本から 3,801 名の出席がありました。東ヶ崎会長は開会の挨拶を日本語で述べ、「よりよい社会は我々がどれ程社会の変化に影響を与えるかにかかっている」という開会の辞で始められ、ロータリー・ソングとして「奉仕の理想」が歌われました。壇上ではカメハメハ校の生徒たちが「アロハ王国の名誉首長」東ヶ崎会長に対し、プルメリアのレイをかけて歓迎の意を表しました。

個人的な事業として、Japan Times 社長～会長、富士海外旅行社社長、日本聖書協会、日米協会、清里キープ財団、日米会話学院など多方面の活躍がありますが、国際基督教大学では創立者に名を連ね、初代理事長として同大学の土台作りに奉仕されました。

81 大阪万国博覧会・会場内で RC 例会

「人類の進歩と調和」をテーマに、万国博覧会 EXPO'70 が 1970 年 3 月から 6 か月間、大阪千里ヶ丘で開催され、史上最高の 77 カ国からの参加がありました。広さ 330 万平方メートルの会場の中心にはテーマ館として万博のシンボルとなった岡本太郎制作の「太陽の塔」が建てられ、117 のパビリオンが展示を競い、アメリカ館（月の石）やソ連館（宇宙船ドッキング）などが人気を集め、連日長蛇の列が続きました。



この万博会場内で RC の例会を開く計画が 4 年前から進められ、1967 年 1 月、万博ロータリー組織委員会が設置されました。7 専門委員会が置かれて会場内に例会場を建設するために全国からの協力金が 5,800 万円の多額に上りました（→資料 6）。

3 月 14 日にシンボルゾーンの太陽の塔に灯がともって開会式が行われましたが、エキスポクラブに設けられた例会場では、3 月 16 日、大阪 RC の例会でスタートしてから、日曜・祭日を除いて 9 月 13 日の閉幕までに 153 回の例会が一日の空きもなく連続で開かれました。ホストクラブ 231、出席者 23,380 名、1 回平均 152 名、外国からの来訪者 54 カ国 1,737 名、国内ビジター 7,310 名でした。最終例会では大阪 RC の菊池会長が「月への旅行もさることながら、世界の国々の人々が一同に会して手を握り合ったこの催しこそ真に意義深いものであった」と語られました。大阪市内 RC と吹田 RC から会場内に 13,500 本の「平和のバラ園」が寄贈され、2 年後には、会場跡地の森林公園に余剰金 570 万円を投入して造園した「ロータリーの森」を万博記念協会に寄贈しました。

82 国際ロータリーと日本支局

国際 RC 連合会から国際ロータリーへかけての事務所は、ロータリー発祥の地シカゴ市内におかれていましたが、1952 年のメキシコシティ国際大会において、本部事務局をシカゴ近郷のエバンストンに新設することを決定し、翌年着工しました。

エバンストンはシカゴの北に接して位置し、かつては「20 マイルの仙境」と評された利用価値のない、原始林で覆われたミシガン湖西岸の湿地帯でしたが、シカゴ市の巨大化が進むにつれて、徐々に土地改良が行われ、今やミシガン湖畔の美しい都市として知られています。新設の中央事務局は、エントランスホールを含む中央の建造物から 2 階建ての建物が左右に伸びるたいへん美しい建物でしたが、ロータリーの事務作業量が増えるに従って手狭になったため、1987 年にエバンストンのダウントウンに 18 階建てのビルを購入して世界本部（ワン・ロータリー・センター）としました。

RI 事務局は、この世界本部と 7 カ国（スイス、日本、オーストラリア、ブラジル、アルゼンチン、韓国、インド）の支局から成り立っています。

日本事務局は 1964 年 3 月に東京文献事務局（翻訳室と資料室）という名称で開設され、文献代行者として柳瀬省吾氏（1964 年）が就任、以後、田 誠氏（1967 年）、松本兼次郎氏（1973 年）、入江直祐氏（1978 年）が継承されました。1970 年、文献諮問委員会が「標準 RC 定款」、「推奨 RC 細則」などの重要文献の翻訳に手を染め、その結果が手続要覧に保存されています。

1981 年に文献事務局が RI 日本支局となって、文献代行者制度が廃止され、文献翻訳の主力作業が翻訳室に移りました。

1999 年には翻訳室の翻訳作業が RI 本部に移動して、出版物の翻訳のすべての作業が米国で行われるようになりました。

83 規定審議会

1970年の国際大会は「風と共に去りぬ」の地、アトランタで開催され、日本から170名が参加しました。大会に先立つ規定審議会で審議された案件の中に重要な提案がありました。

規定審議会はRIの立法機関で、組織内から提出された制定案と決議案について審議、決定する機関です。1934年、デトロイトの国際大会の諮問機関として創設され、この年（1970年）から立法機関となり、国際大会の一部として開催されることになりました。

[1970年審議会決定の中の重要事項]

1. 規定審議회를国際大会から切り離して、RIの立法機関とする。
（審議会が国際大会から完全に独立して運営するという制定案が採択されたのは、1977年のサンフランシスコ国際大会でした）
2. 規定審議会は3年に1度開催する。
3. 理事定員を17名とする（3名増加により日本から理事1名を出す見込みとなった）。
4. 人口50万以上の都市には、既存クラブの承諾の上、アディショナル・クラブの創設を承認する。

審議会は世界中の500人以上の代議員によって構成され、その会合の特徴は、豊富な情報に基づく討議・歩み寄り・改正と、過半数による決定です。

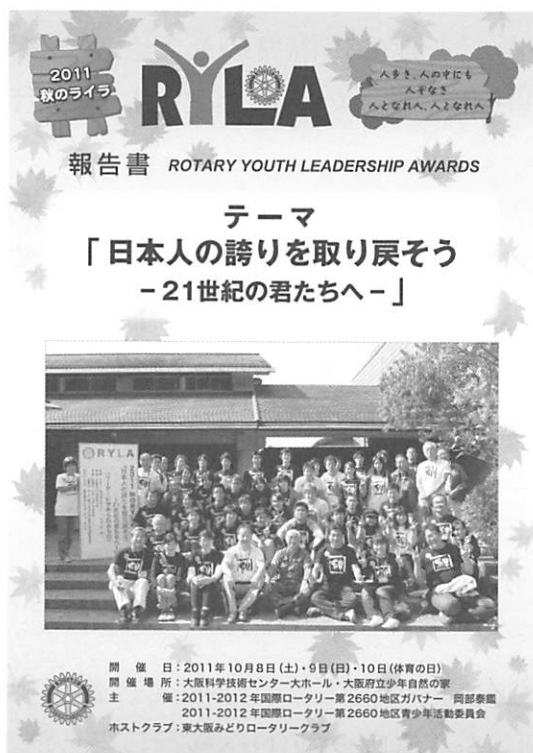
規定審議会開催年には、各地区と各クラブはRIに対して、ロータリーの組織規程に変更を求める「制定案」と、ロータリー活動への意見や理事会への提案を示す「決議案」を、代議員を通して提出することができます（クラブからの提出には地区の承認が必要です）。

RI理事会は、規定審議会で採択された決議案と、審議会から理事会に回付された案件について最終決定を下します。

オーストラリア・クイーンズランド州のブリスベン・ロータリー・クラブが、1956年に地域から選考した10代の若者たちを、交流と文化・教育活動のぎっしり詰まった1週間のプログラムに参加させました。クラブは参加者の意欲的な活動に感銘を受け、また参加者もこのプログラムがどれほど個人の成長を助成したかについて賛辞を惜しまなかったため、その成果はオーストラリア中のRCに広まり、1971年にはRI理事会が「ロータリー青少年指導者養成プログラム」(Rotary Youth Leadership Awards, RYLA)として採用することになりました。

RYLAは、若者のリーダーおよび良き市民としての資質を延ばすことを目的としたプログラムで、セミナー／指導者キャンプの方式に基いて、

地区またはクラブ単位で実施されます。本邦では1975年に第366地区(大阪・和歌山)で初めて行われ、1977年から各地区で開催されるようになりました。第2660地区は青少年活動委員会が堅実な活動を継続しており、当クラブは2011年10月8～10日、大阪府青少年自然の家を中心に举行されたRYLAのホストを担当、北井孝彦実行委員長と、石渡善一、井上善博、小寺史郎、浜田秀雄、松浦利英の5ロータリー・パパ以下、クラブ全員が若者とともに生活して、感動の日々を経験しました。



2011 秋のライラ RYLA 人多き、人の中にも 人少なき 人となれ人、人となれ人

報告書 ROTARY YOUTH LEADERSHIP AWARDS

テーマ
「日本人の誇りを取り戻そう
－21世紀の君たちへ－」

開催日：2011年10月8日(土)・9日(日)・10日(体育の日)
開催場所：大阪科学技術センター大ホール・大阪府立青少年自然の家
主催：2011-2012年国際ロータリー第2660地区ガバナー 岡部泰雄
2011-2012年国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会
ホストクラブ：東大阪みどりロータリークラブ

85 札幌冬季オリンピック

1972年2月3日、札幌市の真駒内屋外競技場で第11回冬季五輪大会の開会式が行われ、11日間の大会が開幕しました。東京オリンピックの場合と同様に、1940年（昭和15年）に札幌での開催が決定していた第5回大会を日中戦争激化のために返上した歴史があるだけに、この日の実現は関係者にとって特別の思い出があったようです。



大会には35か国から1125人の選手が参加し、日本は70m級純ジャンプで笠谷、金野、青地、3選手が金、銀、銅メダルを独占する姿に日本中が沸きました。この大会会場の聖火台は第350,351地区（北海道全域）のロータリー聖火台建設委員会が全国のRCに呼びかけて実現したものでした。開会1年前のプレオリンピック開会式には、皇太子、三笠宮、両ご夫妻のご臨席のもと、ファンファーレ演奏、古関RC会員作曲の「序幕の歌」の合唱とともに聖火台献納式が挙行されました。

現在、札幌には聖火台と称するものが3つ残されています。1つは手稲山スキーコースの頂上にあり、コンクリート製の台で背面に五輪入賞者の名前を刻んだプレートがあります。2つめは大通公園の市役所近くにあるもので五輪マークが付けられていますが、大きなものではありません。3つ目は真駒内屋外競技場にあって、これが柳宗理氏デザインのロータリー寄贈の聖火台（写真）だということです。

この年の5月、沖縄の日本復帰が実現して、沖縄の8クラブが国内に移管するとともに、グアム（2RC）とサイパン（1RC）が東京358地区へ編入されることが決まりました。

日本経済が高度成長期を終えて安定成長に移行しつつあって、為替相場が固定制（1\$=¥360）から変動相場制（1\$=¥300→270）へ移行しました。

1971年11月、第356地区（新潟・群馬）に新設された「栗生西RC」が世界で15,000番目のクラブとして認証されました。世界のクラブ数が最初の5,000番に達するのに34年、次の10,000番には19年を要しましたが、15,000番へは13年でした。日本のRC・会員数の増加の勢いは、1969~70年に年間84クラブ、会員数4,552名増という大記録を作っています。

ロータリー財団への日本の貢献が著しく世界から高く評価されるようになりました。日本からの年間寄付総額は1972~73年に133万ドル、1973~74年には206.3万ドル、1974~75年には235万ドルに達し、これは世界中の寄付総額の1/3を占めるものでした。第359地区が世界のトップを切って寄付累計100万ドルを超えました。

ポール・ハリス・フェローは1972~73年に534名が、1973~74年には1,133名が誕生し、総数2,533名は米国の3,631名に次ぐ、ダントツの第2位に位置していました。1975年、鳥取RCの八村信三氏に1万人目のポール・ハリス・フェローが授与されました。

第269地区の出雲南RCでは会員の例会出席率の向上に努めた結果、1972年2月の創立より1978年9月まで330回の例会で、出席率100%を300回達成しました。因みに330回の出席率は99.65%でした。

1979年4月、第263地区に新設された岐阜加納RCの認証状伝達式にはW.R.ロビンズ・ロータリー財団委員長の次のようなメッセージが添えられていました。「私の知る限り、認証状伝達式で全員がポール・ハリス・フェローというクラブは貴クラブが最初である。財団に代わって一人一人の皆さんに感謝と敬意を表する」・・・この日、40名の新会員全員がポール・ハリス・フェローのメダルを胸に記念写真を撮ったそうですが、財団寄付を入会条件にしていたのではないとのことでした。

87 '78 東京ロータリー国際大会

日本で二度目となる国際大会が 1978 年 5 月 14 日から 5 日間、東京・国立代々木競技場と第一体育館を主会場にして開催されました。この年、世界から 95 カ国、40,155 名という空前の参加者を得て、歴代の記録を大幅に塗り替えました。

ハッピー姿で登場した W.J. デービス RI 会長の「この大会に集まった会員は変わらぬ友情の絆を結ぼうとしている世界各国地域社会の指導者である」との言葉で大会の幕が切って落とされ、地元から永野重雄東京商工会議所会頭、前田義徳東京 RC 会長が歓迎の挨拶に立ちました。セレモニーの後には日本の伝統芸能を中心にした絢爛豪華な「日本の四季」が上演され、満場の拍手が鳴りやみませんでした。

翌日はロータリー・ソングの大合唱で本会議が始まり、デービス会長の基調講演と E.O. ライシャワー・ハーバード大学教授(元米国駐日大使)の講演に続いて、R.A. ヒングソン博士(ブラザー財団)からポリオワクチンの投与によって数百万人の子供をポリオから救えるという重要な講演がありました。またこの日、「アジアの声」というパネルディスカッションが開催され、ロータリー財団への年間 250 万ドル、全世界の 4 分の 1 の寄付、ポール・ハリス・フェローの 3 分の 1 以上が日本人であることが報告され、また米山財団からは 2,000 名に達する奨学生支援の報告があって、それらの活動に対して会場に大拍手が沸き起こりました。

プールの上に床を張った特設会場と聴衆席は参加者全員を一度に受け入れることができず、開会式と翌日の本会議は昼夜 2 回挙行という非常手段が用いられました。NHK 交響楽団の演奏、古典能の上演、300 人の児童によるバイオリン合奏、民謡少年団の美しい歌声などが披露され、第 2 日目の午後から夜間にかけて、海外からの 4,000 名を東京、神奈川、千葉のロータリアンがホーム・ホスピタリティで接待しました。

国際ロータリー 1982-83 年会長に日本人として二人目の向笠廣次が就任しました。会長のテーマとして Mankind is one, Build Bridges of Friendship Throughout the World（人類は一つ、世界中に友情の橋を架けましょう）を掲げ、人類はその祖先を辿っていくと、皆が血縁の関係にある、人類は一つなのだ、と強調されました。1982 年の国際協議会で、「皆さん、左右にいるオジサンやイトコたちと初対面の挨拶をして下さい」と語ったのは有名な話です。

氏は 1911 年（明治 44 年）、福岡県久留米市の生まれ、軍医であったお父さんの後を追って九州帝国大学医学部に進み、1938 年に卒業。卒後、精神科にて電気ショック療法を創めるなど国際的に知られた精神科医でした。やがて大学を離れ、病院勤務を経て大分県中津市で開業、1957 年に中津 RC に入会されました。

1967-68 年度第 370 地区ガバナー、1979-80 年度 RI 理事。

「ロータリーの友」1982 年 7 月号（2002 年 8 月号再掲）の記事「ムカサザ コスモポリタン」によると、彼が人間を考えると、各国における人間の気質あるいは性格の分類が人口に対する比率には差がないと言います。どこの国の文学でも音楽でも楽しめるし、美談は心を打ち、悲しみは涙を誘う。これは世界中の人間の考えることには差異がないということの何よりの証拠である、と語っています。

向笠会長は、過去の RI 会長がめったに訪れたことのないようなクラブ・地区・国を訪問されたことが知られていますが、米国ヴァーモント州ウォリングフォードのポール・ハリス記念 RC のメンバーの皆さんは向笠 RI 会長が訪ねてきてくれたことを大変喜んでいました。

「環境倫理学入門」、「手をつなぐ中学生」など著書多数。晩年は関節リウマチを押して会長職を務め、車椅子で講演に出かけられたそうです。

【3-H プログラム】 ロータリー創立 75 周年を迎えるにあたって、RI 理事会は新しい「3-H プログラム」を発表しました。3-H とは、Health（保健）、Hunger（飢餓追放）と Humanity（人間性尊重）のプログラムで、1979 年 7 月からロータリー財団の事業計画として採択されました。

その最初の事業として、年齢 3 か月から 36 か月のフィリピン児童、約 600 万人に対して、ポリオ（小児麻痺）経口ワクチンを与える 5 カ年計画が打ち立てられました。同国のロータリアンは「7,000 の島々からなるこの国は東西の文化を共有しており、このように大規模で全人類一家とする希望と善意に満ちた国際的事業を創めるのに相応しい地域である」として感謝の意を表明しました。

日本の RC も多大な資金援助と貢献をし、貢献が顕著なクラブに与えられる「3-H 盾」を多数のクラブが受賞しました。

1960 年代前半にはポリオは日本でも猛威を振るっており、年間 6,500 人以上の児童が発病していたため、1965 年に厚生省（当時）は既に開発されていた経口（生）ワクチンを旧ソ連・カナダから大量に輸入して緊急対応しました。その効果は著しく、数年後には発病者が 1 ケタに落ちるという程でした。フィリピンにおけるポリオ生ワクの一斉投与は、日本における効果実証の結果であったのです。

【ポリオ根絶計画】 ロータリー財団補助金が投入された 1979 年のフィリピン児童 600 万人へのポリオ生ワクチン投与は、ロータリーのポリオ・プラス活動創設の元となりました。1984 年、ポリオ撲滅 2005 年計画を発表。1985 年、世界のポリオ発症数は毎年 35~50 万人と言われる中で、世界の全児童に免疫を付与するポリオ・プラス募金計画（1 億 2 千万ドル）を発表。日本の目標額は 4 0 億円。1987 年、世界でポリオ・プラス・キャンペーン；2 億 4 千 7 百万ドル募金 これが大きな支援と

なって、1988 年 5 月の WHO 総会で、ポリオ根絶計画が決議されました。
米国 CDC（疾病予防センター）、Unicef と RI が協力。当初計画では；

2002 年 野生株由来のポリオ患者を 0 に、

2005 年 世界レベルの根絶宣言

2010 年 ポリオワクチン接種の世界的な終了

でしたが、当初から予想されていた“最後の 1% の難しさ”が現実のものとなり、2015 年現在、この初期計画は達成されていません。

ポリオ生ワクは、ポリオ・ウイルスの生きている弱毒変異株で、投与された児童の腸内で 1 か月余り生きて増え、便とともに大量のウイルスが排出されます。腸内でウイルスの“先祖返り”（遺伝子変化）が起こることがあり、統計では生ワク投与 100 万件に 2~4 名のポリオ患者が発生するとして、WHO は先進国では投与しないよう勧告しました。

さて、生ワク投与地域（エジプト、フィリピン、ドミニカ、イスパニオラなど）では、過去に生ワク由来のポリオの集団発生が見られ、米国医師会雑誌（→資料 72）は 2002 年にこのポリオ根絶計画は破綻したと述べました。米国では 1977 年以降、生ワク投与が原因のポリオ患者が自然発生患者を上回るようになって、2000 年に生ワクを廃止しました。

一方、注射（不活化）ワクチンではポリオ発症がありませんが、ワクチンが高価な上に投与に専門家が必要になります。注射ワクチンへの切り替えが遅れた日本では、生ワクが原因のポリオ患者がこれまで 180 名以上に達しています。RI は生ワク由来のポリオについて何も語りませんが、世界中に変異ウイルスを大量にばらまいた結果として、相当数のポリオ患者を発生させてきた可能性があります。青森県の関場医師（小児科医・ロータリアン）は、野生と生ワク由来のウイルスの両方を駆逐して初めてポリオ撲滅がなし得ると述べておられます（→資料 73）。

90 女性会員

ロータリーに女性会員が登場するには長い歴史が必要でした。1956年にインドのRCより定款から男性の文字を削除するという制定案が、1964年にはスリランカのRC、1972年には米国のRCが女性の入会を認める制定案を提出しましたが、何れも規定審議会で否定されています。

1977年、カルフォルニア州デュアルテRCが定款に真っ向から違反して3名の女性会員を入会させたため、同クラブはRIから認証状取り消し処分を受け、その後、長い法廷闘争に入ります。

1983年カルフォルニア州高裁はRIを支持、女性会員は認められませんでした。1986年、同クラブからの控訴審では女性会員制が勝訴しましたが、しかし州最高裁で再び敗訴し、ついにこの問題は連邦最高裁へ持ち込まれることになりました。1987年、連邦最高裁は、RCは性別を理由に女性会員を拒否できないという判決を下しました。RCに“公的性格”を認めた最高裁判決という時代の流れに沿って、RI理事会は次のような声明を発表しました・・・「米国のRCは性別に関係なく、会員候補者を公正に検討するよう奨励する」

1988年、カナダでも米国と同様の判決があることを理由にRIはカナダの女性会員の入会を認めました。1989年の規定審議会は「RC会員は男性に限られる」とするRI定款の文章を削除することを可決しました。

最高裁の判決は世界各地で大見出しで報道され、一部ではロータリーもこれで終わりか、と口にされたようです。しかし、その1年後には全世界の女性ロータリアンの数は2万人を超えるようになりました。彼女たちはRCの既婚男性を盗む妖婦ではなく、企業の上級管理職、店主、校長、弁護士などで、2007年には63名の女性が地区ガバナーに就任し、世界で25,227RCに女性会員が在籍しています。いまや女性ロータリアンの総数は177,859名（全ロータリアンの14.6%）に達しています。

ガバナーが体調を崩して急に退くことになっても、その時点でガバナーノミニーが後を継ぐことはできません。ガバナーは RI 協議会が定めた研修を受講していることが不可欠な条件とされているため、継承者は研修受講経験のあるパストガバナーの中から選任されるのです。

1980 年に始まった「次年度会長・幹事研修会」は 1985 年から RI が定めた「クラブ会長エレクト研修セミナー (PETS)」へと移行しました。これによってクラブ会長もガバナーと同様に、PETS 受講者でないと就任できないことになりました。

1997 年、ガバナー補佐 (Assistant Governor) 制度が、国内の先進地区で実施されるようになりました。AG は地区内を分割した一定の数のクラブを年間 3 回以上訪問して、必要な情報交換を行うとともに、RI へ各クラブの活動状況報告を作成する義務を負っています。

1991 年、世界の地区番号が現行の 4 桁になりました。この年、日本は全国で 31 地区になり、1994 年には 34 地区に、そして 2000 年には一時 35 地区となった後、現行の 34 地区に落ち着きました。

2000 年の規定審議会によって多くの標準定款細則が改正されました。その中で重要な 2 項を記します。

- ・会員は正会員と名誉会員の二つに限定されました。
- ・会員数が 50 名までのクラブでは 1 業種 5 名まで、会員数が 51 名以上のクラブでは 1 業種の会員数を正会員数の 10% まで認めることになりました。これによってロータリー創立以来継承されてきた「1 業種 1 会員制」が崩れたのです。

2002 年から各地区は RI が定めた地区リーダーシップ プランの採用が義務付けられ、続いて 2004 年にはクラブ・リーダーシップ プランが打ち出され、事業継続や情報伝達などのシステムが固められました。

2004年5月23-26日、日本で三度目となる国際大会が大阪で、大阪ドーム、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテルを主会場として、111カ国から45,381名という史上最大の参加者を集めて開催されました。その6年前、千 玄室元RI理事を大会委員長として第2660地区（大阪北9、第2640地区（大阪南部・和歌山）、第2650地区（福井、滋賀、京都、奈良）、第2680地区（兵庫）の4地区共同開催とすることが決定され、近藤雅臣実行委員長以下、各地区の代表者を中心にした精鋭を揃えて準備・実行されたものでした。これまで大人数の参加者を一度に収容する開会式場・本会議場を設営できない場合に、それを二度、あるいは三度に分けて開催するという方策が用いられてきましたが、1976年、ニューオーリンズ大会で主会場にアメリカ最大の雨天球場（スーパードーム）を利用したことを先例として、全参加者を収容する巨大会場（大阪ドーム）の設営に成功したものです。

開会式では大阪フィル・関西フィル合同の大オーケストラがドームいっぱいに鳴り響く中、千 玄室大会委員長の開会宣言、太田房江大阪府知事・関 淳一大阪市長の歓迎の挨拶に続いて、ジョナサン・マジニアベRI会長が「国境のない世界平和の推進」を呼び掛けられました。ロータリー100周年を翌年に控えて「100周年プレゼンテーション」についてC.L.ダクターマン運営委員長から、「平和な世界を作るうえで重要なもの」と題する基調講演がブラッドフォード大学P.ロジャース教授から、「夢見ることが現実のものとなる」と題する基調講演がJ.L.レイシー財団管理委員長から、そして「寛大に受け入れる力を育てる」と題する基調講演が元国連難民高等弁務官の緒方貞子JICA理事長から語られました。

大会期間中には裏千家のみなさんによる呈茶席が設けられ、京都デイ、道頓堀ナイトなどで海外からの参加者をもてなしました。

93 クラブ内教育

自治体、会社、宗教団体など、人の集団によって構成される組織は組織の維持のために構成員の組織内教育が必要です（→資料 78）。ロータリーでは、会員は社会の中心を構成する人たちですから、クラブ内教育には関心があまり高くないように見受けられます。

そこで、1927~8 年に定められた「ロータリー活動の 4 路線」（Four Avenues of Service）に立ち戻って「クラブ活動」を確認します。

An Avenue of **Club Service**,
where members are educated about Rotary, where fellowship is encouraged, and where committees handle club administration.

クラブ活動路線：そこでは 会員がロータリーについて学び、
親睦が奨励され、各種委員会がクラブ運営を司る。

一般的には、クラブ活動（Club Service）とはクラブ運営のことであると認識されているようで、手続要覧の中のプログラムに“クラブ奉仕”という「章」がなくても不思議に思う人がいませんでした。しかし“Club Service”という言葉が導入された当初の記述では、ここでの中心活動はロータリアンに対する教育であると記しています。

Club Service で最も重要なのは「教育活動」なのです。

ロータリーは、過去に世界中で行った素晴らしい業績を会員に認識させること（歴史教育）によって、会員の意識高揚を図り、帰属意識を高める努力を十分に行っているのでしょうか。ロータリアンであることに誇りを持っている会員には、退会防止策などという小手先の手法は必要ないと考えられます。歴史的なロータリーの業績を伝承し、現在世界で、地区内で行われている優れた奉仕活動の状況をロータリアンに伝えることは、クラブの活動だけでは難しいと考えられるので、冊子発行などを通じて地区が企画し実行すべき内容ではないでしょうか。

ロータリー研究会は、RI 理事がそれぞれの属する地域で、現、元ならびに次期役員を招集して、ロータリーを研究し、その地区の意向をまとめて RI に報告するとともに、RI の考えを正しく伝えようという主旨で、RI の求めによってつくられた研究会（→資料 54）です。

我が国では 1972 年 12 月に第 1 回研究会が京都で開催されましたが、その後、各地で毎年開催されて、第 39 回（2010 年）、第 40 回（2011 年）が 2 年連続で大阪にて開催されました。

参加者がパストガバナーを中心に、ガバナー、ガバナーノミニーと、少数のゲストに限定されていて、管理面の責務または権限を有さない情報提供のための会合であると規定されていますが、最近では、研究会のプログラムの一部が「ロータリーの友」誌やインターネットを通じて公開されて、多くのロータリアンの目に触れるようになってきました。

【定款等翻訳問題調査研究小委員会の活動】

2010 年には全国ガバナー協議会が定款“Object 翻訳問題”を取り上げる委員会を立ち上げました。この委員会は定款 Object 翻訳文に関して、2010 年に全国 RC の意識調査結果（→資料 57）を、2011 年には委員会の新翻訳案（→資料 58）をロータリー研究会に提示し、そして 2012 年にはその後の経過（→資料 59）を公表しました。

東大阪みどり RC は、2004 年以来、邦文定款第 4 条（Object）翻訳上の疑問点を取り上げて、全国のロータリアンにアピールしてきましたので（→資料 96）、この委員会の発足当初から接触を受け、委員会が必要とする資料の検索・提供など、全面的な協力をしてきました。しかし私たちの主張（→資料 97, p.184）とこの委員会が到達した結論（→資料 58）との間には、次頁に示すような大きな乖離があり、この問題の解決は、現代英語を身に着けた次世代のロータリアンに託すことになりそうです。

「定款等翻訳問題調査研究小委員会」提案の定款 Object (目的) 邦文

ロータリーの目的は、意義ある事業 (1) の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には次の各項を奨励することにある：

1. 知りあい (2) を広めることによって (イ) 奉仕の機会とすること；
2. 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事 (3) はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会として (ロ) ロータリアン各自の職業 (4) を高潔なものにすること；
3. ロータリアン一人一人が、個人として、また事業及び社会生活 (b) において、日々、奉仕の理念を実践すること (a)。
4. 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワーク (5) を通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

Object 原文 (英文) は (→ p.143, 183) を参照ください。

【翻訳上の問題点】

- ①：(1)～(5) の可算／不可算名詞 (→ p.6)、については、もうこれ以上、過去の訳文にこだわることはやめねばなりません。とくに a fellowship (団体) を“親交”と誤訳した過去の誤りをはっきりと訂正せず、“世界的ネットワーク”というような意識 (RIの禁止事項→ p.182) を用いて網掛け処理をするなど、あってはならないことです。
- ②：(イ)～(ロ) の常用省略形 (→ p.7) の語節も、現代の英和辞典に解説されています。
- ③：条項 2 は、1935 年の条文合併の (→ p.107) を考慮すると正しい構文解釈ができます。
- ④：条項 3 では、1951 年の条文の微妙な変更が無視されています (→ p.143)。
- ⑤：辞書に記載している標準訳語以外を用いるべきではありません (→ p.184)。

【小委員会の活動】

小委員会を構成されたパストガバナーの皆さまは、英語教育内容の変更 (→ p.6) 以前に中学教育を終えられた方々ですから、基本的には可算／不可算名詞をはじめとする新しい英文法を修めておられません。しかし、それぞれに深いご経験から高い英語力を有しておられるので、長年ドロ沼に陥っていたロータリー Object の翻訳文も、ここで正文になると期待していました。ところが公表された訳文 (上記) を見て驚きました。旧訳「綱領」中の誤りの多くが継承され、さらに旧訳「綱領」と新訳「目的」とをともに正訳として、その選択をロータリアンに任せるという方針を表明されるに至っては、啞然としたロータリアンが多かったようです。

どうしてこんなことになったのでしょうか・・・それは、翻訳の誤りを完全に修正することによって、過去の翻訳に携わられた方々、および旧「綱領」に基づいて指導された先達の皆さんの立場を崩してしまうことを恐れ、それを避けられたからだと推察する人たちがいます。

定款 Object の初代翻訳からすでに半世紀が過ぎています。いろいろな事情があったでしょうが、この混乱をこれ以上引きずっていくべきではありません。新しい英語を身に着けた若いロータリアンに託して、外国にも通じる Object の日本文を作らねばなりません。

手続要覧 (Manual of Procedure) の作成責任は RI 事務総長にあるため、この冊子の改訂は事務総長交代期に行われることが多いようです。記事改変が規定の新設や改定に伴うものだけでなく、それが、ロータリーの活動方針 (Avenues of Service) の解説であって、しかも大幅な変更となれば、ロータリアンに少なからぬ影響を与えることになります。

ここに取り上げるのは、2004 年版の「ロータリーのプログラム」に関する記述の大幅変更です (→資料 46)。

国内のロータリアンに配布された手続要覧・1984 ～ 2001 年版には、第 2 部 (プログラム) ー第 4 章 (ロータリーのプログラム一般)、の冒頭に次のような文章が記載されていました (→資料 44, 45)：

ロータリーのプログラムは、RI 定款第 4 条と標準 RC 定款第 4 条に掲げられている綱領の中に示されている。すなわち：

定款第 4 条全文掲載

ロータリーの奉仕の四「部門」は、この綱領の各項を反映している：クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕。

ロータリーの綱領中の 4 項目の解説は、等しく大きな意味をもつこと、また同時に行動を起こすべきものであるということに RI 理事会の意見が一致した。(ロータリー章典 26.020)

こんな内容が、本当に Manual of Procedure に記載されているのかと疑問に思って調べたところ、英文でもまさしく邦文と同じ内容が記載されていました。

そこで、「手続要覧」の第 5 章 (職業奉仕)、第 6 章 (社会奉仕)、第 7 章 (国際奉仕)、を見ると、それぞれの「章」の冒頭には、定款第 4 条第 2 項、同第 3 項、同第 4 項が記載されていて、上記枠内の記述内容を確実にしています。それゆえに国内ロータリーでは広く：

定款第 4 条 第 1 項 —— クラブ奉仕

第 2 項 —— 職業奉仕

第 3 項 —— 社会奉仕

第 4 項 —— 国際奉仕

の関係があるものと信じられ、この関係をテーマにした新人教育が行われてきました。

しかしながら、2004 年版手続要覧では、20 年間にわたって記載されてきた第 4 章冒頭の全記述内容（左頁枠内）が突如、完全に削除されたのです！！そして第 5 条、第 6 条冒頭に記されていた定款第 4 条との関係を綴った文言もすべて削除されました！……手続要覧のどこにも、第 4~6 章の記述内容を変更した理由が記載されていませんし、これまでの記述内容が間違いであったという記述もありません（→資料 46）。

——定款第 4 条成立に至る歴史変遷と翻訳の経緯を調査・検討してきた私たちのクラブ（→資料 96）では、手続要覧の記述を信じられない（→資料 98）と考えてきましたが、RI は 20 年間にもわたって間違った記述を継続したのです。その記述に従って内部教育を担当された方々、その記述が正しいと信じて行動された方々、そして、そんな教育を受けたロータリアンの方々へ与える影響は少なくないと思われます。

ロータリーは、他の（学術、業界）団体などと違って、活動内容に厳しい環境・条件がないためか、間違いはなるべく表立った取扱いをせず、そのまま過去の中へ押しやって、済ませてしまおうとする傾向があるように見受けられます。ロータリーが近代的な団体であるためには、このような問題の処理法にも近代的な手続きを取るべきではないでしょうか。そのために機関紙「ロータリーの友」もあれば、ガバナー月信も定期発行されていると思います。

“ロータリーの友”2010年11月号にケイト・ノーラン著「ポリオの第二の行為」という The Rotarian 誌 2010年9月号からの翻訳記事が掲載されました（→資料 75）。内容は、ポリオに感染して四肢の一部が麻痺した幼児が10数年経過した後に、麻痺の範囲が拡大したり他側に広がったりする現象＝ポストポリオ症候群についてのかなり詳しい解説です。しかしこのタイトルは理解できませんので、The Rotarian 誌の記事（→資料 74）を確認しましたところ、そのタイトルは“Polio's second act”（ポリオの第二幕）だったのです。さらに驚いたことに、本文中に、医学用語の誤まり、誤訳、一部翻訳放棄、国名脱落などがあり、そして最後にロータリーとして放置し難い“問題文章”までもが存在しました（次頁）。

2012年4月、当クラブから編集室へ、詳細な内容を記した問題提起書を送り、同一の書状を「友」誌社員6名、代表理事、RI日本事務局、定款翻訳またはポリオ撲滅運動に活動されているパストガバナーの皆さま、計17名宛に発送しました。しかし、編集室をはじめとして発送先の殆どが無応答でした。2か月後の督促状にも編集室は無反応を通していましたが、さらにその3か月後になって繰り返して発送された当クラブからの書状が「友」事務所長の手元に届いたのちに、ようやく関係者に事態の重大さがわかってきました。編集委員会が開催されて、翻訳のやり直し、再掲載が決定されました（→資料 76）。

本件の問題点は、編集委員会が再掲載を決意しなければならないほどの重大な問題が発生していても、①他のクラブ・ロータリアンから何も指摘されていないこと、②編集室が不応答を続けたこと、そして機関紙への再掲載という重大決定に対して、③会員への理由説明が一切なかったこと、それに対する④会員からの苦情もなかったことです。すべてはロータリアンの、機関紙への“無関心”が原因ではないでしょうか。

平成 22 年 11 月号「ロータリーの友」に掲載された記事中の問題箇所

The Rotarian 誌原語／ロータリーの友誌訳語	修正提示案
1. Polio' s second act (タイトル) ポリオの第二の行為	ポリオの第二幕
2. a new tide of potential patients 新たな患者	潜在患者という新たな動向 (将来、患者になる予備軍)
3. spinal disfigurement 脊髄損傷	脊椎の変形 (脊髄損傷では下半身不随になります)
4. a diagnosis of exclusion 病名は想定外のものです	除外診断 (医学的常用語です)
5. The acute phase of polio ポリオの発症による激しい痛みの間	ポリオの急性期 (意識のつもりか?)
6. (ポストポリオ症候群の発症に関する神経 生理学的な説明文) が 翻訳から除外・脱落 している (英文省略)	萎縮筋肉から神経再生誘導物質が放出 され続けるために健常神経に軸索芽が発 生するメカニズムが記述されている
7. “ 軸索芽 ” 形成の説明が英文内容と全く異なる (通常文章の誤訳) (英文省略)	医学内容の誤判断ではなく、一般文 章の文法的誤処理
8. Studies of Canada, France, Norway, and Sweden カナダ、フランス、ノルウェーでの研究	スウェーデンの脱落
9. the immune system <u>ワクチン投与システム</u> *	(患者の) 免疫機構 (勝手な訳語で大問題発生!)

翻訳者に医学的知識が欠如しているのは仕方ないことですが、それならば何故こ
のようないい加減な訳語・訳文をロータリーの「機関紙」に掲載したのでしょうか？

自分の知識について多少でも疑問があれば、専門家に相談したり、査読依頼がで
きた筈ですから、このような文章が我が国のロータリー界に流れ出た理由が理解できません。

とくに 9 で取り上げた下記の「友」文章に重要な問題があります。

「ワクチン投与システムがポストポリオ症候群に影響を与えていたかもしれない
ことを示唆しています。」

この文章は、ロータリーが全世界で活動してきたポリオワクチンの投与が、ポストポリオ
症候群の発症原因になっているらしい・・・と言っているのです。こんな誤情報を日本全
国に流されたまま放置できないので、編集委員会が翻訳のやり直しと再掲載を決定したのです。

ところで、このような専門的な記事では査読（校閲）システムを作るべきだと提言しまし
たが、無視されました。その結果、再掲載文で次の 2 か所の誤訳が発生しました（→資料 76）。

①英連邦の看護師に対して Sister という敬称が用いられていることについて。

②ポリオの記事が歴史の本文から外れて脚注や別記扱いになっていること（印刷用語）。
ここで小さなアラ探しをしているではありません。ロータリアンも編集室も「機関紙」
に対する意識が低いのではないのでしょうか・・・それが気がかりなのです。

2012-13 年 RI 会長に、日本人として 3 人目となる田中作次会長が就任されました。2011 年にニューオーリンズ国際大会本会議で、田中氏に会長指名があったとき、氏は受諾講演の中で「私にとって『チャレンジ』は最も重要な言葉です。チャレンジすることで意欲を燃え立たせ、自分の力を最大限に引き出し、多くを成し遂げることができます」と述べられ、ロータリーの「世界でよいことをする」能力を飛躍的に向上させようと呼び掛けられました。

田中氏は、家庭紙卸売業の（株）タナカの代表取締役を 32 年間務められた後、日用品雑貨卸売販売業の（株）ダイカと合併し、活動の地域である八瀬市商工会の副会長の任に就かれました。その後、商圈を全国展開するために（株）あらたの相談役に就かれ、その間、全国家庭紙同業会連合会の会長に押されて 8 年間、会長を務められました。

1975 年創立の八瀬 RC のチャーターメンバーとしてロータリー活動に入られ、以後、1994-95 年第 2770 地区ガバナー、1996-98 年ロータリー財団地区コーディネーター、1997-98 年 RI 国際協議会トレーニングリーダー、などの要職に就かれ、地区大会の RI 会長代理を（海外 4 回を含めて）13 回務められました。その他、ロータリー関連業務の中で主だった役職を列挙すると、RI100 周年記念事業基金委員会（2001-2）、RI 社会奉仕プログラム委員会、ビチャイ・ラタクル RI 会長主催アジア平和会議副委員長（2002-3）、国際ロータリー理事（2003-5）、ロータリー・センター委員会連絡担当理事（2003-5）、ロータリー財団未来の夢委員会（2005-10）、ロータリー財団資金開発委員長（2007-9）など……

ロータリー平和フェロシップ基金を設立した田中氏は、夫人とともにポール・ハリス・フェロー、恒久基金ベネファクター、メジャードナーの称号を与えられています。

98 ロータリーの未来を眺める

ロータリーの将来の展望について、ポール・ハリスの後、第2代RI会長に就任したグレン・ミードは「将来の扉を偉大な有用さと奉仕のために広く開けておく道以外、いかなる道も考えることができません」と述べています（→資料6）。それが今日のロータリーの枠組みを形成し、繁栄を招いたであろうことに異論をはさむ者はいないでしょう。

しかし現在、多くのロータリアンがそれぞれの方向を向いてそれぞれの展望を描いたとして、それがいつも強力な1本の索にまとまることはありません。

ロータリーには過去と現在を結ぶ太い線があります。その線を歴史と言います。そしてその歴史の線上に立って、現在からその先をみるときその延長線上に未来が存在します。時間経過は現在の地点から360度方向に広がっていますが、昨日が今日の過去であり、今日は明日の過去であるように、未来は歴史の先にしか存在しないのです（→資料50）。

ロータリーには輝かしい発展の歴史があり、誇らしい活動（業績）の歴史があります。しかし過去のロータリアンは自分たちの業績を指差して胸いっぱい語ることに控えめで、謙虚であり続けました。一般社会に対して控えめであるだけでなく、ロータリー内部に対しても控えめでありすぎたように思えます。歴史教育の不備が、次世代を担うロータリアンに“誇り”と、“帰属意識”を養うという組織維持のための最低の使命を見失ってきました。ロータリーの先達の使命は教育者であることであり、“奉仕の理念”の教育者としての活躍こそが期待されています。

ノーベル平和賞受賞者で名誉ロータリアンのアルベルト・シュバイツァー博士が語っています。「皆さんの将来で一つだけわかっていることがあります。皆さんの中で心から幸せでいられる人は、他人を幸せにする（奉仕する）方法を考えて実行している人だけです」（→資料5）。

99 ヴォケイション（『職業』）活動 Vocational Service ——概念の変遷

国内外の多くのリーダーが「職業奉仕（Vocational Service）は他の奉仕団体にはない固有の理念であり、ロータリー活動の神髄である」と語ってこられました。しかしながら、それが「定款」や「手続要覧」のどこに書いてあるのかとなると、その説明がありません。

一方、ロータリー 100 周年記念誌「奉仕の一世紀」には、『永年にわたり、ロータリアンにとって職業奉仕を簡潔に定義することは容易くはなかった。ロータリアンはクラブ奉仕で培う仲間意識、社会のニーズのために奉仕する満足感、国際奉仕が世界平和に貢献するという期待に喜びを見出してきたが、職業奉仕は説明しにくかった。……このため、職業奉仕は「忘れられた奉仕部門」と呼ばれることもあった……』（→資料 5）と記しており、RI の中心にいた人たちですら、Vocational Service を解りやすく解説することが難しいように見えます（→資料 70）。

また「職業奉仕」という翻訳語は、ロータリアンを初め、多くの人々に誤解を与える言葉です（→資料 62）。自分のための「職業」が他人のための「奉仕」のテーマになり得るのかという疑問（→資料 64）や、収入を求める「職業」と収入を求めない「奉仕」という、逆方向のエネルギーを持つ言葉を重ねた難しい概念の処理に難渋しているロータリアンが多いようです（→資料 99）。

（1）Vocational Service：歴史的解釈

ヴォケイション活動（Vocational Service）という言葉が最初にロータリーの文献に登場したのが 1927 年で、それは大英帝国・アイルランド内 RI から 3 路線の活動計画＝「目標設定計画」が RI へ提案されたときでした（→資料 5）。

翌年 1 路線が追加されて、ロータリー活動の 4 路線（Four Avenues of Service）と称されるようになったとき、その活動路線の一つに Vocational Service が存在しました。その原点に立ち戻って説明文を眺めることにします（→p.97, 105）。

An Avenue of Vocational Service,
where members connect the ideals of organization—ethics, service,
the drive for leadership excellence—with their trade or profession.
ヴォケイション『職業』活動路線、そこで会員は倫理、奉仕、指導力
向上という組織の理念と各自の職業とを結びつける。

(英文は英語原版 A Century of Service より引用)

1920年代はロータリーが素晴らしい勢いで世界展開していった時代で、人種・政治体制・宗教の異なる多数の人たちがロータリーに参加しました(→p.94)。そこでロータリーを結成し、国際 RC 連合会の中枢を構成するようになったピューリタンたちは、ピューリタニズムの原点である Vocation をロータリー活動(Four Avenues of Service)の中にセットして、自分たちの活動の源流を示したのだと考えられます(→p.105)。

それが Vocational Service という活動路線で、その名称は宗教用語でしたが、説明文では宗教色を表に出さないで「組織の理念 (the ideal of organization) と各人の職業 (trade or profession) とを結びつける」と述べています。

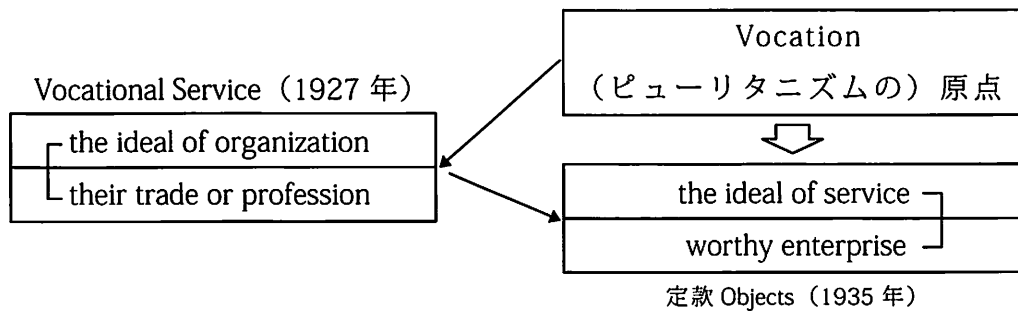
次に、定款上で service の理念 (the ideal of service) が一本化されて、内容が整備された 1935 年の定款 Objects の文章を検討します(→p.36)

The Objects of Rotary are to encourage and foster the ideal of service
as a basis of worthy enterprise. . . .

ロータリーの目的は、価値ある企業活動の基礎として奉仕の理念を奨励
することである . . .

以下 4 項目に続く(省略)

この Objects は非常によく考えられた文章で、目的を単一化したロータリー活動(→p.106)と Vocation の神髄(→p.36)とが、その中で見事に語られています。Vocation は厳密な宗教用語ですから、それをそのまま定款の中に持ち込むことはできません。そこで service (奉仕)を含む組織の理念 (the ideal of organization) が奉仕の理念 (the ideal of service) に置き換えられ、各自の職業 (trade and profession) は、彼らの経営者的立場 (business and professional men) からすれば、同じ意味である企業活動 (worthy enterprise) に変換されて、それがロータリーの奨励する Objects の内容となりました(次図)。



ヴォケイション活動 Vocational Service がロータリー活動の神髄であるならば、当然、定款の中に記載されていなければならないと考えるのは当然のことです。ロータリーにおける Vocation 概念の歴史的な流れ（上図）を見ると、Vocational Service が、実は、定款第 4 条 Object で語られており、現代社会で実践不能な Vocation に代わって、現実のロータリーの“ideal of service”が歴史を通した「理念」になっていることが理解できます。

—— 第二次世界大戦終了後、あるいはロータリー創立 50 周年のあたりから、ロータリーの中心の人たちに世代交代が起こってきました。その過程の中で、多くのロータリアンにとって、Vocational Service がわからなくなってきました（→ p.178）。その結果、現代のロータリアンは、宗教用語を用いなくて Vocational Service を語った定款 Object の中の先人の苦労にも気が付かなくなっているようです。

（２）Vocational Service：RI の混乱

Vocational Service が 1927-8 年の後、文字として登場したのは Manual of Procedure (1954 年創刊) 一手續要覧 (1960 年創刊) の中でした。

【手續要覧】： 創刊号より 40 年以上にわたって、Vocational Service（職業奉仕）の「章」には定款第 4 条第 2 項との関係が記述されていました（今世紀になって全面削除→ p.172）。そして 1984 年より 20 年間には、これに加えて次のような文章が記載されていました（→ 資料 44、45）。

Vocation（職業）という言葉は社会人の「定職、稼業、事業、専門職務、あるいは業務」を指すものである。ロータリーは職業奉仕という言葉を使用するに当たって、Service（奉仕）という文字をその一番広い意味で使っており、単に事業或いは専門職務における取引行為や販売された商品を指すのみではな

く、相手のニーズと境遇に対して正当な考慮を払い、他人に対しいつも思いやりの心をもつことも指しているのである』……果たしてこの文章をまともに理解できたロータリアンがいたのでしょうか。

さらに手続要覧には「職業奉仕に関する声明 (Statement on Vocational Service)」(1987 年理事会) と、「ロータリアンの職業宣言 (Declaration of Rotarians in Businesses and Professions)」(1989 年の規定審議会で採択) の全文が掲載されるようになりました。不思議なことに、ここでは Vocation (ヴォケイション) と Business and Professions (職業) が同等に扱われているように見え、「声明」、「宣言」とともに“雇主と従業員との雇用関係、同業者との競合関係などの労働問題”が取り上げられていて、これが RI の言う Vocational Service なのか、と驚きをもって眺めるほかありませんでした。

【その他の記述】 シェルドンの主張を“ロータリー思想”として解説した小堀憲介 (→資料 28) や、「声明」や「宣言」を引用して、労使関係や同業者関係に至る内容を記述した D. C. フォワード (→資料 5) など、ヴォケイション活動の解説には根本的な混乱が見られます (→資料 34)。“ロータリーの友”紙上でも、労使問題 (→資料 64) や職業倫理 (→資料 65, 66) に関連する論文が多数出現しましたが、邦訳「職業奉仕」には中心理論が欠如しており、今日まで混乱状態で推移してきました (→資料 48, 55, 56, 63, 65, 66, 67, 68)。——時が移って、人がかわると、同じ組織・同じテーマであってもその内容が変化して、当初の内容・方針を維持できなくなることがある (→資料 78) ことは、すでに指摘されていることですが、RI 以下、世界のロータリアンの現状にはいささか落胆以外の何ものもありません。

(3) Vocational Service: 原点回帰の兆しと新たな疑問

2013 年版手続要覧では、「職業奉仕」に関する説明文がわずか 3 行あまりとなり、さらに、「声明」文も「宣言」文も削除されたため、20 年ぶりに労使関係や同業者競合などに関する記述が消滅しました (→資料 47)……。

そして、2014 年 1 月の RI 理事会で、Statement on Vocational Service (職業奉仕に関する声明) は定款第 4 条 Object の第 2 項との関連をもって、大きく修正されました。

Vocational Service is one of Rotary's Avenues of Service. Vocational Service calls every Rotarian to;

- aspire to high ethical standards in their occupation(1)
- recognize the worthiness of all useful occupations(2), and;
- contribute their vocational(3) talents to the problems and needs of society.

「ヴォケイション活動」はロータリーの活動路線の一つである。

「ヴォケイション活動」はロータリアン各自に以下のことを求める；

- 職業 (1) 上の高い倫理基準を達成すること；
- 役立つ仕事（奉仕活動）(2) はすべて価値あるものと認識すること；
- 社会からの問題や求めに対して “ ヴォケイション能力 ” をもって寄与すること。

この文章は従来の「声明」と同じ3項目ですが、内容から雇用主、従業員、同僚との関係、といった労働内容が完全に除去されました。英文での注意点は：

(1)their occupation: their（複数）の occupation（単数＝不可算名詞）ですから“職業”を意味し、定款 Object 第2項と同じ内容です（→ p.187）。

(2)all occupations: 明確に可算名詞（…で行った仕事）であって、定款 Object 第2項に同じフレーズがあります（→ p.187）。

(3) 社会に寄与するための仕事は、報酬を目的としない vocation という単語を使用していて、報酬を伴う occupation と区別しています。ロータリー活動の一環として行う職業活動の中でも、この部分は必ず無償活動なのです。——第(3)項でやっと vocation という単語が登場したのに、第(1),(2)項に2004年に削除された定款 Object 第2項の一部が出てくるのはどういうことでしょうか（→ p.172）。この2項に関係する定款条文の歴史は1912年までさかのぼることができ、Vocational Service と直接的な関係がありません。半世紀以上に及ぶ RI の酪酊歩行は、ここまで来るとさすがにウンザリします。

世界中の多くのロータリアンが「ロータリー活動の神髄は“Vocational Service（職業奉仕）”にある」と考えているのに、定款 Object と Vocational Service との関係を記した書物・論文が見当たらない（→資料49）というのは何故なのでしょう。本冊子での見解をもとに活発な討議が期待されます。

ロータリー活動の 5 路線、Five Avenues of Service（邦訳：五大奉仕部門）

これは、1927~8年に大英帝国・アイルランド内 RI が提案し、RI が採択した Four Avenues of Service（活動の 4 路線）に、2010 年から New Generations Service が加わったものです。5 路線のあれもこれも一緒に並列しているので、理解困難な状況が生じます。

① ロータリーの基本：「ヴォケイション活動 Vocational Service」；既述（→p.178）のごとく、Vocational Service がロータリー全体の活動理念であって、それが言葉を変えて定款第 4 条 Object に記されています。他の活動と並列ではなく、全体の上に位置するものです。当時の RI の中心にいた人たちが、ロータリーの原点であるピューリタニズムの基本理念（Vocation）を、活動方針の 4 項目の中に目立たぬように挿入したものが Vocational Service でしたから、時間経過によってそれに気づかなくなった後世の人たちの理解を難しくすることになりました。

② 内部活動：「クラブ活動 Club Service」；内部教育、親睦、クラブ運営という内務を意味していて、本来は、クラブとしての対外（奉仕）活動と並列されるものではありません。

③ 後継者養成活動：「新世代活動 New Generations Service（邦訳：新世代奉仕）：(i) かつての「手続要覧」には、第 2 部—プログラム の第 8 章に「新世代のためのロータリー・プログラム」(Rotary Programs for New Generations)(2001 年版)が記載されていましたが、(ii) 後には、第 8 章「新世代」(New Generation)（2004 年版、2007 年版）と記されました。(iii) 2010 年には、クラブ定款第 5 条に「五大奉仕部門」(Five Avenues of Service) が挿入されたため、「手続要覧」の記述も第 10 章「新世代奉仕」(New Generations Service)（2010 年版）となりました。

「章」のタイトルが変化しても記載内容は同じで、「各ロータリアンの責務は、年齢 30 歳までの若い人すべてを含む新世代の多様なニーズを認識しつつ、よりよき未来をもたらすために新世代の生活力を高めることによって、新世代に将来への準備をさせることである」と記されています……翻訳文章とはいえ、これまたわかりにくい内容です……一般論として、行政・事業・宗教を問わず、人の手になる組織・団体は新人の入会がなければ、やがては構成員の老化によって消滅して行く運命にあります。宗教団体など、“折伏”を重要な宗教行事としているところもあるほどです。ロータリーでは、若者に働きかけて立派な社会人を育てることも重要な活動ですが、その中には、将来のロータリアンを養成するという、文字になっていないが重要な使命があることを認識していなければなりません。そのために、ロータリアンは“誇りある歴史を語り、賞賛すべき活動成果を伝え”、多くの活動から若者の心を掴むよう努めなければなりません。

④ 対外奉仕活動：「社会奉仕活動 Community Service、国際奉仕活動 International Service」；ロータリーが奉仕団体であるなら、その活動を明記しているのが、1927 年に定義されたこの二つの活動です。定款上では、RI 財団による活動のみが International Service ですから、クラブが施行する海外の地域・組織支援は、社会奉仕活動 Community Service の一部として行われる「海外奉仕活動 Overseas Service」とすべきでしょうか？（→資料 47）

別 クラブ定款第 4 条

RI はかつて、定款 Object の各国語訳から、逆にその英訳文の作成を依頼したところ、元の英文にならなかったばかりか、内容も不統一になったという実験的作業を通して、翻訳には英文法を遵守し、(言語辞典にある) 標準訳語を用いて、意識を行ってはならないと表明しました。そして「意味、解釈について疑義が生じた場合、これらの規定事項に関して英語版が正文となる」という一文を「手続要覧」の冒頭に挿入して、翻訳に関する注意を促しました。

本邦ではさまざまな理由があったでしょうが、1960 年以来、半世紀以上にわたって、英文法に準拠しないで、英和辞典にない訳語を用い、意識を平然と行うという RI のために反する定款 Object の翻訳が継承されてきました。私たちは 2004 年以来、文法的解析、条文の歴史変遷、本邦における誤訳の歴史、を検討し、それを冊子「邦文定款第 4 条への疑問」(→資料 96, 93) に纏めて全国のロータリアンにアピールしてきました。これについては北海道から韓国に至る 80 名以上の方々から、ご意見と激励のお手紙・メールを頂きました。

翻訳文には日本語表現にさまざまなご意見がでるでしょうから(→資料 31)、私たちの提唱文が“正訳”であると主張するつもりはありません。しかしこの翻訳文の作成には 10 年の歳月をかけ、条文中の全単語を英和辞典で確認し、単語・熟語・文法の一部は(1956 年版英和事典を含めて) 10 冊以上の英和辞典で検索しました。その間、英語教育がご専門の大学教授と、ウィスコンシン大学で法律を学ばれて英語法律文章ならこの人と言われる弁護士、のお二方に校閲をお願いし、また貴重な助言を頂戴しました。

既に詳細な冊子を作成していますので、ここでは要点を記すことにします。

ロータリー・クラブの定款は Constitution of Rotary Club とされていて、この単語は国レベルでは“憲法”を意味しますので、ロータリーにあっては、最も基本的かつ最高位にある規則です。周知のごとく、その第 4 条 (Article IV) は「目的」(Object) と記されていて、RI の定款第 4 条と同文で、そこにロータリーの設立趣旨が述べられています。

この第4条は最初の文字 The Object から第4項の末尾 the ideal of service. まで途中にピリオドが無い一つの文章を形成しています。即ち、全体にコンパクトでたいへんキリッとした英文になっています。

Article IV Object

The Object(a) of Rotary is to encourage and foster(b) the ideal of service(c) as a basis of worthy(d) enterprise(1) and, in particular(e), to encourage and foster :

First. The development of acquaintance(2)

as an opportunity for service(イ) ;

Second. High ethical standards in business and professions(f) ; (A)

the recognition of the worthiness(g) of all useful occupations(3) ; (B)

and the dignifying(h) of each Rotarian's occupation(4) (C)

as an opportunity to serve society(Ⅱ) ;

Third. The application(i) of the ideal of service in each Rotarian's personal, business and community life(j) ;

Fourth. The advancement of international understanding, goodwill and peace through a world fellowship(5) of business and professional persons(k) united in the ideal of service.

第4条 目的

ロータリーの目的(a)は価値ある(d) 企業活動(1)の基礎として奉仕の理念(c)を奨励する(b)こと、詳しくは(e)、次の各項を奨励することである:

1. 奉仕の機会があれば(イ)、交友関係(2)を発展させること;
2. 社会に奉仕する機会があれば(Ⅱ)、職業(f)上の高い倫理基準を保ち(A)、
(奉仕に)役立つ仕事(活動)(3)はすべて価値あるもの(g)と認識し(B)、
そしてロータリアン各自が行った仕事(活動)(4)に誇りをもつ(h)ことC);
3. ロータリアン各人は、個人的、職業的、および社会の一員としての生涯(j)を通じて奉仕の理念に専心する(i)こと;
4. 奉仕の理念に結ばれた職業人(k)の世界的な団体(5)を通して国際的な理解、親善、平和を促進すること。

【英文解釈に必要な文法事項】

①可算／不可算名詞 (1, 2, 3, 4, 5) : 我が国の英和辞典に初めて採用されてから 50 年、中学英語教育に取り入れられてから 40 年になります (→ p.6)

②常用省略形 (イ, ロ) : First と Second の末尾にある英語特有の文章形式で、我が国の英和辞典に記載されてから 40 年が経過します (→ p.7)。

③ Second に (A+B+C) × (D) という構文が見られます。本稿は 1935 年に、それ以前の条文の 2 項目を合併してできた項目 (→ p.107) なのです。——わが国のロータリーでは半世紀にわたって、明白な誤訳に気付かなかっただけでなく、誤りを積極的に修正する姿勢を示さなかった歴史 (→資料 51,52) があります。これ以上放置せず、正確な翻訳文にしなければなりません。

【主文】

(a)Object : あらゆる英和辞典を探しても、この単語に「綱領」という意味はありません。RI定款に Purposes と Object という章があるために、前者を「目的」、後者を「綱領」としたとの説明がありますが、この訳語を用いることは間違いです。学術団体、同業団体、ライオンズ・クラブを含む任意団体の 23 団体の定款を調べましたが、定款中に「綱領」という条項を有するものはロータリー以外にありませんでした (→資料 96)。

(b)encourage and foster : 両単語ともに「奨励する」という意味があり、英語によく見られる類似語を重ねた強調表現であるとみなされます。

(c)ideal of service : ideal が最高の概念を表す「理念」の意で service が概念ですから「奉仕の理念」が正しい日本語です (→ p.10)

(d)worthy, (g)worthiness : 「価値ある」、「価値あるもの」というのが、英和辞典に記された標準訳語です。

(e)in particular : 直前の言葉が複数であるか複数のものを含むもので、その中から一つを取り出して他と異なる扱いをする場合には、「とくに」と訳します。しかし、直前の言葉の解釈が難しく説明を要する場合には、「詳しくは」と訳すことになります。ここでは後者です。

(1)enterprise : 不可算名詞「企業活動」という意味です。

——主文は 1935 年に、それまでの条文の冒頭の一節と第 1 項を重ねてつくられた (→ p.107) もので、ロータリーの活動方針の一本化 (→ p.102)、およびピューリタニズムの精神 (→ p.36) が込められた、たいへん意味の深い内容をもっています。

【第 1 項】

(2)acquaintance：不可算名詞「交友(人間)関係」を意味する重要な単語です。親密度から acquaintanceship (=acquaintance) < fellowship < friendship の関係にあり、ここでは見知らぬ奉仕対象を前提にした表現です。

First の末尾にある

as an opportunity for service (イ)

Second の末尾にある

as an opportunity to serve society (ロ)

は、ともに常用省略形(→p.7)で記されています。この as は“とき”を表す接続詞です(→p.7)。

——第 1 項は、初期ロータリーの相互扶助活動に際して、商取引だけでなく人間(交友)関係をも発展させること、という内容の条文でした。1922 年(RI への移行時)に相互扶助活動が条文からも削除され、この条文となりました。奉仕に際して金品を付与するだけでなく「心」の投入を求めているのです。

【第 2 項】

(f)business and professions, (k)business and professional persons：ともにロータリアンの現実の“職業”を指しています(→p.9)。

(h)dignifying：日本語表現の難しい言葉ですが、ここでは“品位・威厳”などというよりも、ロータリーとロータリアンに最も欠けている「誇り」(自尊心)と訳すことにします。ロータリアンとしての誇りを持っている人は真のロータリアンで、退会防止問題などを語る必要がありません。

(3)occupations：可算名詞「…で成した仕事」ここでは、ロータリアンが社会奉仕活動で行った仕事(活動)を指しています。

(4)each Rotarian's occupation：この occupation は“職業”と取られがちですが、一つの文章である Object の中の第 4 章・第 2 項という限られた文言中で、occupation という同じ単語を異なる二つの意味で用いるのは、不自然です。その上、この条文では、職業という言葉は (f),(k) で別の単語を用いていますから、ここでは (3) と同じ意味で使用したと解釈します。

each Rotarian's occupation = an occupation of each Rotarian

——第 2 項は、1935 年に二つに分かれていた条項 (A) と (B + C) を一つに合併させたものです(→p.103)から、文法的にも、内容的にも文章を正しく把握することが必要です。

【第3項】

(i) application-----in : 1951年の条文改定までは、application-----to（適用する、応用する）となっていたましたが、このとき用語に微妙な変更があって、現在の形になりました。これは「心」を集中する＝専念する、専心する、という意味です。

(j) personal, business and community life : このlifeが三つの生活を意味するならば複数形livesでなければならないと思われます。しかし単数ですから、ここは each Rotarian's (personal, business and community) life とみなされ、ロータリアンの「生涯」を意味しています。

用語としては a red and blue pencil（一本の赤青鉛筆）と同じ形をとっていると理解できます。

——第3項は、1922年RIへ移行時に新しく挿入された条項です。

個人的、職業的、社会的というX, Y, Z軸からなる立体構造に、生涯という時間軸を加えた4次元構造の中で、奉仕の理念に専心するということは、まさしく vocational な生き方（Service）そのものです。

【第4項】

(5) a fellowship : 可算名詞ですから、“親交”ではなく「団体」という意味です。1921年、国際RC連合会の最終大会で挿入された条項で、「国際（奉仕）活動」は団体を通して行うという、重要な内容でした。この団体は後のロータリー財団のことで、個人活動が困難な世界的な活動を団体で行うという画期的な宣言文でありました。

—— a fellowship を“親交”と誤訳したために、我が国では凡そ半世紀にわたってロータリーはすべて“I serve”であるとの誤った考えが全体を支配してきました。いま、過去の誤訳の事実を正直に受け入れ、正しい翻訳文にしておかなければ、今後とも、誤りに対して正当な処理をしないロータリアンを産み続けることになります。

(k) business and professional persons : 上述のごとく、ロータリアンが経営者と専門職からなっていることを示す言葉で、会員に工場・商店・農場の被雇用者が含まれていないことを示しています（→ p.9）。

ロータリーの活動路線（Avenues of Service）に Vocational Service という項目があるのに、定款 Object に何も書いていないと感じる人がいるかもしれません。実は Object 全体が Vocational Service を語っているのです。

参 考 資 料

- 1) ポール・ハリス：THIS ROTARIAN AGE（米山梅吉訳：ロータリーの理想と友愛、（復刻版）．ロータリー文庫運営委員会，2007.
- 2) ポール・ハリス：合理的ロータリニズム．ロータリーの友、1月号、2020.
（The National Rotarian 1911 創刊号から転載）．
- 3) Rotary International: ポール・ハリス語録－過ぎし時に敬意を表して．1996.
- 4) ハロルド T. トーマス：ロータリー・モザイク（松本兼二郎訳、復刻版）
ロータリー文庫運営委員会，2006.
- 5) デイビッド C. フォワード：奉仕の一世紀——国際ロータリー物語（日本語訳監修 菅野多利雄）．Rotary International, 2009.
- 6) ロータリー日本史委員会：ロータリー日本 60 年史．ロータリーの友事務所，1982.
- 7) ロータリー日本略史：序章～Ⅵ，ロータリーの友，1月号～6月号，2002.
- 8) ロータリージャパン：ロータリー 100 年のあゆみ 1～11.
<http://www.rotary.or.jp/100ayumi/material>
- 9) 直木太一郎：日本ロータリー史．1971.
- 10) 直木太一郎：戦前の日本ロータリー．関西ロータリー研究会，1972.
- 11) 遠藤健三：温故知新—ロータリーの今昔．ロータリー文庫．
- 12) 前原勝樹：ロータリー進化論．ロータリー文庫．
- 13) 阿部謙夫：ロータリーの歴史．1966.
- 14) 佐々木孝三郎：遺稿集（満州におけるロータリー運動の展望、朝鮮に於けるロータリーと第 10 年次大会を回顧して）．1972.
- 15) 西條正博：戦時下を生きぬいたロータリー．
<http://kamuimintara.net/detail.php?rskey> 2000.
- 16) ハリー A. スチュワート：ロータリー 最初の 25 年間．The Rotarian, Feb. 1980.（ロータリーの友、2月号，1981.）
- 17) レランド D. ケース：苦難の時代を耐えて．The Rotarian, April. 1980.（ロータリーの友、5月号，1981.）
- 18) ジョー・ニュージェント：ロータリー最近の 25 年間．The Rotarian, June. 1980.（ロータリーの友、6月号，1981.）
- 19) ロータリー創設から確立までの背景．<http://www.greenrotary.jp/history>.

参 考 資 料

- 20) 東京ロータリー・クラブ： 東京ロータリークラブ・沿革
<http://www.tokyo-rc.gr.jp/jhis/jh01.htm>
- 21) 大阪ロータリー・クラブ： クラブの歴史. <http://www.osaka-rc.org/>
- 22) 京都ロータリー・クラブ： 京都ロータリークラブの歴史
<http://www.kyotorotary.com/>
- 23) アーサー・F. シェルドン (小堀憲助訳): ロータリー哲学, 千種会, 1992.
- 24) B. F. Collins How It Is Done in Minneapolis. The National Rotarian, 3. Vol.2, No.1, 1911.
- 25) ジョン O. ナットソン: シェルドンー 忘れ得ぬその名. ロータリーの友, 1 月号, 2011.
- 26) Chesley R. Perry : BIRTH OF AN IDEA. The Rotarian, May 1980.
(アイデアの誕生. ロータリーの友, 10 月号, 2001., 10 月号, 2005.)
- 27) 小堀憲助: ロータリー発生史. 千草会, 1993.
- 28) 小堀憲助: ロータリー思想の理論構造. 千草会, 1971.
- 29) 小堀憲助: ロータリー通解. 1989.
- 30) 小堀憲助: アーサー・フレデリック・シェルドンの生涯とその学説の特質
について. ロータリー文庫.
- 31) 田中 毅: ロータリーの綱領.
<http://www1.odn.ne.jp/caz.52570/object.htm> 2005.
- 32) 田中 毅: 詳説 アーサー F. シェルドン. 源流の会.
- 33) 田中 毅: ロータリー歴史探訪. 源流の会.
- 34) 田中 毅: 職業奉仕の理念と原点.
<http://www.genryu.org/tanaka/general/genemenu.htm>
- 35) 田中 毅: 日本ロータリー誕生
<http://www.tanaka-library.com/rshi-j.htm> 2007.
- 36) 米山梅吉記念館: 超我の人 米山梅吉の聲音. 2005.
- 37) ロータリーの定款と綱領の始まり. ロータリーの友, 2004.
- 38) Manual of Procedure: Rotary International, 1954.
- 39) Manual of Procedure: Rotary International, 1962.
- 40) Manual of Procedure: Rotary International, 1970.

参 考 資 料

- 41) 手続要覧：Rotary International, 1960 年 .
- 42) 手続要覧：Rotary International, 1962 年 .
- 43) 手続要覧：Rotary International, 1970 年 .
- 44) 手続要覧：Rotary International, 1988 年 .
- 45) 手続要覧：Rotary International, 2001 年 .
- 46) 手続要覧：Rotary International, 2004 年 , 2007 年 , 2010 年 .
- 47) 手続要覧：Rotary International, 2013 年 .
- 48) 田中作次（編集委員長）：My friend. 1998.
- 49) ロータリー情報研究会：ロータリー情報ハンドブック . 2014.
- 50) ビチャイ・ラタクル：過去に基づき未来に焦点を . ロータリーの友 , 10 月号 , 2004.
- 51) 重田政信：「手続要覧」について . ロータリーの友 , 9 月号 , 2006.
- 52) 片岡暎子：綱領という言葉は難解でしょうか . ロータリーの友 , 12 月号 , 2001.
- 53) RI 第 2660 地区：「大連宣言」. ロータリー百科事典（用語便覧 2008）.
- 54) RI 第 2660 地区：「ロータリー研究会」. ロータリー百科事典
- 55) RI 第 2660 地区職業奉仕委員会：職業奉仕のお話 . 2006.
- 56) RI 第 2660 地区研修委員会：ロータリーの心と実践・2015 年改定版 .
- 57) 鳥居 滋、他：「ロータリーの綱領」の和訳について 2. ロータリーの友 , 2 月号 , 2011.
- 58) 鳥居 滋：「ロータリーの綱領」の和訳について 3. 新バージョン「ロータリーの目的」. ロータリーの友 , 3 月号 , 2012.
- 59) 鳥居 滋：綱領等翻訳問題調査研究小委員会その後（第 41 回ロータリー研究会）. INTNT, 2013.
- 60) 二神典子：ロータリーの徽章 . ロータリーの友 , 6 月号 , 2012.
- 61) ロータリーの友 60 年のあゆみ . ロータリーの友 , 1 月号 , 2013.
- 62) 塚本義隆：サービス思想の意味するもの—その理論と背景 . 大阪ロータリー・クラブ . 1972.
- 63) 塚本義隆：むつかしくはないヴォケーショナル・サービス . 国際ロータリー第 366 地区職業奉仕委員会 . 大阪ロータリークラブ . 1976.

参 考 資 料

- 64) 深川 純一：職業奉仕の原理とその実践．第 2680 地区職業奉仕セミナー講演詳録（A4 版 41 頁）．
- 65) 深川純一：職業奉仕とは．尾道 RC・尾道東 RC 職業奉仕委員会，2009．ロータリー文庫．
- 66) 深川純一：永遠の課題 職業倫理．ロータリーの友，10 月号，2010．
- 67) 若麻績好美：職業奉仕に誇りと自信を．ロータリーの友，10 月号，2001．
- 68) 女性ロータリアンが語る職業奉仕．ロータリーの友、10 月号，2002．
- 69) 戸田 孝：ロータリーは知(STUDY)・好(行 SERVICE)・楽(ENJOY)．八尾ロータリー・クラブ，2002．
- 70) ジェームス L. レイシー：職業奉仕—それをあなたの仕事にしよう．ロータリーの友，10 月号，1998．
- 71) Rotary International：Amazing Story of POLIO, The Rotarian, No.2. 2009.
- 72) 米国医師会：最終段階を迎えた根絶計画に難題．JAMA(米国医師会雑誌) 日本語版，2002．
- 73) テレビ大阪特別番組： 感染症ポリオ 残り 1% の闘い．2011 年 7 月放送ビデオ（RI 第 2660 地区特別協力）．
- 74) Kate Nolan: Polio's second act. The Rotarian, No.9, 2010.
- 75) ケイト・ノーラン：ポリオの第二の行為．ロータリーの友，11 月号，2011．
- 76) ケイト・ノーラン：ポリオ（小児麻痺）の第二幕．ロータリーの友，5 月号，2013．
- 77) 山我哲夫：キリスト教．洋泉社，2011．
- 78) 堺屋太一：組織の盛衰．PHP 研究所，1994．
- 79) S. フロイド：自我論．フロイド選集 4(井村恒郎訳)，日本教文社，1960．
- 80) 細入藤太郎：アメリカ知識階級．コバルト社，1948．（守田則一からの私信を通じて）
- 81) 守田則一(福岡イブニング RC)：私信——（水野清志：ニーチェを読む、南窓社，1999.）を含めて．
- 82) マックス・ウェーバー：プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神．（中山 元訳）、日経 B P 社，2010．

参 考 資 料

- 83) 刀根 莊兵衛 (敦賀 RC. 2016~17 年第 2650 地区ガバナー): 私信
- 84) ベッツィ・サンダース: サービスが伝説になる時 (和田正春訳).
ダイヤモンド社, 1996.
- 85) R. スペクター、P.D. マッカーシー: ノードストローム ウェイ (犬飼
みずほ訳). 日本経済新聞社. 1997.
- 86) 鈴木 透: 実験国家 アメリカの履歴書. 慶応義塾大学出版会, 2003.
- 87) 森本あんり: 寛容論の中世的本義と現代的誤解—アメリカ・ピューリ
タニズムの歴史から. 同志社大学公開講座.
www.cismor.jp/university/lecture-archive/
- 88) 森本あんり: 中世的寛容論から見たニューイングランド社会の政治と宗教.
<https://icu.repo.nii.ac.jp/index.php?>
- 89) ピューリタン: <http://1000ya.isis.ne.jp/0620.html>
- 90) ニューイングランド: <http://ja.wikipedia.org/wiki/>
- 91) 北米イギリス植民地帝国史: <http://www.kaho.biz/hokubei/c.html>
- 92) 有賀夏紀、油井大三郎: アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と
現実. 有斐閣、2003.
- 93) アメリカ合衆国の歴史: <http://ja.wikipedia.org/wiki/>
- 94) 松尾一之: 「アメリカ 50 州」の秘密. PHP. 研究所、2009.
- 95) アメリカ移民史: <http://www.marine.ne.jp/>
- 96) 東大阪みどりロータリー・クラブ: 邦文定款第 4 条への疑問. 第 16 版 ~
第 22 版, 2006~2009.
- 97) 東大阪みどりロータリー・クラブ: 邦文定款第 4 条への疑問. 第 23 版,
2011.
- 98) 東大阪みどりロータリー・クラブ: ロータリーの慣例・規則・概念はどの
ように成立してきたか. 2012.
- 99) 東大阪みどりロータリー・クラブ: Ministock of Knowlege ロータリーの
歴史. 2015.

あ と が き

例会毎にロータリーの歴史を語るというクラブ研修プログラムが、3年余りの時間経過の中で終わりに近づいたとき、次の二つが心残りとなりました。

【業績集の欠如】 さまざまな組織・団体・企業などの歴史を綴った書物を見ると、その組織が挙げてきた成果（業績）が誇らしげに記されており、「業績集」が多く歴史書の主要部分を占めています。ところがロータリーには、地区にも、国単位にも、そして国際ロータリー（RI）にも、多くの誇るに足る奉仕活動が行われてきたにもかかわらず、それらをまとめた「業績集」が存在しないのです。

「歴史に学ぶ」冊子作成の参考資料として欠いてはならないものが、世界のロータリーの「業績」であると考えるのは至極当然のことですが、それが見当たりません。

近年、ロータリー先進国でのロータリアン減少が話題になり、我が国でも、会合の多くの時間が会員の退会防止に向けられています。しかしそこで、ロータリアンの“誇り教育”の必要性が話題になったことはありませんでした。ロータリーでは、会員に対する“優れた業績の伝承”と、“誇りある歴史教育”が行われてきたでしょうか？ クラブ活動（Club Service）の主たる活動目的が会員教育であることは、規定項目を通じて解説しました。ロータリアンがロータリアンとしての誇りと、十分な帰属意識を持っているならば、退会防止策など話題にもならないと思われます。

この冊子が、“今後集積されたロータリーの業績掲載のために改訂を急ぐ”そんなときが来ることを願っています。

【責任者不在】 ロータリー活動には中心人物がいるが、責任者がいないという声があります。ロータリーの役職は、クラブでも、地区でも、そして RI ですら、原則、単年度制で、直前・直後の役員担当が付随しているものの、本質的に単年では役員の責任意識が希薄になりがちです。

一方、職員は長期間にわたって職務についているため、ロータリーの慣習・内情を熟知するようになり、事務職員への依存の度合いが高くなると、事務職員中心の動きがみられることがあります。その際、何らかの問題が発生しても、役職者あるいは監査役のロータリアンがその職務を全うしていないことが問題になったことはありません。RC 事務所、地区事務所、RI 日本支所、機関紙発行事務所等にいくつかの事例があり、その最大の問題が RI 事務所にあるように見受けられます。RI が世界に向けて発信する重要情報である Manual of Procedure（手続要覧）の記事内容に問題が発生しても、修正までに年数を要し、修正をすればそれでおしまいという処理が行われてきました。

ロータリーは制度的に責任者不在ですから、発生した間違いや問題点を会員の前に明らかにするという仕組みがなく、それをそのまま過去の暗闇の中に押し込んで、それで歴史的な処理を終えるという傾向が強いようです。制度上、反省の機会がないために、制度・機構・活動方針に進歩が見えてきません。

ロータリーの組織近代化のためには、一般会員も役員もそれぞれの責任意識を高めることが必要だと思われます。



HIGASHI-OSAKA MIDORI ROTARY CLUB

ロータリーの歴史に学ぶ

東大阪みどりロータリー・クラブ

編纂・出版委員会

草稿・編集委員長 山片 重房

委員	谷垣 悦夫	清水 宏彦	石渡 善一
辻 茂	土井 健一	山本 昌宏	北井 孝彦
阪田 克英	杉森 隆志	小寺 史郎	島 啓介
井上 善博	西村 俊彦	北山 治信	後藤 正憲
中岡 則和	竹内 靖剛	松ヶ下 由行	政岡 政広
村上 靖平	植田 稔久	谷口 明	木戸 章由

「ロータリーの歴史に学ぶ」

2016 年 2 月 初版発行

編纂・発行 …… 東大阪みどりロータリー・クラブ

〒 540-0007 大阪市中央区馬場町 1-8

メゾン・ド・ヴィレ大阪城公園前 402 号室

TEL:06-6945-1800 FAX:06-6945-1808

HP …… <http://www.george24.com/~midorirc/>

Mail …… midori-rc@george24.com

印刷 …… 株式会社 ジェイ・エム

〒 615-8045 京都市西京区牛ヶ瀬南ノ口町 21 番地

TEL:075-394-7211 FAX:075-394-7222